RSV 1000 R - RSV 1000 R FACTORY

aprilia part# 8104955

use+maintenancebook

第一版： 2005 年 12 月

再版： 2006 年 9 月 – A

発行と印刷：
VALLEY FORGE DECA
Ravenna , Modena, Torino

DECA s.r.l.
登録事務所および管理部
Via Vincenzo Giardini, 11
48022 Lugo (RA) - ITALY
Tel. +39 - 0545-216611
Fax +39 - 0545-216610
www.vftis.com
deca@vftis.spx.com

監修：
Piaggio & C. S.p.A.
via G. Galilei, 1 - 30033 Noale (VE) - ITALY
Tel. +39 - 041 58 29 111
Fax +39 - 041 44 10 54
www.aprilia.com

安全に関するお知らせ

本マニュアル中使用されている以下のメッセージ表示は、それぞれ次のようなことを表します：

⚠ 安全に関する警告のマークです。このマークが車体もしくはマニュアルに記載されている場合には、傷害の危険がありますので注意してください。このマークのあとに記されている事項を遵守しないと、あなた自身の、他者のもしくは車体の危険を招きます。

⚠ 危険

重大な傷害もしくは死亡の危険性があることを表します。

⚠ 注意

軽度の傷害もしくは車体への損傷の危険性があることを表します。

重要： 本マニュアル中の " 重要 " という用語は、大切なインフォメーションや使用上の注意のはじめに記されています。

テクニカルインフォメーション

★ このマークの付いた操作は、車体の反対側からも行われる必要があります。

特に指示がない限り、パーツの組み付けは取り外しの逆の手順で行なってください。

"右"及び"左"という用語は車体にライダーが通常の位置で乗っていることを前提としたものです。

書類／工具入れカバーが (パッセンジャーシートの代わりに) 取り付けられている場合は、パッセンジャーや荷物などの輸送は禁止されています。

⚠ 危険

競技用走行のための調整は組織された競技会やスポーツ大会においてのみ可能であり、道路交通から隔離された場所で、管轄当局の許可のもとでのみ実施できます。

競技用走行のための調整を行った車体を道路および高速道路で走行することは、固く禁止されています。

警告 - 注意 - 一般的注意事項

エンジンを起動させる前に本マニュアルをよく読み、特に " 安全運転 " の章をよく読んでください。

ライダーおよび他の人々の安全は、ライダーの反応の素早さや機敏さだけでなく、モーターサイクルについての理解、モーターサイクルの整備状態、また安全運転のための基本的知識などに負うところが大きいのです。路上を安全に、そしてモーターサイクルを適確に操作しながら走行するために、車両を良く理解するようお薦めします。

重要： このマニュアルは車体構成の一部分とみなされ、中古販売の際にも車体とともに販売されます。

aprilia は情報の正確さ並びに新しさに関して最大限の注意を払って、このマニュアルを作成しました。しかしながら、**aprilia** 製品は常に開発改良の対象であることを考えると、お手持ちの車体の特徴と本マニュアルの記述が多少違うことがあるかもしれません。本マニュアルに記載されている情報に関するどんな疑問点も、**aprilia 社オフィシャルディーラー**にご相談ください。

このマニュアルでは詳しく記述していない点検や修理、**aprilia** 純正パーツ、アクセサリーパーツ、その他の製品の購入に関してはもちろん、技術的アドバイスについても **aprilia 社オフィシャルディーラー**にご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

aprilia 製品をお選びいただいたことにお礼を申し上げ、快適なライディングをなされるようお祈りいたします。

重要： 使用する国の現行の法律によっては、公害防止及び防音規制にのっとり、定期的検査を行う必要があります。

そのような国で車体を使用するユーザーは、以下のことを行って下さい：

- その国によって規定された部品との交換の際は、**aprilia 社オフィシャルディーラー**にお問い合わせ下さい。
- 定期的検査を規定通り行って下さい。

重要： ご購入の際、スペアパーツ認識ラベルに記載された車体識別データを下表に記入してください。スペアパーツ認識ラベルはフレームの左側にあります。読み取る際はライダーシートを取り外してください。80 ページ（ライダーシートの脱着）参照。

aprilia
SPARE PARTS IDENTIFICATION

	Y	1	2	3	4
YEAR					
I.M.	A	B	C	D	E

I	UK	A	P	SF	B	D	F	E	GR
NL	CH	DK	J	SGP	SLO	IL	ROK	MAL	RCH
HR	AUS	USA	BR	RSA	NZ	CDN			

識別データは次のとおりです：

- YEAR = 製造年 (Y, 1, 2, ...)
- I.M. = 変更指標 (A, B, C, ...)
- 国別コード = 認定を受けている国 (I, UK, A, ...)

スペアパーツやアクセサリーをお求めの際は、ご使用のモデルに合うよう、これらのデータを **aprilia 社オフィシャルディーラー**にお知らせください。

説明文中に出てくるシンボルの意味を以下に示します：

RSV R **RSV 1000 R**

RFACT **RSV 1000 R ファクトリー**

OPT **オプションパーツ**

触媒コンバーター仕様

各国向け仕様：

I	イタリア	SGP	シンガポール
UK	英国	SLO	スロベニア
A	オーストリア	IL	イスラエル
P	ポルトガル	ROK	韓国
SF	フィンランド	MAL	マレーシア
B	ベルギー	RCH	チリ
D	ドイツ	HR	クロアツィア
F	フランス	AUS	オーストラリア
E	スペイン	USA	米国
GR	ギリシャ	BR	ブラジル
NL	オランダ	RSA	南アフリカ共和国
CH	スイス	NZ	ニュージーランド
DK	デンマーク	CDN	カナダ
J	日本		

目次

aprilia

安全運転のために

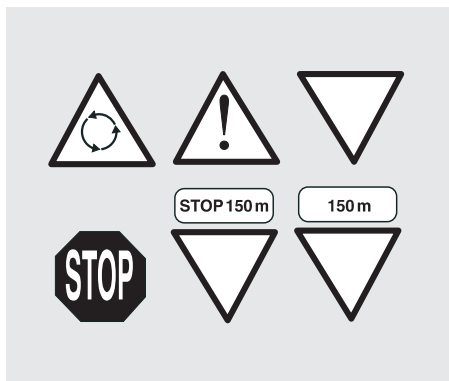
安全のための基本的ルール

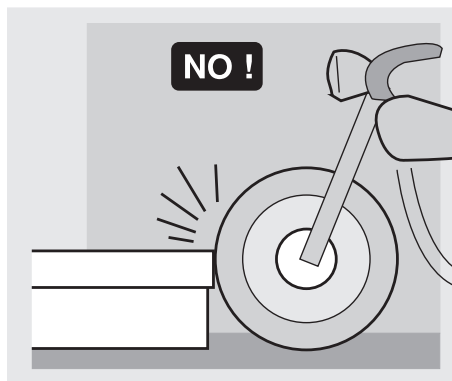
モーターサイクルを運転するには法律で定められたすべての条件を備えていること (運転免許証、有資格年令、精神的・身体的能力、保険、納税、車両の登録、ナンバープレート等) が不可欠です。

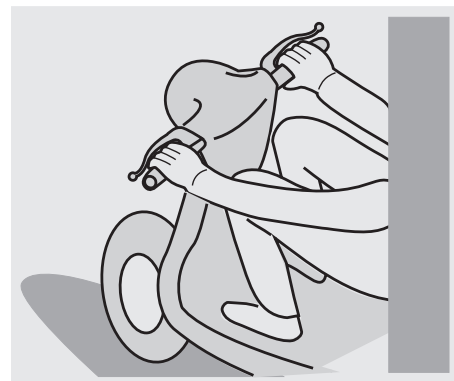
実際の運転によってモーターサイクルの特性を知り、操作に慣れるために最初は交通量の少ない地区か私有地で運転するようにお薦めします。

医薬品、アルコール、麻薬、精神安定剤などの服用は事故の危険を増大させます。ライダーは常に運転に相応しい健全な精神的・身体的状態を維持するよう、特に肉体的疲労や睡眠に充分な注意を払う必要があります。

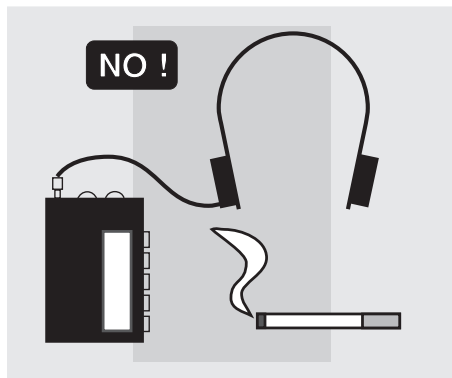
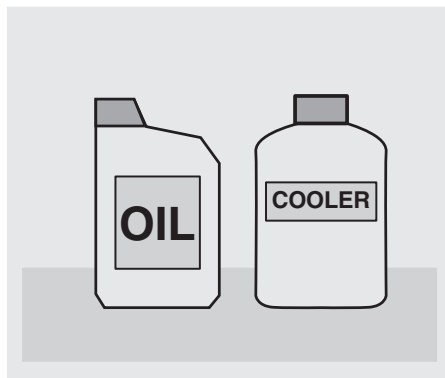
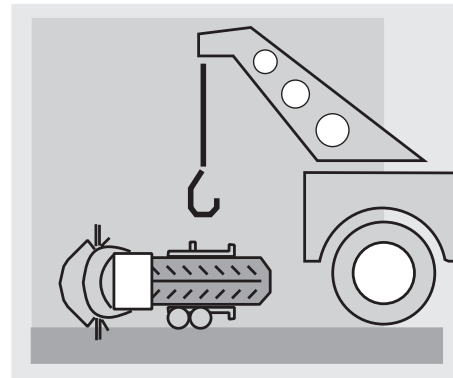
路上事故の多くはライダーの経験不足に起因するものです。

モーターサイクルを初心者に貸したりしないでください。いずれにしても、ライダーが運転に必要な資格と条件を備えていることを確認してください。

国や自治体が定めた道路交通法、交通標識を遵守してください。

ライダー自身および第三者のために、急なハンドル操作や危険な運転 (前輪を浮かせて走る、速度制限を守らない、など) は避けてください。また、常に路面や視界の状態などに注意を払ってください。

障害物を避けて走行してください。モーターサイクルに損傷を与え、コントロールを失わせる危険があります。

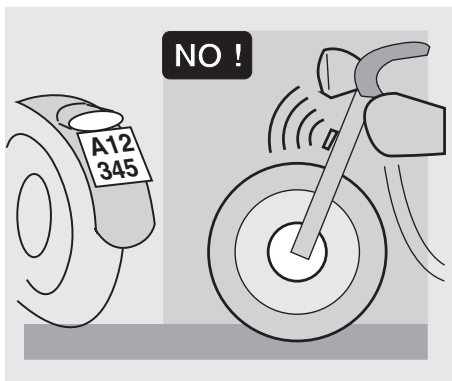
空気抵抗を減らす目的で先行車のすぐ後ろを走行するようなことはやめてください。

⚠ 危険

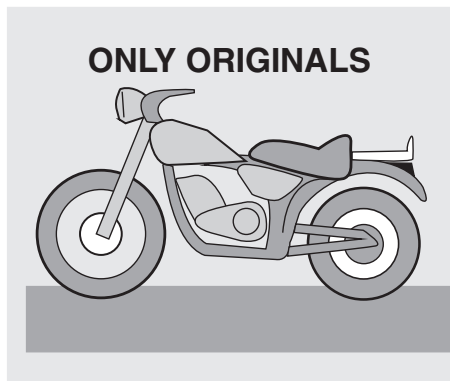
運転中は常に両手でハンドルを握り、両足をフットレストに乗せて正しい運転姿勢を保ってください。

運転中は絶対にシートから腰を上げたり、足を伸ばしたりしないでください。

運転中に周囲の人や事物に気を取られたり、他の行為(喫煙、飲食、読書など)をすることはやめてください。

燃料やオイルは指定油脂類表に示されたもののみを使用してください。また、燃料、オイル、冷却液のレベルを定期的に点検してください。

万一モーターサイクルが事故に遭ったり衝突、転倒した際は、操作レバー、パイプ、ケーブル、ブレーキ系統、重要部品などに損傷がないことを確認してください。

必要ならば **aprilia** 社オフィシャルディーラーに検査を依頼してください。フレーム、ハンドル、サスペンション、安全装置、ユーザーでは正常な状態か判断しにくい部分などを念入りに点検します。

テクニカルサービスの調整、修理作業を万全に行なうために、どのような不具合も漏らさずお知らせください。

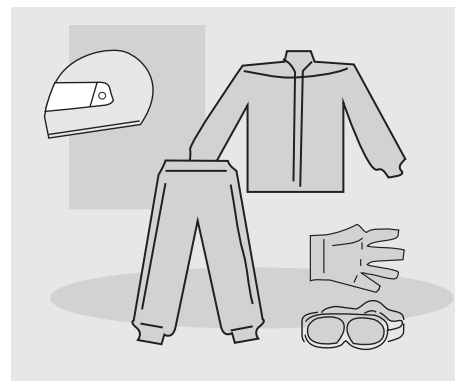
安全走行に支障をきたすような損傷を受けたモーターサイクルは絶対に運転しないでください。

次のような部品の取り付け位置、傾き、色などを絶対に変更しないでください：ナンバープレート、ウィンカーライト、ヘッドライト、警告ホーンなど。

車両を改ざんした場合は正規保証外の扱いになります。

改造されたり、オリジナルパーツを取り外されたモーターサイクルは本来の性能を失うだけでなく、安全性を損ない、法律に触れることがあります。

国や自治体が定めた車両規定に従うようお薦めします。

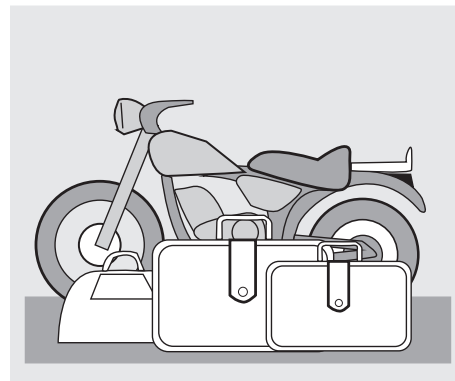
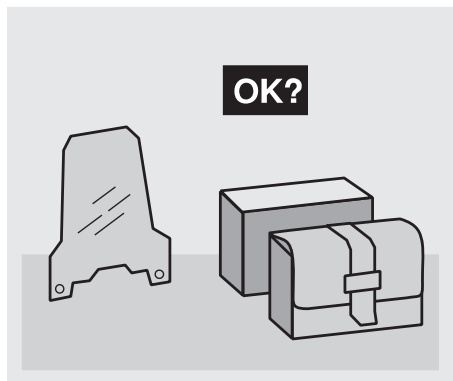
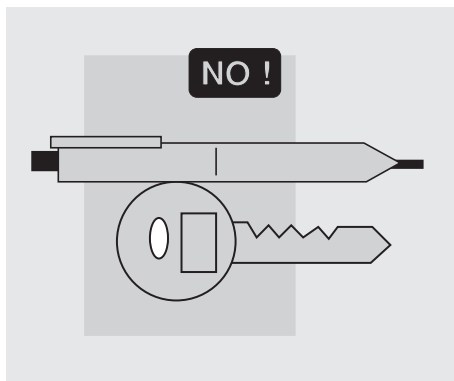
モーターサイクル本来の仕様を変更したり、性能を向上させるための改造は絶対にしないでください。

他の車両との競争をしないでください。

道路外での走行を避けてください。

服装

走行前にヘルメットをしっかりと着用してください。なお、ヘルメットは保安基準認定品で、損傷などがなく、形やサイズが適したものであり、バイザーに汚れのないことを確認してください。

服装は身体を保護する服を着用してください。他の運転者から良く見える様に明るい色か反射素材のものをお薦めします。衝突される危険が減るだけでなく、転倒した際にも身体を保護します。

服装は身体にぴったりするもので、手首、足首の部分が締まる形のものをお薦めします。紐、ベルト、ネクタイなどが緩んで走行中に可動部分に巻き込まれ、運転に支障を及ぼすことのないよう注意してください。

転倒の際に危険となるようなものをポケットに入れないでください。例えば：キー、ペン、ガラス瓶など、先の尖ったもの。(パッセンジャーについても同様です。)

アクセサリー

モーターサイクルのオーナーはアクセサリーの選択、取り付け、使用について責任があります。

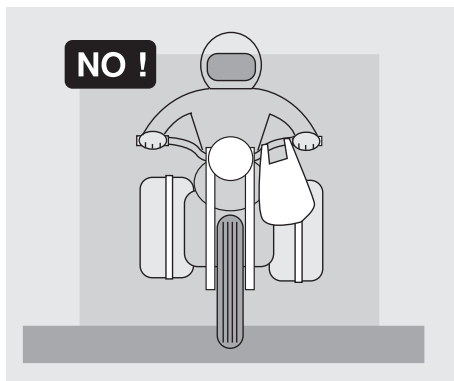
取り付けの際には、ライト、警告ホーンを覆ったり、機能を損なわせたり、サスペンション・ストロークやステアリングの角度を制限したり、操作系の動作を妨げたり、車高を下げたり、カーブでの傾斜角を小さくさせるようなことのないよう注意してください。

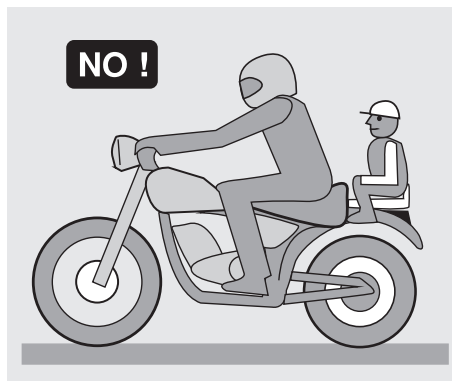
運転操作の邪魔になるようなアクセサリーの使用は避けてください。緊急操作の際の反応時間を遅らせ、事故の原因になります。

大型のフェアリングやウィンドスクリーンを取り付けると、空気抵抗が増し走行中に車体の安定を失う危険があります。

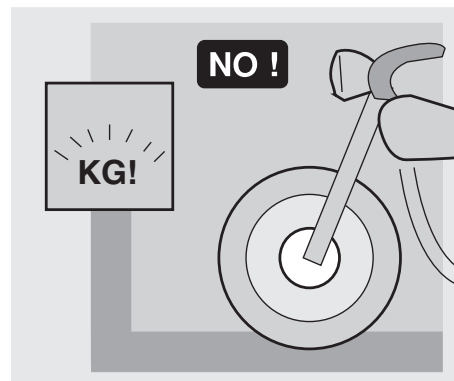
全てのアクセサリーが車体にしっかりと固定され、走行に危険がないことを確認してください。電流容量を超えるような電装パーツの追加、電気系統の改造はしないでください。電気的負荷が過重になり、モーターサイクルが突然停止したり、ライト類や警告ホーンの動作に必要な電流が不足する危険な事態を招きます。**aprilia** 純正アクセサリーをお使いくださるようお薦めします。

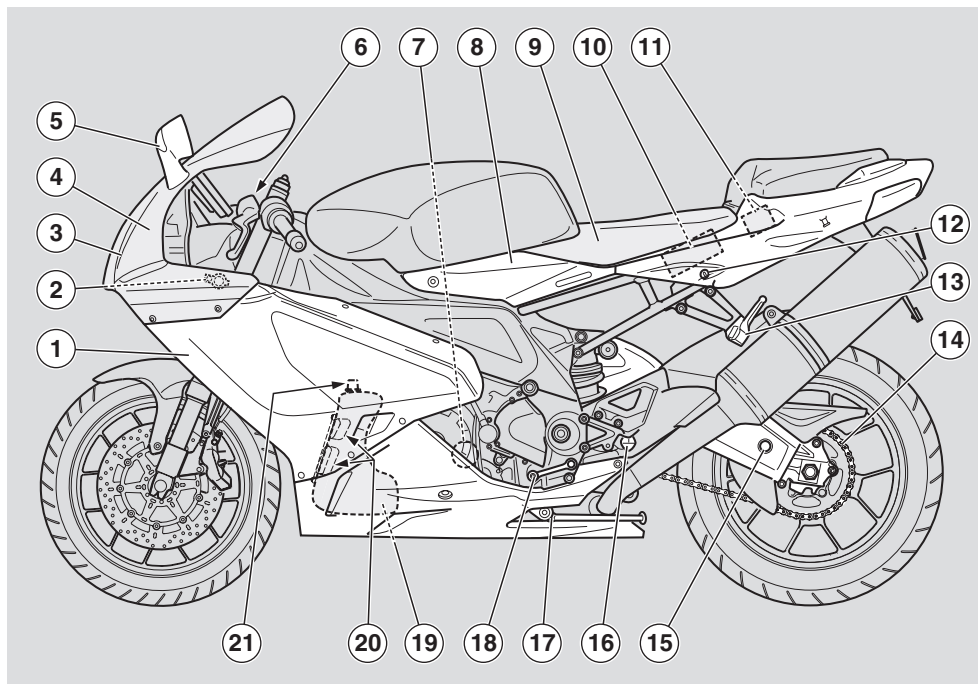
荷物

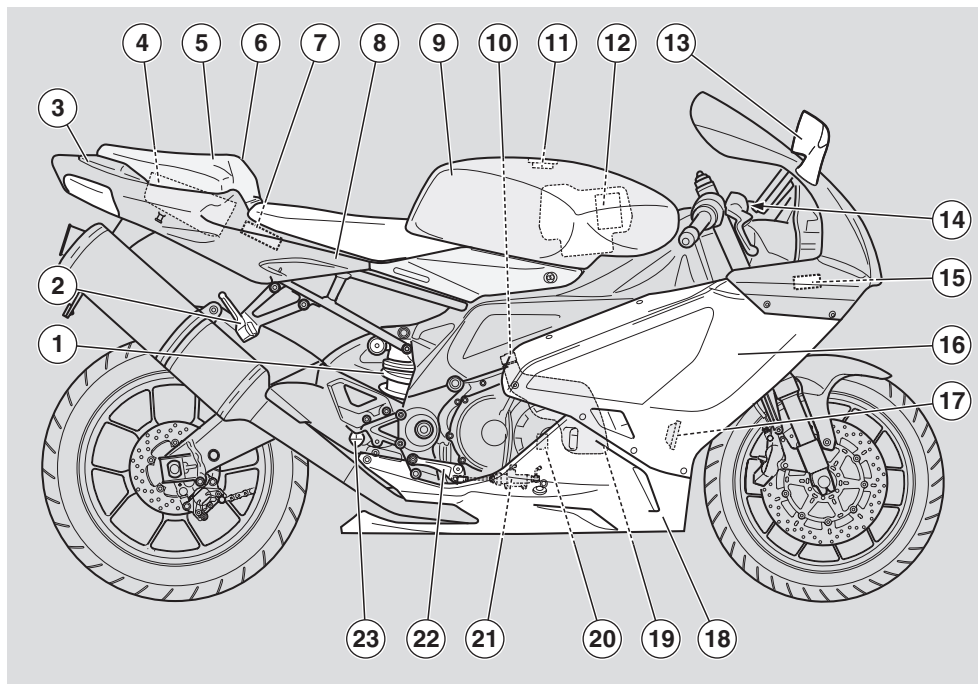
荷物は大きさと重量に注意して適切に搭載してください。積荷は車両の重心に近く、また左右の重量配分が等しくなるようにします。そして積荷が車体にしっかりと固定されていることを確認します。長距離ツーリングの際は特に注意してください。

大きいもの、重いもの、危険なものをハンドル、フェンダー、フロントフォークなどに吊り下げないでください。カーブでのモーターサイクルの反応が鈍くなる他、操縦性が損なわれます。

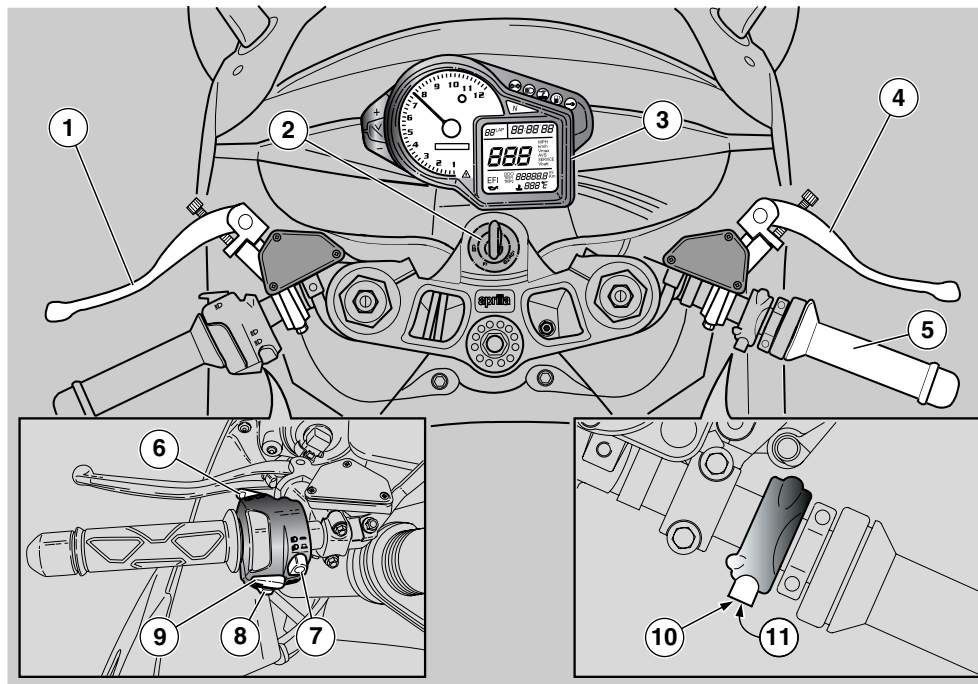
車体の両脇に重い荷物やヘルメットを掛けないで下さい。歩行者や障害物にあたって、車体のバランスを失う危険があります。

車体にしっかりと固定できない積荷は運ばないでください。

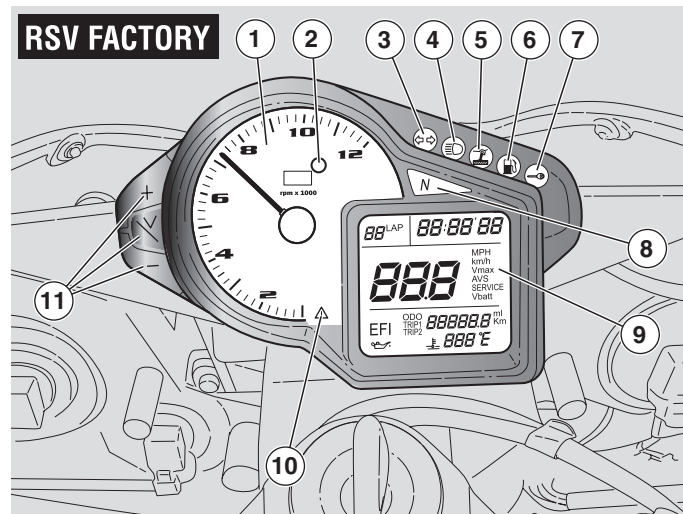
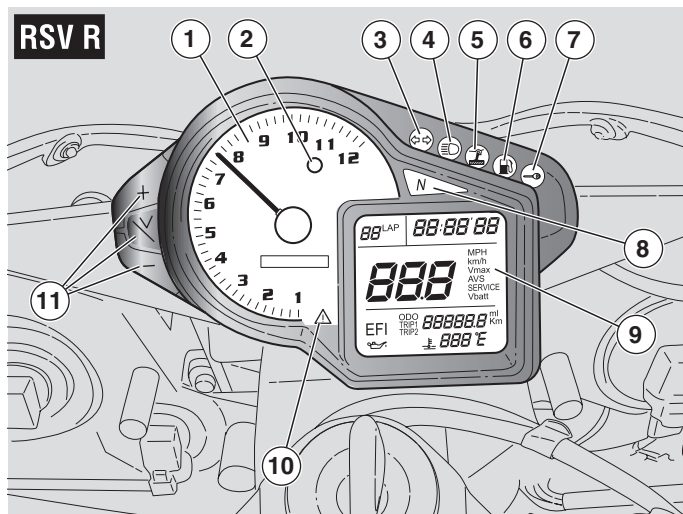
後部の荷物ラックから大きくはみ出たり、またライト類、ホーンなどを覆うような積荷は運ばないでください。

荷物ラックや小物入れに子供や動物を載せて運ばないでください。

各荷物ラックの許容重量を超えないようにしてください。

過荷重になった車両は安定を失い、操縦性も悪くなります。

各部名称

1) サイドフェアリング・左側
2) ステアリングショックアブソーバー、調整不可 (ステアリングショックアブソーバー、調整可能 RSV R OPT)
3) ヘッドライト
4) フロントフェアリング
5) 左バックミラー
6) クラッチオイルタンク
7) エンジンオイルフィルター
8) タンク下サイドカウル・左側
9) ライダーシート
10) バッテリー
11) メインヒューズケース (30A)
12) パッセンジャーシートロック - 書類／工具入れカバー
13) パッセンジャーフットレスト・左側 (開／閉、2 ポジション)
14) ドライブチェーン
15) スイングアーム
16) ライダーフットレスト・左側
17) サイドスタンド
18) シフトペダル
19) エンジンオイルタンク
20) エンジンオイル量点検窓
21) エンジンオイルタンクキャップ

各部名称

1) リアショックアブソーバー
2) パッセンジャーフットレスト・右側 (開／閉、2 ポジション)
3) テールライト
4) 書類／工具入れ
5) パッセンジャーシート (書類／工具入れカバー)
6) パッセンジャーベルト
7) コンピューターボックス
8) タンク下サイドカウル・右側
9) 燃料タンク
10) 冷却液エキスパンションタンクキャップ
11) 燃料タンクキャップ
12) エアクリーナー
13) 右バックミラー
14) フロントブレーキオイルタンク
15) 二次ヒューズケース (15A)
16) 右サイドフェアリング
17) 警告ホーン
18) 下部フェアリング
19) エキスパンションタンク
20) リアブレーキオイルタンク
21) リアブレーキポンプ
22) リアブレーキペダル
23) ライダーフットレスト・右側

各部名称

1） クラッチレバー
2） イグニッションスイッチ／ステアリングロック (○ - ⊗ - 🔒)
3） メーターパネル
4） フロントブレーキレバー
5） スロットルグリップ
6） パッシングライト (≡D) / LAP ボタン (多目的)
7） ライトスイッチ (≣D - ≡D)
8） ウィンカーライトスイッチ (⇦⇨)
9） 警告ホーンボタン (📯)
10） スターターボタン (⦾)
11） エンジンキルスイッチ (▆○ - ▂⊗)

各部名称

1) タコメーター
2) レッドゾーン・インジケーター (max) レッド
3) ウィンカーライト・インジケーター (⇦⇨) グリーン
4) ハイビーム・インジケーター () ブルー
5) サイドスタンド・インジケーター () オレンジ
6) 燃料警告灯 () オレンジ
7) モビライザー・インジケーター ( ) レッド
(イモビライザー搭載車両の場合)
8) ニュートラルポジション・インジケーター (N) グリーン
9) デジタルディスプレイ (冷却液温度、デジタルクロック、バッテリー電圧、ストップウォッチ、自動診断 エンジンオイル警告灯 ()
10) 警告ランプ・(⚠) レッド
11) マルチディスプレイ・プログラムボタン (+, Trip V, -)

メーターおよびインジケーター類 (表)

エンジンを停止させたままイグニッションキーを「○」に回すと、すべての警告灯は LED の作動点検のため点灯し、3 秒後に消灯します。このときいずれかの警告灯が点灯しない場合、**aprilia** 社オフィシャルディーラーにお問い合わせください。

名称	機能
タコメーター（rpm）	エンジンの 1 分あたりの回転数を表示します。 **⚠ 注意** **エンジン最大回転数を超えてはいけません。56 ページ（慣らし運転）参照。**
レッドゾーン・インジケーター	エンジンの回転数が設定されたレッドゾーンに到達した時に点灯します。回転数のカスタム設定の方法は。23 ページ（レッドゾーンの設定 (エンジン停止中に行なってください)）参照。 レッドゾーン回転数の設定が完了した時に 3 秒間点灯します。23 ページ（レッドゾーンの設定 (エンジン停止中に行なってください)）参照。またイグニッションキーを "○" の位置に回した時にも約 3 秒間点灯します。18 ページ（多機能コンピューター）参照。
ウィンカーライト・インジケーター ⇦⇨	ウィンカーライトが作動中に点滅します。
ハイビーム・インジケーター	ヘッドライトがハイビームの時やパッシングライト点灯の時に点灯します。
サイドスタンド・インジケーター	サイドスタンドが降りている時に点灯します。
燃料警告灯	燃料タンク内のガソリン残量が約 4 ﾘｯﾄﾙ になったときに点灯します。 **この場合はできるだけ速やかに燃料を補充してください。32 ページ（燃料）参照。**
盗難防止装置 (イモビライザー) 警告灯 (イモビライザーシステム搭載車両の場合)	盗難防止策としてエンジン停止中に点滅します。盗難防止システムが作動中であることを表します。 **⚠ 注意** **エンジンが連続 10 日間始動されない場合、警告灯は消灯しますが、イモビライザーシステムは作動中です。(省エネ機能)**
ニュートラルポジション・インジケーター N	ギアがニュートラルポジションにある時に点灯します。
エラーランプ ⚠	エンジンを停止したままイグニッションキーを「○」に回したとき、エラーランプは作動点検のため点灯します。 このときエラーランプが点灯しない場合、**aprilia** 社オフィシャルディーラーにお問い合わせください。 **⚠ 注意** **エンジン点火後、3 つのマーク「*EFI*」、「」、および「」」のうちいずれかが表示されエラーランプが点灯したままの場合、以下のいずれかを意味します。「*EFI*」マークはフューエルインジェクションシステムのエラーが検出された、「」マークはエンジン油圧が低すぎる、「」」マークは冷却液温度が高すぎることをそれぞれ示します。この場合、エンジンを直ちに停止させ、aprilia 社オフィシャルディーラーにお問い合わせください。**

<table>
<tr><th colspan="2">名称</th><th colspan="2">機能</th></tr>
<tr><td rowspan="7">デジタルディスプレイ</td><td>スピードメーター (km/h - MPH)</td><td>走行中の現在速度、平均速度、最高速度記録を (キロメーターまたはマイル単位で) 選択表示できます。18 ページ（ 多機能コンピューター） 参照。</td><td rowspan="6">表示内容の切り換え手順については、。18 ページ（ 多機能コンピューター） 参照。</td></tr>
<tr><td>オドメーター・キロメーター／マイル (km - mi)</td><td>キロメーターまたはマイル単位で積算走行距離、区間走行距離を表示します。</td></tr>
<tr><td>冷却液温度計 (ºC / ºF)</td><td>エンジン冷却液の温度を表示します。18 ページ（ 多機能コンピューター） 参照。
⚠ 注意
イグニッションスイッチを “⊗” の位置にあわせたままにしないで下さい。冷却ファンが、冷却液とは関係なく停止し、液温をさらに上昇させる原因となります。
冷却液温度が危険値まで上昇した場合には、エンジンを停止し、イグニッションキーをﾒ○ﾓの位置まで回して、冷却ファンが停止するまで待ちます。その後、イグニッションキーをﾓ⊗ﾓの位置まで回して冷却液のレベルを点検します。40 ページ（ 冷却液） 参照。
aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。
⚠ 注意
冷却液温が許容値 (115 ºC ― 239 ºF) を超えて上昇した場合には、エンジンに重大な損傷を与えることがあります。</td></tr>
<tr><td>デジタルクロック</td><td>選択した設定に合わせて時間および分を表示します。18 ページ（ 多機能コンピューター） 参照。</td></tr>
<tr><td>バッテリー電圧 (V BATT)</td><td>バッテリー電圧をボルトで表示します。18 ページ（ 多機能コンピューター） 参照。</td></tr>
<tr><td>ストップウォッチ</td><td>設定により、様々な時間計測が可能です。18 ページ（ 多機能コンピューター） 参照。</td></tr>
<tr><td>自動診断</td><td colspan="2">イグニッションスイッチを “○” の位置にあわせる度に、多機能ディスプレイ右側に、約 3 秒間 ”EFI” という文字が現れます。
⚠ 注意
それ以外の時に “EFI” と表示された場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。たいていの場合エンジンは動作し続けますが性能は制限されます。直ちに aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。</td></tr>
</table>

多機能コンピューター

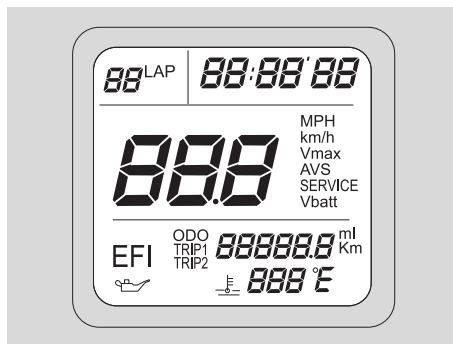
イグニッションキーを「○」にすると、以下のメーターパネルランプが 3 秒間点灯します：

- 多機能画面各部
- 全警告灯
- バックライト

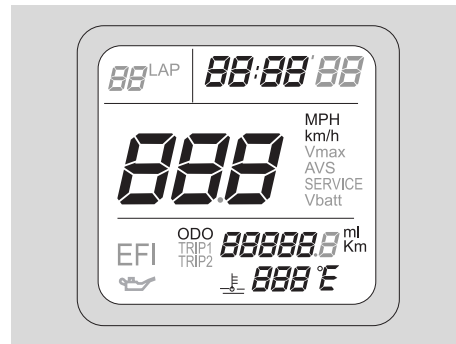
タコメーターの針（1）はユーザーが設定した最大回転数 (rpm) を指します。約 3 秒後にレッドゾーン・インジケーター (レッド)“max” (2) が消灯し、タコメーターの針 (1) が初期位置に戻ります。

初期点検の間、すべてのメーター類はそれぞれ現在の読み取り値を少しの間表示します。

⚠ 注意

水温の代わりに「ERR」メッセージがメーターパネルに表示され、スタンドランプおよびレッドゾーン・インジケーターが点灯し続けた場合、メーターパネルとエンジンコントロールユニット間の CAN ラインに通信障害があることを意味します。ディーラーにお問い合わせください。

⚠ 注意

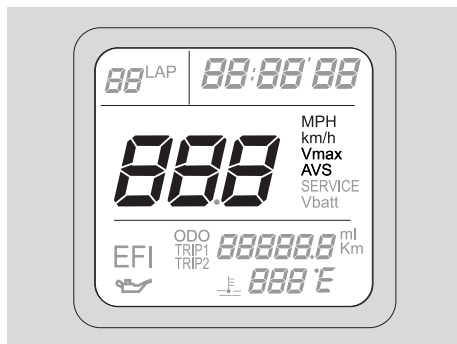
最初の 1,000 km を走行後、“SERVICE” と多機能画面に表示されます。その後は 10,000 km ごとに表示されます。

その際は定められた定期点検を aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。63 頁 (定期点検整備表) 参照。aprilia 社オフィシャルディーラーに問い合わせ、63 頁（定期点検表）を参照し定期点検表に記載されている車両点検を受けてください。"SERVICE" 表示をディスプレイから消去するには、キーオン時に 15 秒以上「+」および「−」ボタンを押し続けてください。

イグニッションキーが「○」の位置にあるとき、画面には以下のスタンダード値が表示されます：

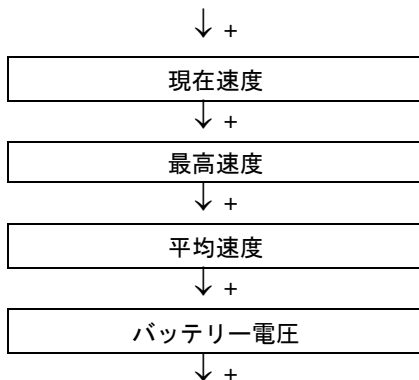
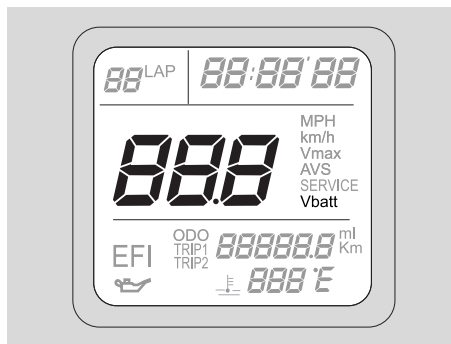
- 現在速度
- 時計
- 冷却液温度
- オドメーター

測定単位の切り替え（km− マイル、km/h−MPH、ºC−ºF）

◆「TRIP/V」ボタンおよび「-」ボタンを同時に 15 秒以上押し続けて、km とマイルおよび km/h と MPH を切り替えてください。

◆ 同様に、「TRIP/V」ボタンおよび「+」ボタンを同時に 15 秒以上押し続けて、ºC と ºF を切り替えてください。

現在速度、最高速度、平均速度、および バッテリー電圧の表示

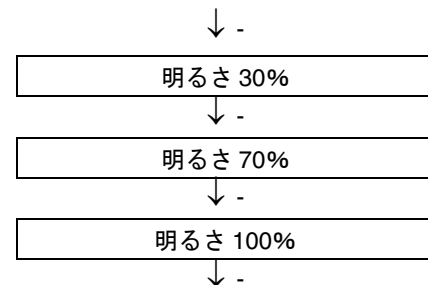
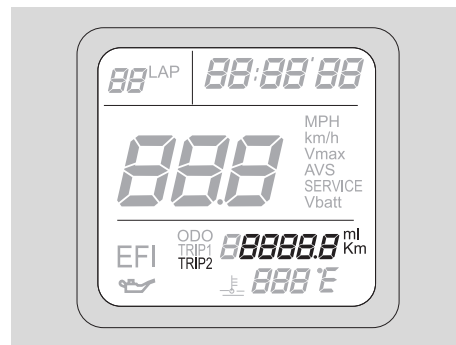
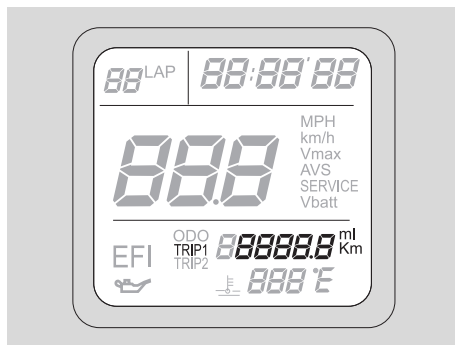
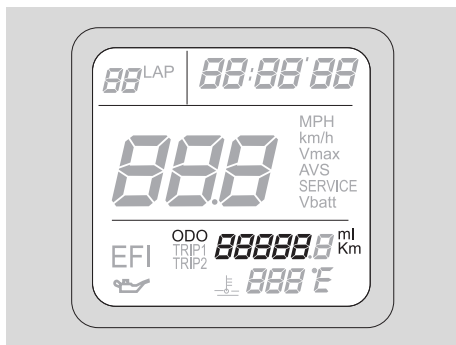
重要： 平均速度、最高速度およびバッテリー電圧は、車両停止中にのみ表示することができます。走行中は現在速度のみ表示します。

イグニッションキーを「○」の位置に回すと、現在速度が画面に表示されます。最高速度（V max）、平均速度（AVS）、およびバッテリー電圧を表示させるには、「+」ボタンを押します。

最高速度（V max）および平均速度（AVS）をリセットするには、リセットする速度表示を選択して「-」ボタンを 3 秒以上押し続けます。

重要： 最高速度および平均速度は、最終リセット時からの走行距離に基づいて計算されます。

バッテリー電圧表示（ボルト表示）を変更することはできず、バッテリー電圧はバッテリーの作動状態を表示しています。

エンジン回転が 4,000 rpm でロービーム点灯中にバッテリー電圧が 13～15V のとき、充電システムは正常に作動しています。

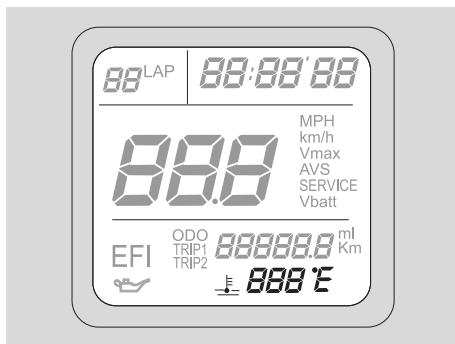
◆ メーターのバックライトの設定：
メーターのバックライトの明るさは、予め決められた 3 つのレベル（30%、70 %、100%）から 1 つを選んで設定することができます。バックライトの設定は、イグニッションキーを「○」にして 5 秒以内に「-」ボタンを押して行います。

オドメーターおよびトリップメーター（トリップメーター1 およびトリップメーター2）の表示

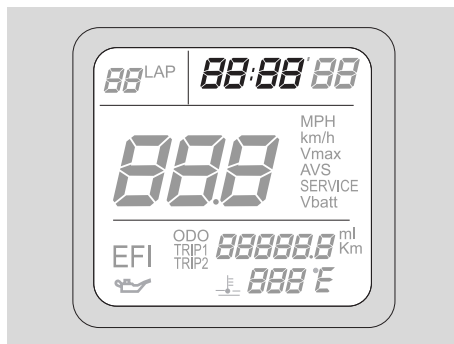
イグニッションキーを「○」に回してオドメーターを表示させます。トリップメーター（km ／マイル）（トリップメーター 1 およびトリップメーター 2）に切り替えるには、Trip/V ボタンを押します。

トリップメーター 1 をリセットするには、トリップメーター 1 を表示させ、「Trip/V」ボタンを 3 秒以上押し続けます。

トリップメーター 2 をリセットするには、トリップメーター 2 を表示させ、「Trip/V」ボタンを 3 秒以上押し続けます。

重要： トリップメーターは最終リセット時からの走行距離を表示します。

◆ トリップメーター 1 およびトリップメーター 2 の値は、バッテリーを取り外すと消去されます。

冷却液温度表示

– センサーが 34 ºC（93 ºF）以下の冷却液温度を検出するとき、「---」が表示されます。
– センサーが 35 ºC（95 ºF）～ 114 ºC（237 ºF）の冷却液温度を検出するとき、実際の温度が表示されます。
– 冷却液温度が115 ºC (239 ºF)～135 ºC (275 ºF) のとき、点滅表示します。さらに、警告灯（ ⚠ ）が点灯し、危険な状態を示します。
– 冷却液温度が 135 ºC (275 ºF) 以上のとき、点滅表示します（この場合も警告灯が点灯します）。

⚠ 注意

メーターパネルのエラーランプ（ ⚠ ）が点灯するとき、冷却液温度センサーが損傷しているまたは切断されていることを表し、温度表示ができません。この場合、aprilia 正規ディーラーにお問い合わせください。

温度測定範囲 : 35 ～ 135 ºC（95 ～ 275 ºF）

デジタル時計の設定 :

デジタル時計は、画面の一番上に表示されます。

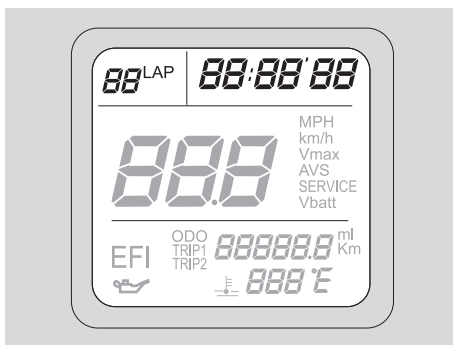
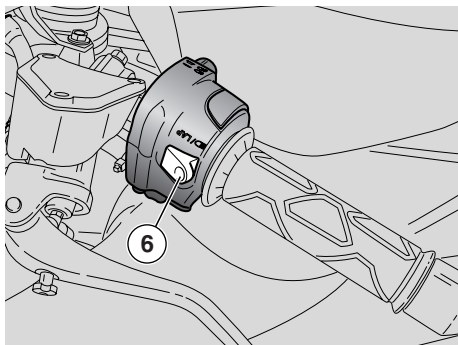
時計は、キーが「○」に設定されているときのみ表示されます。

重要 ： 時計の設定は、キーが「○」に設定されており車両停止中にのみ行うことができます。

時間設定

◆ 時間表示が点滅し始めるまで「+」および「-」ボタンを 3 秒以上押し続けます。
◆「+」および「-」ボタンを使って希望の時間に設定します。
◆ いずれかのボタンを押し続けると、現在の設定が毎秒 1 単位増加／減少します。
◆「TRIP/V」ボタンを 3 秒以上押し続けて、時間を確定します。時計は分設定モードに自動的に切り替わります。

分設定

◆「+」および「-」ボタンを押して、現在の設定を 1 分ずつ増加／減少させます。
いずれかのボタンを押し続けると、現在の設定が毎秒 1 単位増加／減少します。
◆ 分表示が点滅を止めるまで「TRIP/V」ボタンを 3 秒以上押し続けて、新しい設定を確定します。
◆ 時計設定はバッテリーを取り外すと消去されます。

ストップウォッチ

ストップウォッチはサーキットでの周回タイム計測などに利用できます。データはメモリーされるので後で確認することができます。

“ストップウォッチ” モードでは“時刻”の機能は使用できません：

ストップウォッチの表示：

- ◆「LAP」ボタンを押しながら「TRIP/V」ボタンを 3 秒以上押し続けます。時計表示部に「01 LAP 00'00"00"」が表示されます。

ストップウォッチの非表示：

- ◆「LAP」ボタンを押しながら「TRIP/V」ボタンを 3 秒以上押し続けます。表示が時計表示に戻ります。

ストップウォッチの開始：

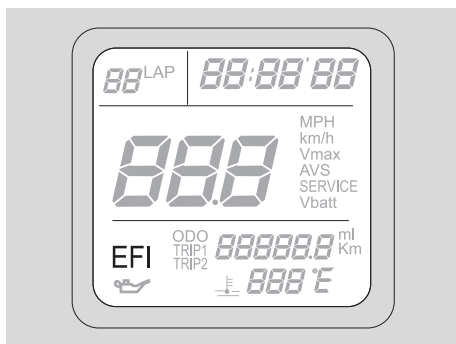
- ◆「LAP」ボタン（6）を押してすぐに放します。ボタンを一回押すと、ラップタイムの計測が開始します。
  ラップタイムの計測が始まって 10 秒以内に再度「LAP」ボタンを押すと、計測がリセットされ、再び計測を開始します。
  もう一回「LAP」ボタンを押すと、新たにラップタイムの計測が始まります。前のラップタイムは記録され、ラップ番号と共に（左上角に）10 秒間表示されます。10 秒後、ストップウォッチは 2 番目のラップタイムおよびラップ番号表示に切り替わります。

重要： 最大 40 件までのタイムがメモリーできますが、それを超えてメモリーが一杯になったら、「LAP」ボタン（6）を押しても新たな計算は開始されず、記録された 40 件のラップタイムが自動的に表示されます。
以下の手順で記録された 40 件のラップタイムを消去すると、ストップウォッチはリセットされます。
ストップウォッチ機能に入り、「LAP」ボタン（6）を押しながら 3 秒以上「-」ボタンを押し続けます。

メモリーが消去されると、ストップウォッチは初期表示「01 LAP 00'00"00"」に戻ります。

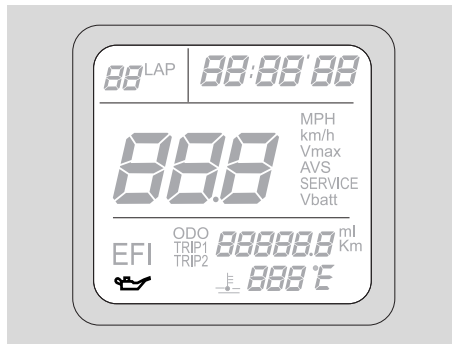
記録されたラップタイムは、バッテリーを取り外すと消去されます。

記録されたラップタイムの照会：

- ◆ストップウォッチ機能に入り、「TRIP/V」ボタンを 3 秒以上押し続けます。「+」ボタン（前進スクロール）および「-」ボタン（後退スクロール）を押して、ラップタイムをスクロールします。
  ストップウォッチ機能に戻るには、「TRIP/V」ボタンを 3 秒以上押し続けます。

自動診断

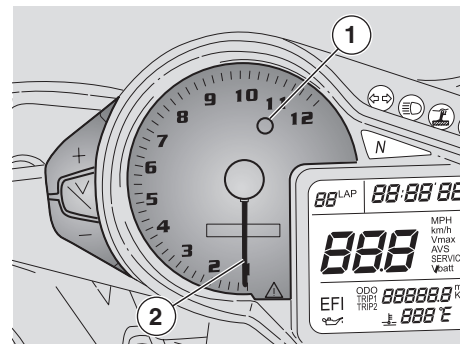
1）イグニッションスイッチを “○” の位置に回したとき、約 3 秒間 “EFI” と表示されます。

⚠ 注意

それ以外の時に "EFI" と表示され同時に警告灯（⚠）が点灯した場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。たいていの場合エンジンは動作し続けますが性能は制限されます。直ちに aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

エンジンオイル警告灯

イグニッションキーを「○」の位置にあわせる度に、エンジン油圧警告灯が約 3 秒間点灯します。

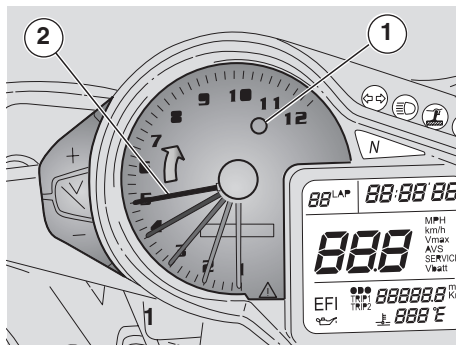
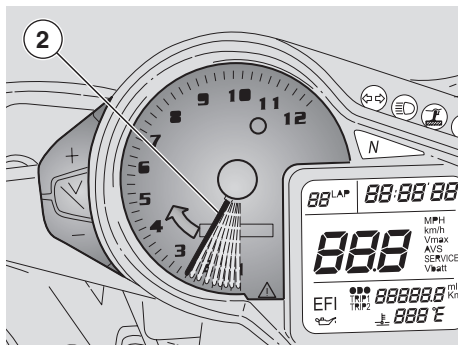
⚠ 注意

エンジン始動後エンジンオイル油圧警告灯 LED "🛢" と警告灯（⚠）が点灯し続ける場合、または通常運転の間に点灯する場合は、エンジンオイル系統の油圧が適当な値でないことを示しています。エンジンを直ちに停止させ、aprilia 社オフィシャルディーラーにお問い合わせください。

レッドゾーンの設定 (エンジン停止中に行なってください)

エンジン回転数がこの設定値を超えると、メーターパネル上のレッドゾーン・インジケーター (レッド) (1) が点滅します。

重要： レッドゾーン・インジケーターの作動基準となるレッドゾーンは、エンジンが停止中で、オドメーターが表示されているときにのみ設定可能です。レッドゾーンの設定範囲は､2,000 ～ 12,000 rpm です。

工場出荷時の設定は、6,000 rpm です。

設定されているレッドゾーンを確認する場合は、「TRIP/V」ボタンを 3 秒以上押し続けます。タコメーターの針（2）が、設定されている値を 3 秒間指します。

設定方法：

◆ イグニッションキーを「○」に回します。
◆ しばらくの間、メーターパネルの点検が行われます。
◆「TRIP/V」ボタンを 3 秒以上押し続けると、タコメーターの針（2）がレッドゾーンの現在の設定値を指します。
◆ タコメーターの針（2）がレッドゾーンの現在の設定値を指している 3 秒以内に、希望の設定値に変更してください。
◆ 設定の変更には「+」ボタンを押してください。軽くボタンを押すと、回転数が 100 rpm ずつ増えます。少し長く押すと、回転数は 1,000 rpm ずつ増えます。
◆ 針は最大値（12,000 rpm）に到達すると、自動的に 0 に戻ります。
◆ 最後に「+」ボタンを押して 3 秒経過すると、新しいレッドゾーンが記録されます。針（2）が 0 に戻ると同時にレッドゾーン警告灯（1）が 3 秒間点灯し、設定が完了したことを確認することができます。
◆ 設定中にエンジンを始動させると、最後に記録されたレッドゾーンが保持されます。また、設定中にバッテリーを取り外してしまっても新しい設定値は記録されず、最後に記録された値が保持されます。

右側ハンドルグリップ

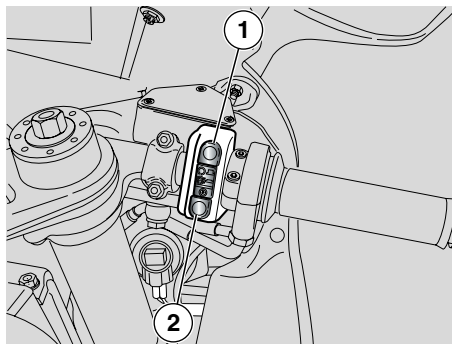
重要： インジケーター、ライト等の電装パーツはイグニッションキーが “○” の位置にないと機能しません。

1）エンジンキルスイッチ (■○ - ▬⊗)

⚠ 注意

走行中には絶対にこのエンジンキルスイッチ “■○ - ▬⊗” を操作しないでください。

このスイッチは安全のため、または緊急時に使用します。

このスイッチが“■○”の位置にあるときはエンジンを始動できます。“▬⊗” の位置に押すとエンジンが停止します。

⚠ 注意

エンジンが停止していてもイグニッションスイッチが “■○” の位置にあるとバッテリーが放電します。

エンジン停止後はイグニッションスイッチを “▬⊗” の位置に戻してください。

2）スターターボタン (⚡)
このスターターボタン “⚡” を押すと、スターターモーターが作動しエンジンを始動させます。エンジン始動の手順については。51 ページ（エンジンの始動）参照。

左側ハンドルグリップ

重要： インジケーター、ライト等の電装パーツはイグニッションキーが “○” の位置にないと機能しません。

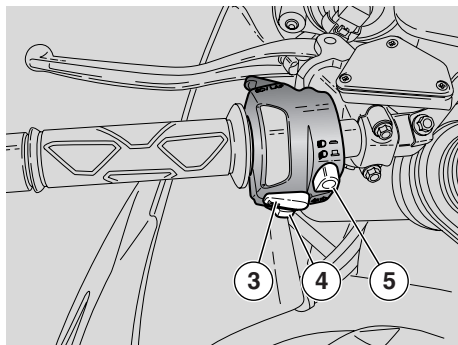
3）警告ホーンボタン (📯)
このボタンを押すと警告ホーンが鳴ります。

4）ウィンカーライトスイッチ (⇦⇨)
左側にターンする時は左へスイッチします。右側にターンする時は右へスイッチします。

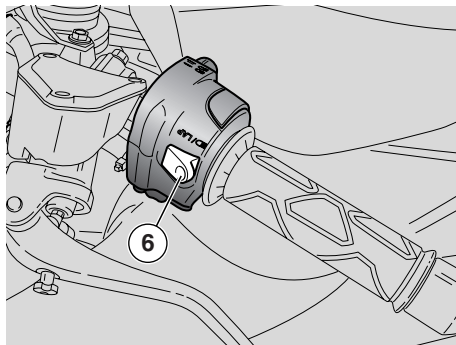
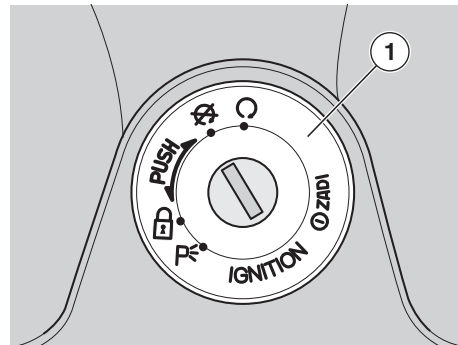
ウィンカーを停止するにはこのスイッチを押します。

5）ディマースイッチ (■≣D - ▬≣D)
″■≣D″　の位置にある時は常にパーキングライト、メーターパネルライト、ロービームライトが点灯しています。

″▬≣D″　の位置にある時はハイビームライトが点灯します。

エンジンを始動させる前に、ディマースイッチが「■≣D」の位置にあることを確認します。

6) パッシングライト (≣▷) / LAP ボタン (多目的)

重要： 機能設定に関しては 18 ページ（多機能コンピューター）参照。

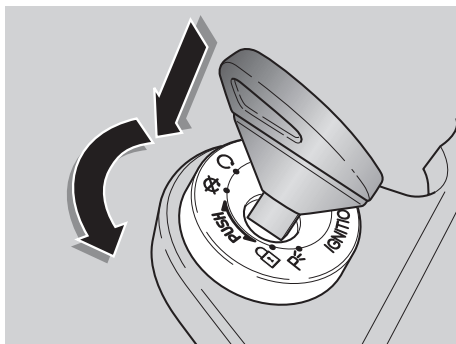
緊急時や合図が必要な時にこのボタンを押すとハイビームライトが点滅します。このボタンと「TRIP/V」ボタンを同時に押すと、ストップウォッチを作動させます。

重要： パッシングを停止するにはボタンを放します。

イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチ (1) は両ハンドルバーの中央部に位置しています。

重要： イグニッションキーはイグニッションスイッチ／ステアリングロックの他に、燃料タンクキャップ、書類／工具入れのキーも兼ねています。

納車時には計 2 本のキー(1 本はスペアキー) がついています。

重要： スペアキーは車両と別の場所に保管してください。

重要： イグニッションスイッチを “◯” の位置にするとライト類が自動的に点灯します。
ライト類を消灯するには、イグニッションスイッチを “⊗” の位置に戻します。

ステアリングロック

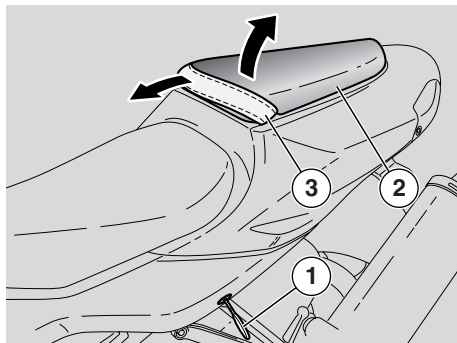
⚠ 危険

走行中は絶対にキーを "🔒" の位置に回さないでください。車体のコントロールを失う危険があります。

機能

ステアリングロックは次の手順で行なってください :

◆ ハンドルを左側いっぱいに切ります。
◆ キーを "⊗" の位置に回します。
◆ キーを押しながら"🔒" の位置に回します。
◆ キーを引き抜きます。

キー位置	機能	キーの抜取り
🔒 ステアリングロック	ステアリングがロックされ、エンジン、ライト共機能しない。	抜取り可能。キーを抜き取った後、イモビライザーシステムが作動。(搭載車両の場合)
⊗	エンジン、ライト共機能しない。	抜取り可能。キーを抜き取った後、イモビライザーシステムが作動。(搭載車両の場合)
◯	エンジン、ライト共機能できる。	抜取り不可能。
P	ステアリングがロックした状態。エンジンは機能しない。フロントとリアのパーキングライトが点灯。	抜き取り可能。キーを抜き取った後、イモビライザーシステムが作動。(搭載車両の場合)

パッセンジャーシートのロック／ロック解除

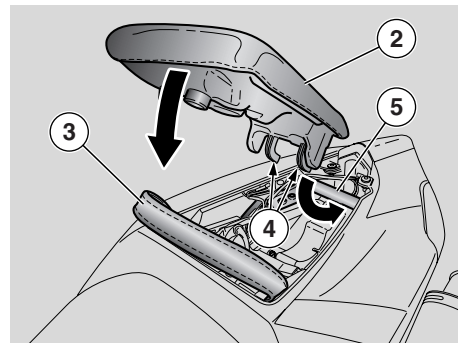
◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。
◆ キー (1) をシートロックの鍵穴に挿し込みます。
◆ パッセンジャーシート (2) のパッセンジャーベルト (3) 外します。
◆ キー (1) を反時計回りに回します。
◆ パッセンジャーシート (2) の後部を持ち上げます。
◆ パッセンジャーシートを取り外します。

重要： パッセンジャーシート(2) を下げてロックする前に、書類／工具入れの中にキーを置き忘れていないか確認してください。

パッセンジャーシート (2) をロックするには：

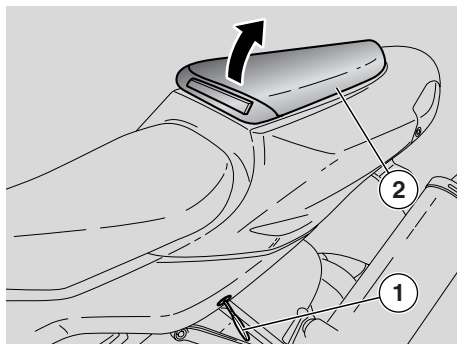
◆ パッセンジャーシート後部のフック (4) をリアフェアリングのバー (5) に差し込みます。
◆ パッセンジャーベルト(3) を前にずらし、パッセンジャーシートの後部をベルトが正しい位置にあるか確かめながら下ろします。
◆ シートの前方をカチッという音がするまで押して閉めます。

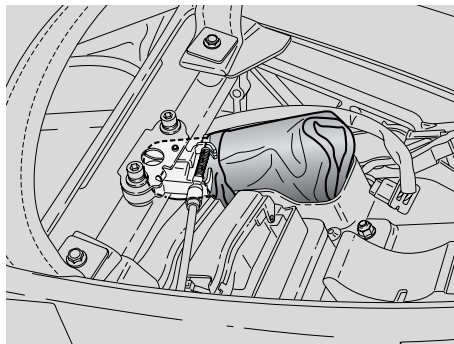
危険

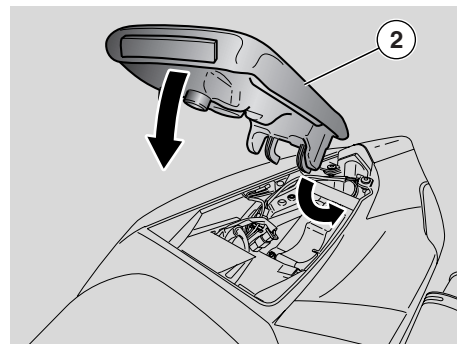
運転を始める前にパッセンジャーシート (2) が確実にロックされているか確認してください。

車両後部の内側に便利な書類 / 工具キット入れが付いています。カバーを取り外すだけで使用できます。

重要： 書類 / 工具キット入れカバーは、パッセンジャーシート (2) として使用できます。

書類 / 工具キット入れカバー付きの車両を使用する場合は、前述のようにパッセンジャーシートを取り外す必要があります。

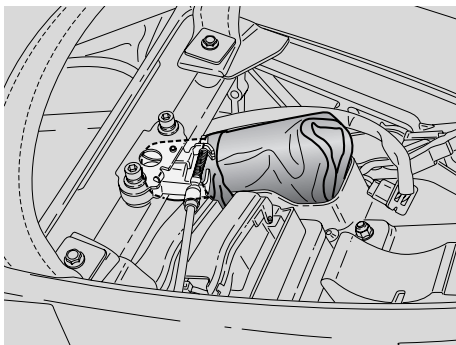
組み立て要領に関しては 29 ページ（書類 / 工具キット入れカバーの取り外し / 取り付け）参照。

書類 / 工具キット入れカバーの取り外し / 取り付け

◆ スタンドを使って車体を立てます。 58 ページ（スタンドの立て方）参照。
◆ シートロックの鍵穴にキー (1) を挿し込みます。
◆ キー(1) を反時計回りに回して、書類 / 工具キット入れカバー (2) を後方から持ち上げて引き抜きます。

車両後部の内側に便利な書類 / 工具キット入れが付いています。カバーを取り外すだけで使用できます。

重要： 書類 / 工具キット入れカバー (2) を下げて閉める前に、中にキーを置き忘れていないかどうか確かめて下さい。

書類 / 工具キット入れカバー (2) の取り付けの際は：

◆ 前方後方とも先端を、それぞれ符合するバーに、差し込んで下さい。
◆ 書類 / 工具キット入れカバーを所定の位置に置き、カチッという音がするまで押して閉めます。

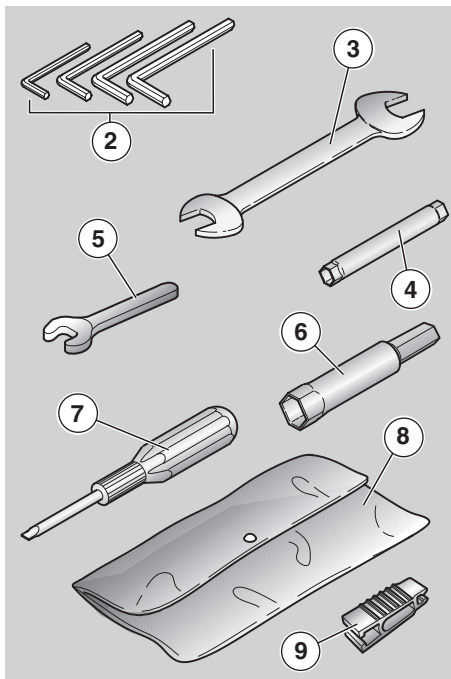
⚠ 危険

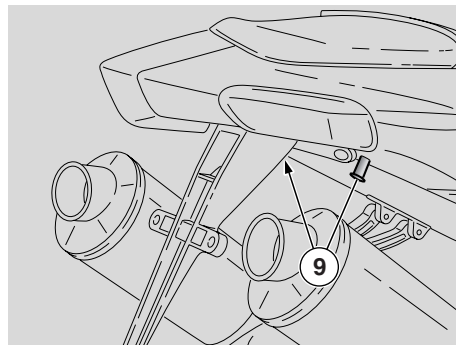
発進の前に、書類 / 工具キット入れカバー (2) が正しく閉まっていることを確認して下さい。

書類／工具入れ

書類 / 工具キット入れを開くには :

◆ パッセンジャーシートを取り外す， 28 ページ（パッセンジャーシートのロック／ロック解除 ）参照)、または書類 / 工具キット入れカバーを取り外します , 29 ページ（書類 / 工具キット入れカバーの取り外し / 取り付け ）参照。

工具キット(1)の内容は以下のとおりです:

- 六角レンチ 3, 4, 5, 6 mm (2);
- スパナ 11-13 mm (3);
- ソケットレンチ 8-10 mm (4);
- スパナ　17 mm (5);
- スパークプラグ用 16 mm ソケットレンチ (6);

- ＋／－ドライバー 4 mm (7);
- ツールバッグ (8);
- ヒューズプーラー (9)。

許容重量：1.5 kg。

荷物固定用フック

ゴムバンドなどをこの 2 本のフック (9) に取り付けて、パッセンジャーシートの上に小さな荷物を固定することができます。

許容重量：9 kg。

⚠ 危険

荷物はかさばり過ぎず、また、しっかりと固定されなければなりません。

特殊工具 OPT

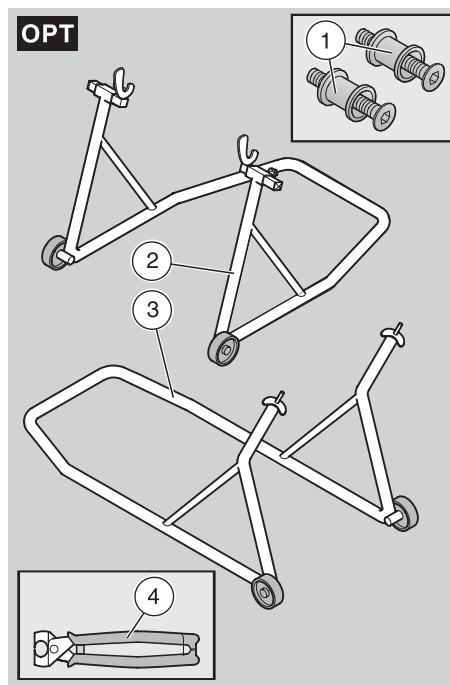
いくつかのメンテナンス項目には以下の特殊工具が必要です(**aprilia社オフィシャルディーラー**にてお求めください):

工具	作業項目
作業用リアスタンド付属ピン（1）。70 ページ（作業用リアスタンド付属ピンの装着 OPT）参照。	作業用リアスタンド上に車体を固定するために使用。
作業用リアスタンド(2)。70 ページ（作業用リアスタンド使用法 OPT）参照。	エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターの交換。 リアホイールの取り外し。 チェーンテンションの調整。 アンダーフェアリングの取り外し。
作業用フロントスタンド (3)。71 ページ（作業用フロントスタンド使用法 OPT）参照。	フロントホイールの取り外し。
クリック固定輪取り付け用ペンチ (4)、63 ページ（クリック固定輪）参照。	リック固定輪取り付け。

アクセサリー

以下の付属部品:

- リアアブソーバー "R FACTORY";
- ハンドル用ショック・アブソーバー調整可能;

上記のアクセサリーは RSV mille R FACTORY では標準装備されていますが、RSV mille Rにも取り付け可能です(**aprilia社オフィシャルディーラー**にご相談ください)。

燃料

⚠ 危険

内燃機関用の燃料は大変引火しやすく、時には爆発することもあります。燃料補給やメンテナンスは換気のよい場所でエンジンを止めた状態で行なってください。燃料補給中や燃料ガスが残っている場所では絶対に煙草を吸わないでください。引火や爆発を避けるため、火気、火花、熱源などに燃料を近付けないでください。

また、給油の際には注入口から燃料をこぼさないように注意してください。こぼれた燃料が熱いエンジン外壁に触れると引火する危険があります。

万一燃料が少しでもこぼれた場合には、エンジンを始動させる前にその部分を完全に乾かしてください。

燃料は暑さや太陽熱で膨張します。

決してタンクから溢れそうなほど一杯には入れないでください。

燃料補給後は燃料タンクキャップをしっかり締めてください。燃料が皮膚についたり、ガスを吸いこんだり、飲み込んだりしないように注意してください。また、ホースなどを使って容器を移し換えることもやめてください。

環境保護のため燃料は適切に処理してください。

燃料は子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料は最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) 及び 85 (N.O.M.M.) の無鉛ガソリンのみ使用してください。

燃料補給は次の手順で行なってください：

- ◆ 突起部 (1) を持ち上げます。
- ◆ キー(2) を燃料タンクキャップ (3) に挿し込みます。
- ◆ キーを時計回りに回し、跳ね上げ蓋を引いてキャップを開けます。

燃料タンク容量（リザーブタンク含む）: 18 ﾘｯﾄﾙ

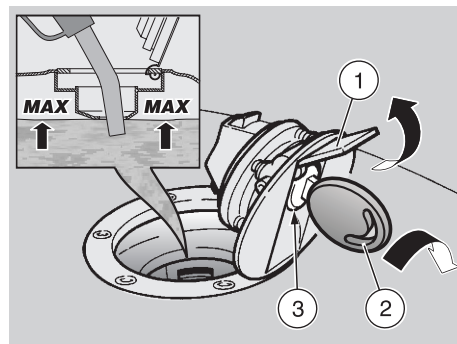
リザーブタンク容量：4 ﾘｯﾄﾙ

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

⚠ 危険

燃料タンクを充満させないで下さい。オイルの最大レベルは、口の最も下の縁を超えないようにして下さい（図参照）。

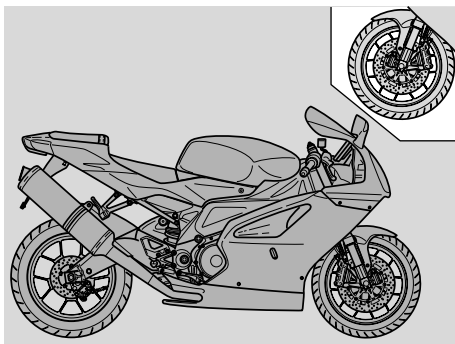
- ◆ 注入を行います。

注入を行う際：

重要： 蓋を閉める際は、キー(2) を入れたまま行います。

- ◆ キー (2) を入れたまま、蓋を押しながら閉めます。

⚠ 危険

蓋が正しく閉まっていることを確認して下さい。

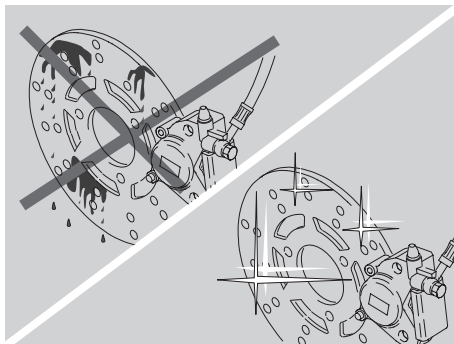
- ◆ キー（2）を抜き取ります。
- ◆ 突起部（１）を閉めます。

ブレーキオイル - 注意事項

重要： このモーターサイクルはフロント、リアともそれぞれ独立した油圧系統によるディスブレーキを装備しています。

以下の説明は一つのブレーキ系統についてですが、内容はフロント、リア共に共通です。

⚠ 危険

突然ブレーキレバーの遊びが変わったり、重くなったりした時は、油圧系統に何らかの不具合が発生した可能性があります。

ブレーキ系統が正常に機能しているか疑問な時、通常の点検作業ができない時などは **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

⚠ 危険

ブレーキディスクにオイルやグリースが付着していないことを確認してください。特に整備、点検作業の後には注意が必要です。

また、ブレーキケーブルが捩じれたり、損傷を受けたりしていないか点検してください。

油圧系統に水や埃が混入しないように注意してください。

油圧系統のメンテナンスをする際はゴム手袋の着用をお薦めします。

ブレーキオイルが皮膚に付いたり、眼に入ったりすると激しい炎症を起こすことがあります。

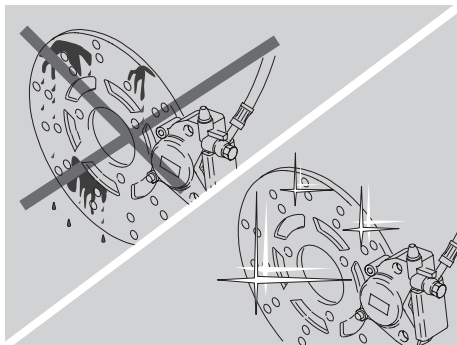
⚠ 危険

ブレーキオイルが身体に付いた時は、その部分を丁寧に洗ってください。眼に入った場合は眼科医または医師の診察を受けてください。

環境保護のためブレーキオイルは適切に処理してください。

ブレーキオイルは子供の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 注意

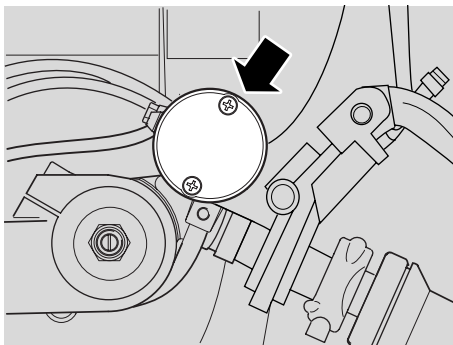
ブレーキオイルを扱うときはプラスチック部品や塗装部分にこぼすと損傷を与えますので注意してください。

ディスクブレーキ

⚠ 危険

ブレーキはライダーの安全を守る装置ですから、常に確実に作動するようメンテナンスする必要があります。また、走行の前には必ず点検してください。

ディスクが汚れているとブレーキパッドも汚れてしまい、結果として制動力の低下をまねきます。汚れたブレーキパッドは交換し、ディスクの汚れは高品質の油落としを使って拭き取ってください。

aprilia 社オフィシャルディーラーに依頼して、2 年ごとにブレーキオイルの交換を行って下さい。

必ず指定油脂類表に指定されたタイプのブレーキオイルを使用してください。116 ページ（ 指定油脂類表 ）参照。

重要： 本車体は、フロント、リアとも、それぞれ独立した油圧系統による二つのブレーキシステムの、ディスクブレーキを装備しています。

フロントのブレーキシステムは、二重ディスクブレーキ (右側及び左側) です。

リアのブレーキシステムは、単独ディスクブレーキ (右側のみ) です。

以下の説明は一つのブレーキ系統についてですが、内容はフロント、リア共に共通です。

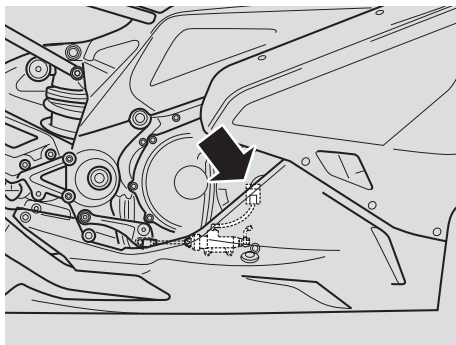
ブレーキパッドが摩耗すると、摩耗した分を補うためにブレーキオイルが減ります。

フロントブレーキオイルタンクは右側ハンドルバー上、フロントブレーキレバーの根元にあります。

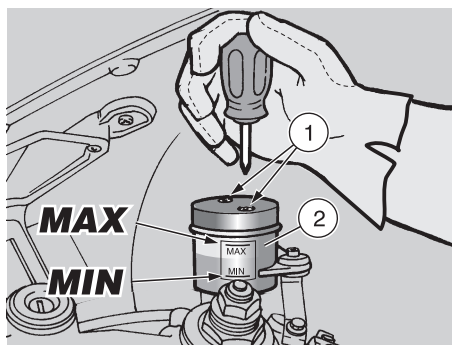
リアブレーキオイルタンクは右側下部フェアリングの下にあります。補充や交換の際は右側下部フェアリングを取り外してください。81 ページ（ 下部フェアリングの取り外し ）参照。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 10000 km (6250 mi) 走行ごとに、ブレーキディスクの点検を **aprilia 社オフィシャルディーラー**に依頼してください。

発進の前に各タンク内のブレーキオイルの量を点検してください。35 ページ（ フロントブレーキ）、37 ページ（ リアブレーキ ） 参照。また、ブレーキパッドの摩耗も点検してください。92 ページ（ ブレーキパッドの摩耗の点検 ） 参照。

aprilia 社オフィシャルディーラーに依頼して、2 年ごとにブレーキオイルの交換を行って下さい。

⚠ 危険

ブレーキ系統からのオイル漏れが見られる場合は車体を使用しないでください。

フロントブレーキ

ブレーキオイルの点検

◆ ハンドルをまっすぐに保ちながら、車両を垂直にします。
◆ タンク内のオイル液面が “**MIN**” マークより上にあることを確認します。
　MIN= 最低レベル

オイルの液面が “**MIN**” マークの線より下の場合：

⚠ 注意

ブレーキオイル液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

◆ ブレーキパッドの摩耗を点検します。92 ページ（ ブレーキパッドの摩耗の点検 ）ディスクの摩耗も点検します。

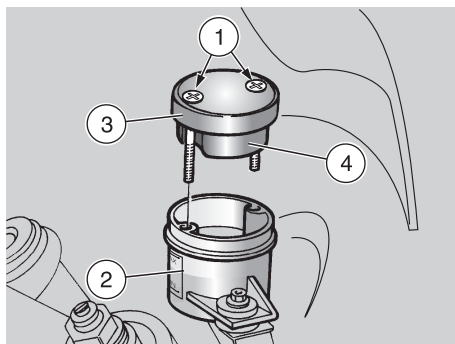
ブレーキパッドまたは / 及びディスクを交換する必要がなければ、補充を行って下さい。

ブレーキオイルの補充

33 ページ（ ブレーキオイル – 注意事項 ）をよく読んでください。

⚠ 注意

ブレーキオイルがタンクから溢れ出す危険があります。ネジ (1) を緩めている状態やタンクキャップを外した状態では、決してフロントブレーキレバーを操作しないでください。

◆ 短いプラスドライバーを使用し、ブレーキオイルタンク(2)のネジ(1)を緩めます。

⚠ 危険

ブレーキオイルを長時間空気に触れさせないよう注意してください。

ブレーキオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。

オイル補充のため必要な場合にのみ、タンクキャップを開けるようにしてください。

◆ ネジ(1)およびオイルシール(4)ごと、タンクキャップ (3) を取り外します。

⚠ 注意

オイルをこぼさないよう、補充中は車体を揺らさないでください。

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

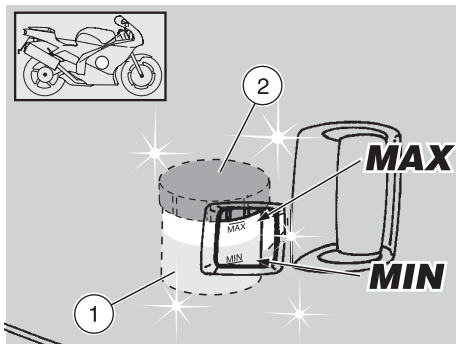
◆ 116 ページ（指定油脂類表）に指定されたブレーキオイルを、液面がタンク (2) の "**MIN**" のレベルを超えるように補充してください。

⚠ 注意

補充の際はオイルを入れ過ぎないように注意してください。オイルタンク一杯にまで入れるのはブレーキパッドが新品の場合だけにしてください。

ブレーキパッドが摩耗しているときはブレーキオイルをタンク一杯にまで入れないでください。新品のパッドに交換した際にブレーキオイルが溢れ出す危険があります。

ブレーキの効き具合を点検してください。

ブレーキレバーの作動範囲が極端に大きかったり、ブレーキの制動力が落ちたりしたときなどは、エア抜き作業が必要な場合がありますので **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

リアブレーキ

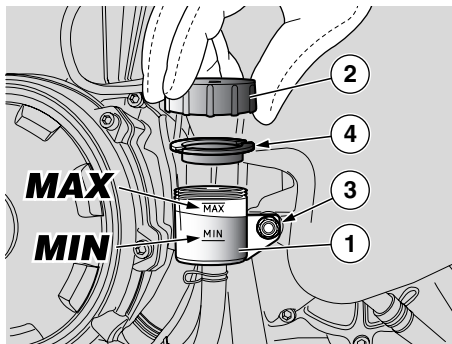
ブレーキオイルの点検

◆ 車体を垂直に保持し､オイルタンク (1) 内の液面がタンクキャップ (2) と平行になるようにします。
◆ タンク内のオイル液面が “**MIN**” マークより上にあることを (右側サイドフェアリングの確認窓から) 確認します。
MIN= 最低レベル
MAX= 最大レベル

オイルの液面が “**MIN**” マークの線より下の場合：

⚠ 注意

ブレーキオイル液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

◆ ブレーキパッドの摩耗を点検します。92 ページ（ブレーキパッドの摩耗の点検）ディスクの摩耗も点検します。

ブレーキパッドまたは / 及びディスクを交換する必要がなければ、補充を行って下さい。

ブレーキオイルの補充

33 ページ（ブレーキオイル － 注意事項）をよく読んでください。

◆ 右側サイドフェアリングを取り外します。81 ページ（サイドフェアリングの取り外し）参照。

⚠ 注意

ブレーキオイルがタンクから溢れ出す危険があります。タンクキャップを緩めたり外したりした状態では、決してリアブレーキペダルを操作しないでください。

⚠ 危険

ブレーキオイルを長時間空気に触れさせないよう注意してください。

ブレーキオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。

オイル補充のため必要な場合にのみ、タンクキャップを開けるようにしてください。

◆ ネジ (3) を完全に緩めます。
◆ オイルタンク (1) 全体を外側へゆっくりずらします。
◆ キャップ (2) を回して取り外します。

⚠ 注意

オイルをこぼさないよう、補充中はオイル液面とタンクの縁が平行 (水平) を保つようにしてください。

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

◆ オイルシール (4) を取り外します。
◆ 116 ページ（指定油脂類表）に指定されたブレーキオイルを、液面がタンク (1) の“**MIN**” と“**MAX**” マークの間に来るまで補充します。
“**MAX**” レベルまで入れるのはブレーキパッドが新品の場合だけにしてください。

⚠ 注意

キャップ (2) が閉じている状態でも、決してタンク (1) を逆さまにしないでください。油圧系統にエアが混入して、ブレーキ系統に不具合をもたらす恐れがあります。

⚠ 注意

“MAX” レベルまで入れるのはブレーキパッドが新品の場合だけにしてください。ブレーキパッドが摩耗しているときはブレーキオイルを “MAX” レベルまで入れないでください。新品のパッドに交換した際にブレーキオイルが溢れ出す危険があります。
ブレーキの効き具合を点検してください。ブレーキレバーの作動範囲が極端に大きかったり、ブレーキの制動力が落ちたりしたときなどは、エア抜き作業が必要な場合がありますので aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

クラッチオイル - 注意事項

重要： このモーターサイクルは油圧式クラッチを装備しています。

⚠ 注意

突然クラッチレバーの遊びが変わったり、重くなったりした時は、油圧系統に何らかの不具合が発生した可能性があります。
クラッチ系統が正常に機能しているか疑問な時、通常の点検作業ができない時などは aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

⚠ 注意

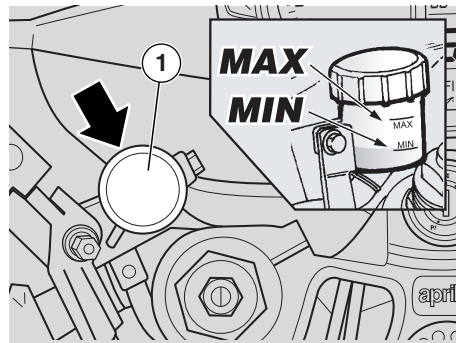
クラッチケーブルが捩じれたり、損傷を受けたりしていないか点検してください。
油圧系統に水や埃が混入しないように注意してください。

油圧系統のメンテナンスをする際はゴム手袋の着用をお薦めします。

クラッチオイルが皮膚に付いたり、眼に入ったりすると激しい炎症を起こすことがあります。

クラッチオイルが身体に付いた時は、その部分を丁寧に洗ってください。眼に入った場合は眼科医または医師の診察を受けてください。

環境保護のためクラッチオイルは適切に処理してください。

クラッチオイルは子供の手の届かない場所に保管してください。

クラッチオイルを扱うときはプラスチック部品や塗装部分にこぼすと損傷を与えますので注意してください。

クラッチ制御装置オイルは、aprilia 正規ディーラーで 2 年ごとに交換を行って下さい。

必ず指定油脂類表に指定されたタイプのクラッチオイルを使用してください。**116 ページ（指定油脂類表）参照。**

クラッチオイルタンク (1) はクラッチレバーの根元の先にあります。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

走行前に、タンク内のオイルレベルを確認して下さい。39 ページ（クラッチ）参照。クラッチ制御装置オイルは、**aprilia 社オフィシャルディーラー**に依頼して２年ごとに交換を行って下さい。

⚠ 危険

クラッチ制御装置からオイル漏れが見られる場合は、車体を使用しないで下さい。

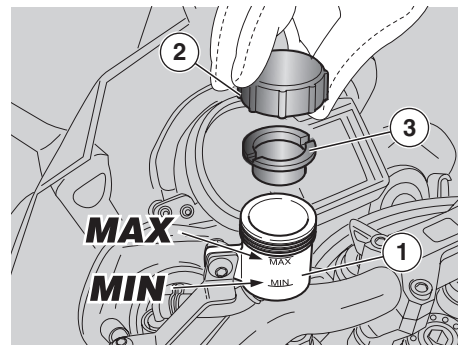
クラッチ

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

10000 km (6250 mi) 走行ごとに、クラッチの点検を **aprilia 社オフィシャルディーラー**に依頼してください。

競技的な走行をすることが多い場合は：

5000 km (3120 mi) 走行ごとに、クラッチの点検を **aprilia 社オフィシャルディーラー**に依頼してください。

重要： このモーターサイクルのエンジンには油圧制御式クラッチが装備されており、ブレーキ時にリアホイールが飛び跳ねるのを防ぎます。この PPC (Pneumatic Power Clutch) には当社が特許を専有しています。

クラッチオイルの点検

- ◆ ハンドルをまっすぐに保ちながら、車両を垂直にします。
- ◆ タンク内のオイル液面が “**MIN**” マークより上にあることを確認します。
  MIN= 最低レベル
  MAX= 最大レベル
- ◆ 液面が “**MIN**” マークに達していない場合はクラッチオイルを補充してください。

クラッチオイルの補充

38 ページ（クラッチオイル – 注意事項）**をよく読んでください。**

⚠ 注意

クラッチオイルがタンクから溢れ出す危険があります。タンクキャップを緩めたり外したりした状態では、決してクラッチレバーを操作しないでください。

⚠ 危険

クラッチオイルを長時間空気に触れさせないよう注意してください。
クラッチオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。
オイル補充のため必要な場合にのみ、タンクキャップを開けるようにしてください。

◆ キャップ (2) を回して外します。

⚠ 注意

オイルをこぼさないよう、補充中は車体を揺らさないでください。
オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。
じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

◆ オイルシール (3) を取り外します。

◆ 116 ページ（指定油脂類表）に指定されたクラッチオイルを、液面がタンク (1) の“**MIN**” と“**MAX**” マークの間に来るまで補充します。

⚠ 注意

補充の際は液面が “MAX” レベルを超えないようにしてください。
クラッチの性能の点検を行って下さい。
クラッチ制御ハンドルの過剰な回転、またはクラッチが正常に機能しなくなった場合には、aprilia 社オフィシャルディーラーにお問い合わせ下さい。クラッチから余分な空気を抜く必要がある場合があります。

冷却液

⚠ 注意

冷却液の量が規定レベル (LOW) 以下の時はモーターサイクルを使用しないでください。

重要： 冷却液の補充の際は、右側サイドフェアリングを取り外すしてください。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

発進の前に冷却液の量を点検してください。42 ページ（冷却液の点検と補充）参照。また、2 年に一度は **aprilia 社オフィシャルディーラー**にて交換してください。

⚠ 危険

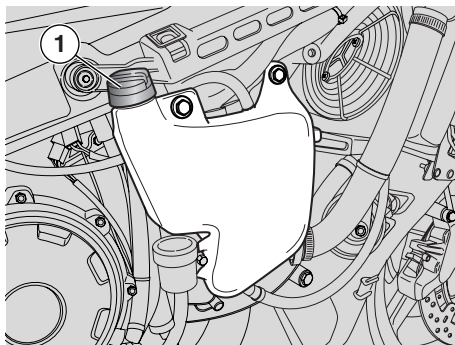
冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。また、皮膚に付いたり眼に入ったりすると炎症の原因になります。

冷却液が皮膚に付いたり、眼に入ったりした時は、流水で充分に洗い落とし医師の診察を受けてください。誤って飲み込んだ場合には吐き出してから喉、口を水で充分に洗浄し、直ちに医師の診察を受けてください。

冷却液は子供の手の届かない場所に保管してください。

環境保護のため冷却液は適切に処理してください。

熱くなっているエンジンに冷却液をこぼさないよう注意してください。目にみえない炎を発し火災の原因になります。

冷却液のメンテナンスをする際はゴム手袋の着用をお薦めします。

⚠ 注意

冷却液の交換は aprilia 社オフィシャルディーラーにご依頼ください。

冷却液は水 50%と不凍液 50%で作られています。

この混合率の冷却液は通常の使用温度範囲において最適であり、また防錆効果も良好です。

この混合率の冷却液は蒸発による減少が小さく、したがって補充回数も少なくてすみますので、夏季も含めて一年中この混合率を維持するようお薦めします。

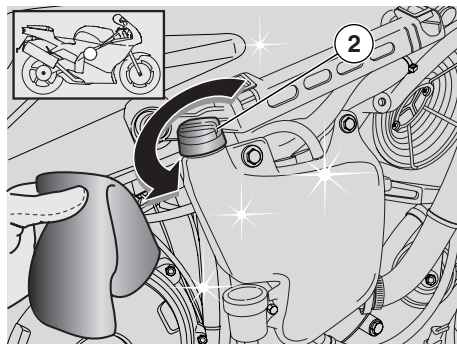
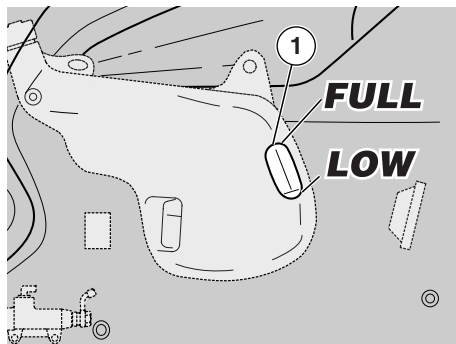
また、蒸発によってラジエーターの中に残るミネラル結晶の発生も少なくなるため、冷却系統の性能を維持することができます。

外気温が 0° 以下になる場合は頻繁に冷却系統の点検を行なってください。必要ならば不凍液の混合率を (最大 60% まで) 上げてもかまいません。

エンジンに損傷を与えないよう、冷却液の水は蒸留水のみ使用してください。

⚠ 危険

エンジンが熱い間は冷却液が加圧されており液温も高いのでエキスパンションタンクの栓(1)を決して外さないでください。

冷却液が皮膚や衣服につくとひどい火傷や衣類の損傷をおこすことがあります。

冷却液の点検と補充

⚠ 危険

冷却液の点検や補充はエンジンが冷えている時に行なってください。

◆ エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。

◆ 両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。

◆ エキスパンションタンク内の冷却液の液面が "**FULL**" と "**LOW**" マークの間にあることを (右側サイドフェアリングの確認窓 (1) から) 確認します。
FULL= 最大レベル
LOW= 最低レベル

液面が "MIN" マークの近くか下の場合：

◆ サイドフェアリングを取り外します。81 ページ（サイドフェアリングの取り外し）参照。

◆ キャップ (2) を緩めて外します。

⚠ 危険

冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。また、皮膚に付いたり眼に入ると炎症の原因になります。
冷却液の有無をみるために、指や他の物品を挿入しないでください。

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

◆ 116 ページ（指定油脂類表）に指定された冷却液を、液面が "**FULL**" マークに近づくまで補充します。ただしこのマークを超えないよう注意してください。エンジンを始動したときに冷却液がタンクから溢れ出す危険があります。

◆ 注入口のキャップ (2) を元どおり締めます。

⚠ 注意

冷却液の減りかたが激しかったり、エキスパンションタンクが空になったりする場合は、冷却液のパイプラインに液漏れがないか点検してください。
修理が必要な場合は aprilia 社オフィシャルディーラーにご依頼ください。

タイヤ

このモーターサイクルは、チューブレスタイプのタイヤを装備しています。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

⚠ 危険

室温でのタイヤ空気圧を 15 日ごとに点検してください。
初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 15 日ごとに、タイヤの状態と室温でのタイヤ空気圧を点検してください。112 ページ（テクニカルデータ）参照。

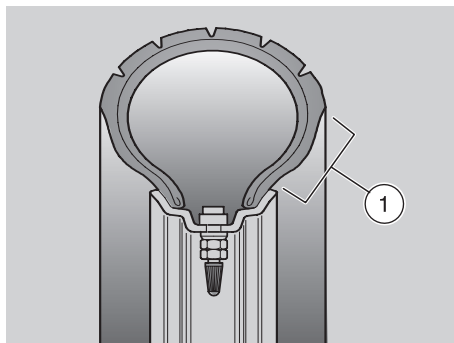
タイヤが熱くなっている時には正確な測定はできません。

特にロングツーリングの前後には必ず空気圧を測定してください。

空気圧が高すぎると、路面の凹凸のショックが吸収されずハンドルに直接伝わるため、走行の快適さやカーブでの安定性を失います。

また逆に空気圧が低すぎると、タイヤの側面 (1) に負荷がかかり、リムからずれたり浮き上がったりして車体のコントロールを失う危険があります。

特に急ブレーキの際にはリムから外れる危険もあります。

さらに、カーブでは車体の横滑りを起こしやすくなります。

⚠ 危険

タイヤの状態が悪いと路面グリップ力や操縦性を損ないますので、タイヤの接地面や側面の状態、および摩耗を常に点検してください。

本車体用に保安基準認定を受けたタイヤのうち、種類によっては摩耗度の表示を備えたものがあります。

摩耗度の表示にはいろいろな種類がありますので、お買い上げになったディーラーまで摩耗度の検査についてお問い合わせ下さい。

タイヤの修理を受けた後は必ずホイールバランスの点検を受けてください。

全体が摩耗していたり、トレッドに 5 mm 以上の亀裂があるような場合は、タイヤの交換を依頼してください。

タイヤの修理を受けた後は必ずホイールバランスの点検を受けてください。

⚠ 危険

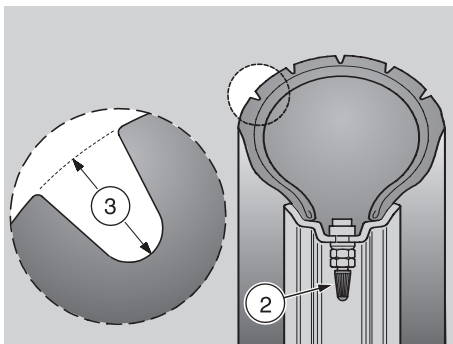
タイヤは、メーカーの推奨する型式のものとのみ、交換を行って下さい。112 ページ（テクニカルデータ）参照。推奨されている型以外のタイヤを使用すると、車体の走行性に悪影響をもたらします。

チューブ入りタイヤ用のリムにチューブレスタイヤを取り付けたり、逆にチューブレスタイヤ用のリムにチューブ入りタイヤを取り付けたりしないでください。

空気漏れを防ぐため、常にバルブキャップ (2) を使用してください。

タイヤの交換、修理、メンテナンス、ホイールバランシングは非常に重要な作業のため、適切な設備と熟練が必要です。

上記の理由から、タイヤに関する作業は aprilia 社オフィシャルディーラーまたは有名タイヤショップにご相談ください。タイヤが新しいうちは表面が滑りやすい保護ワックスで被われていますので注意して運転してください。タイヤ表面に不適当な液体やオイルなどを塗らないでください。タイヤは古くなると硬化し、たとえ摩耗していなくても路面のグリップ力が落ちます。

このような時には新品と交換してください。

タイヤ摩耗限界・溝の深さ (3)：

フロント及びリア 2 mm （USA 3 mm）

いずれの場合にも、車体を使用する国の、現行の法規定により定められている値を下回らないこと。

エンジンオイル

⚠ 危険

エンジンオイルを毎日、かつ長期間扱っていると皮膚に重大な損傷を与えることがあります。

エンジンオイルを扱った後は手をきれいに洗ってください。

燃料は子供の手の届かない場所に保管してください。

環境保護のためエンジンオイルは適切に処理してください。

使用済みのオイルは密閉容器に入れ、行きつけのガソリンスタンド、オイル処理施設等へ持参して処理を依頼してください。

メンテナンス作業の際はゴム手袋の着用をお薦めします。

⚠ 注意

走行中など、エンジン稼働中に警告灯"⚠"とエンジンオイル警告灯""が同時に点灯した場合は、エンジンオイル系統内のオイルが不足していることを示します。

この場合には、エンジンオイルのレベルを確認して下さい。64 ページ（エンジンオイル量の点検と補充）参照。正しいレベルでない場合は、直ちにエンジンを止め、aprilia 正規ディーラーまでお問い合わせ下さい。

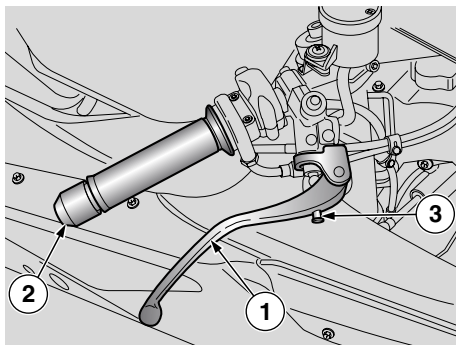
⚠ 注意

慎重に作業してください。
オイルを撒き散らさないようにしてください！
部品や作業している場所、その周囲などを汚さないよう注意してください。オイルが付着した場合は丁寧に拭き取ってください。

液漏れや正常に機能しない場合は、aprilia 社オフィシャルディーラーまでご相談ください。

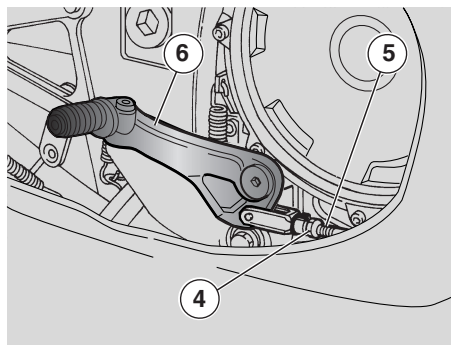
エンジンオイルのレベルは、定期的に点検を行って下さい。64 ページ（エンジンオイル量の点検と補充）参照。

エンジンオイルの交換方法については、61 ページ（定期点検整備表）および 65 ページ（エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターの交換）参照。

重要： 粘度 15W-50 の高品質のオイルのみ使用してください。116 ページ（指定油脂類表）参照。

フロントブレーキレバーおよびクラッチレバーの調整

レバー (1) とハンドルグリップ (2) の間隔は、アジャスター (3) を回すことで調整可能です。

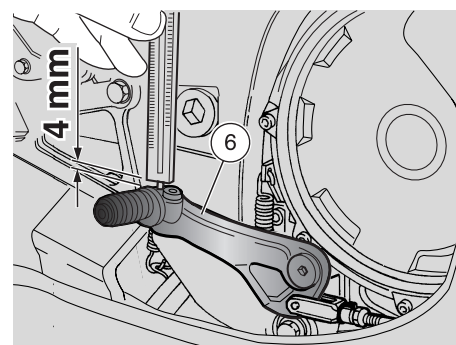
アジャスターの目盛り "MAX" および "MIN" が、レバーの先端とハンドルグリップの間隔、約 126 および 83 mm に相当します。

◆ ★レバー (1) を前方に押しながらアジャスター (3) を回し、好みの間隔になるよう目盛りを三角指針に合わせます。

リアブレーキペダルの遊びの調整

リアブレーキペダルは、モーターサイクル生産の際、人体工学的に見て最適な位置に取り付けられています。

必要な場合はリアブレーキペダルの遊びを調整することも可能です：

◆ ロックナット (4) を緩めます。

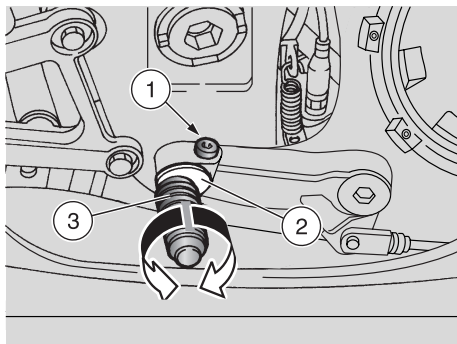
◆ ポンプコントロールロッド (5) とポンプピストンとの間隙が最低 **0.5 ～ 1 mm** になるようにロッドを回します。

⚠ 注意

ブレーキペダル (6) の遊びを確認してください。遊びがないと、ブレーキが解除されずブレーキパッドやディスクが早く摩耗します。

ブレーキペダル (6) の遊び : 4 mm (ペダルの先端にて)。

◆ ポンプコントロールロッド (5) をロックナット (4) で固定します。

⚠ 注意

調整後、ブレーキを解除した時にリアホイールが自由に回転することを確認してください。ブレーキの効き具合を点検してください。必要な場合は aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

リアブレーキペダルおよびシフトペダルの調整

ペダルは、モーターサイクル生産の際、人体工学的に見て最適な位置に取り付けられていますが、ライダーの必要に合わせて調整も可能です。

◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。
◆ ネジ (1) を途中まで緩めます。
◆ ペダル(3)が好みの位置になるよう、カム (2) を回します。
◆ ネジ(1)を元どおり締めます。カムが安定していることを確認してください。

⚠ 注意

シフトペダルの調整が充分でない場合は、aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

マフラー / 排気マフラー

⚠ 危険

騒音制御装置に勝手に変更を加えることは禁止されています。

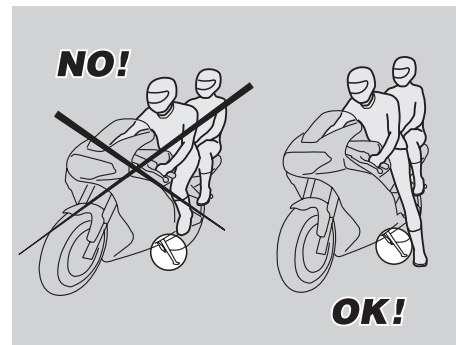
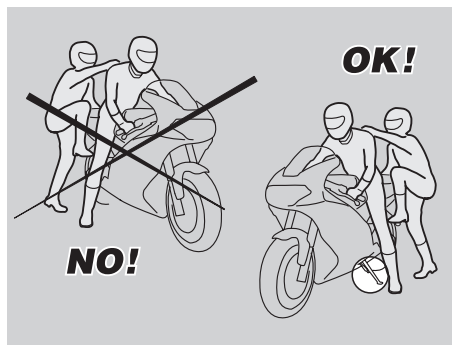
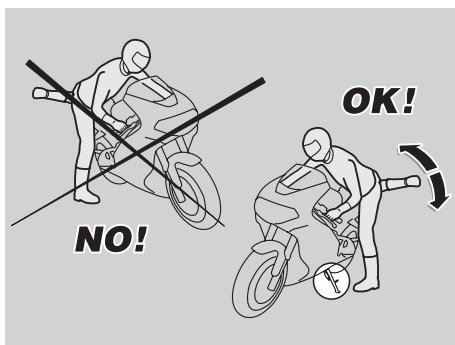
車体のオーナーは、以下の内容が法律で禁止され得ることを認識してください :

- メンテナンス、修理もしくは備品交換目的以外で、新車に内蔵されている構成装置もしくは要素を取り外したり作動できなくして、車体の最終購入者への販売または納品前や車体の起動中に、騒音の放出を点検すること
- 上記の構成装置もしくは要素を、取り外したり作動できなくしてから車体を使用すること。

マフラー / 排気マフラー及びマフラー管を点検して、さびの兆候や穴がないこと、排気装置が正しく操作していることを確認してください。

排気装置が発する騒音が増大する場合には、即刻 **aprilia** 社オフィシャルディーラーまでご相談ください。

⚠ 危険

排気マフラーは両方とも触媒コンバーターが搭載されています。
したがって排気マフラーは非常に高温になりますので、接触しないよう注意してください。

車両への乗り降り

次の安全のための注意事項は特に注意してお読みください。ドライバーやパッセンジャーが車両から転落したり、車両が転倒したりすることによる、人身傷害や器物および車両への損傷を防ぐためのものです。

⚠ 危険

転落や転倒の危険があります。
慎重に行なってください。

車両への乗り降りは、自由に身動きが取れ、また両手に何も（物や着用していないヘルメット、グローブ、眼鏡など）持たない状態で行なってください。

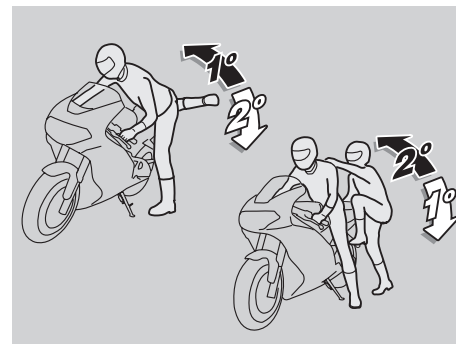
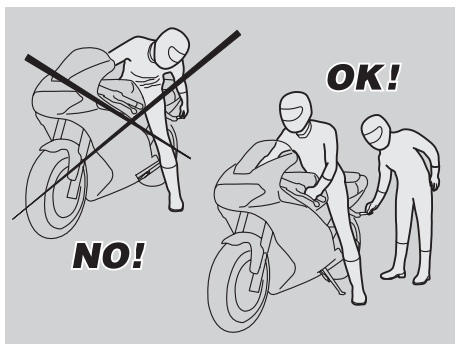
車両への乗り降りは、必ず車体の左側から、また必ずサイドスタンドを降ろした状態で行なってください。

⚠ 注意

サイドスタンドにはご自分の体重やパッセンジャーの体重をかけないようにしてください。

サイドスタンドは車体重量とわずかな重量の積荷を支えられるよう設計されています。ライダーやパッセンジャーの体重は含まれていません。

サイドスタンドを立てた状態で乗車するのは、転落や転倒の危険を防ぐことのみが目的です。サイドスタンドにはライダーやパッセンジャーの体重をかけないでください。

乗り降りの際、車体重量のためバランスを失い、その結果転落や転倒する危険があります。

重要： 必ずライダーが先に乗り、後で降りるようにしてください。パッセンジャーが乗り降りする間は、ライダーがバランスを取り安定を確保します。

一方、パッセンジャーは車体やライダーのバランスを崩さないよう、慎重に乗り降りしてください。

重要： 乗り降りの方法をパッセンジャーに指示するのはライダーの役割です。

車両にはパッセンジャーの乗り降りのためのパッセンジャーフットレストが備えられています。パッセンジャーは乗り降りの際必ず左側のフットレストを使用してください。

飛び降りようとしたり、地面まで直接足を伸ばして降りようとしたりすることはやめてください。このような行為はどちらも車体のバランスを崩し安定を失う原因となります。

重要： 車体後方の積荷や取り付け物などが乗り降りの妨げとなる場合があります。

いずれの場合にも、車体のバランスを崩さないよう慎重に右足を動かして車体後部(テール部または積荷)の上を通します。

乗り方

◆ ハンドルを正しく握り、サイドスタンドに体重をかけないように注意しながら乗ります。

重要： 両足とも地面に着けることが無理な場合は、右足を着けておき (バランスを崩しても左側はサイドスタンドで " 守られて " います)、左足はすぐに着けられるようにしておきます。

◆ 両足を地面に着け、車体を走行時の状態にまっすぐ起こしてバランスを保ちます。

重要： 運転姿勢を取っているライダーがパッセンジャーフットレストを引き出そうとしてはいけません。車体のバランスを崩し安定を失う原因となります。

◆ パッセンジャーに指示して両側のパッセンジャーフットレストを引き出させます。
◆ パッセンジャーに乗り方を指示します。
◆ 左足でサイドスタンドを操作して完全に格納します。

降り方

◆ 駐車する場所を選びます。57 ページ（パーキング）参照。
◆ 車両を停止させます。57 ページ（停止）参照。

⚠ 危険

障害物のない堅く水平な場所に駐車してください。

◆ 左足のかかとでサイドスタンドを操作して完全に開きます。

重要： 両足とも地面に着けることが無理な場合は、右足を着けておき (バランスを崩しても左側はサイドスタンドで " 守られて " います)、左足はすぐに着けられるようにしておきます。

◆ 両足を地面に着け、車体は走行時の状態に起こしたままバランスを保ちます。
◆ パッセンジャーに降り方を指示します。

⚠ 注意

転落や転倒の危険があります。パッセンジャーが降りてしまったことを確認してください。
サイドスタンドに体重をかけないようにしてください。

◆ サイドスタンドが地面に着くまで車体を傾けます。
◆ ハンドルを正しく握って降ります。
◆ ハンドルを左側いっぱいに切ります。
◆ パッセンジャーフットレストを格納します。

⚠ 注意

車体が安定しているか確認してください。

走行前の点検

⚠ 危険

走行を始める前には必ず予備点検を行ない、モーターサイクルが確実に機能することを確認してください。右表 (走行前の点検) 参照。
この作業をしないで走行した場合には重大な人身傷害やモーターサイクルの損傷を引き起こす危険があります。

各部装置の機能が良く解らない時や、何らかの異常を感じた時はお気軽に **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

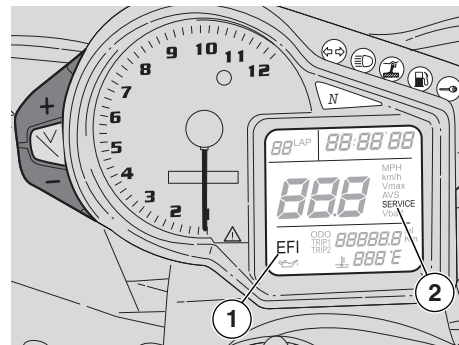
走行前の点検はライダーの安全のためにとても重要です。短い時間でできますので必ず実施してください。

重要： このモーターサイクルにはコンピューターボックスが装備されており、異常動作などをリアルタイムに発見しメモリーします。

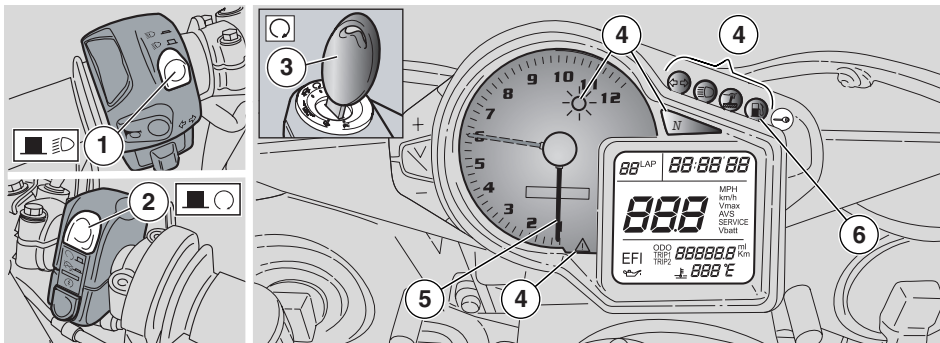
イグニッションスイッチを “○” の位置にあわせる度に、多機能ディスプレイ右側に、約 3 秒間 “EFI”(1) という文字が現れます。

⚠ 注意

エンジン稼働中に “EFI”(1) と表示された場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。たいていの場合エンジンは動作し続けますが性能は制限されます。直ちに aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

⚠ 注意

最初は 1000 km (625 mi)、その後は 10000 km (6250 mi) ごとに、右側ディスプレイに “SERVICE” (2) と表示されます。その際は定められた定期点検を aprilia 社オフィシャルディーラーにご依頼ください。61 ページ（ 定期点検整備表 ）参照。
“SERVICE” 表示をディスプレイから消去するには、キーを ON の位置に回して “＋” と “－” のボタンを同時に少なくとも 15 秒以上押してください。

走行前の点検

点検箇所	点検内容	参照頁
フロントおよびリアディスクブレーキ	ブレーキの効き具合、ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊び、ブレーキオイル量、オイル漏れの有無を点検。t ブレーキパッドの摩耗を点検。t 必要な場合はブレーキオイルを補充。	33, 34, 35, 37, 92
スロットル	ハンドルの角度に関わらずスロットルグリップが全開から全閉までスムーズに回転することを確認。必要な場合は調整や潤滑。	93
エンジンオイル	エンジンオイル量を点検。必要な場合は補充。	44, 64
ホイール／タイヤ	タイヤ表面の状態、空気圧、摩耗度、損傷などを点検。タイヤのトレッドのうねに異物がはまった場合は、取り除いて下さい。	43
ブレーキレバーおよびブレーキペダル	スムーズに動作することを確認。必要ならばジョイント部の潤滑や作動ストロークの調整。	45
クラッチ	クラッチの動作、クラッチレバーの遊び、クラッチオイル量、液漏れの有無を点検。必要な場合はクラッチオイルを補充。スムーズかつ滑らずに動作すること。	38, 39
ステアリング	回転が均一かつスムーズであること、がたつきや緩みがないことを確認。	–
サイドスタンド	スムーズに動作し、開閉の際に引っかかりなどがないこと、スプリングにより正しい格納ポジションに戻ることを確認。必要な場合はジョイント部を潤滑。サイドスタンドの安全マイクロスイッチが正常に動作することを確認。	96, 101
組み付け部品	全ての組み付け部分がしっかりと固定されていることを確認。必要な場合は調整、締め直し。	–
ドライブチェーン	チェーンテンションを点検。	78, 79
燃料タンク	ガソリン量を点検。必要な場合は補充。 燃料供給系統に漏れや閉塞がないことを確認。 燃料タンクキャップがしっかり閉じていることを確認。	32, 80
冷却液	エキスパンションタンク内の冷却液の液面が “**LOW**” と “**FULL**” マークの間にあることを確認。	40, 42
エンジンキルスイッチ (-)	正常に動作することを確認。	25
ライト類、インジケーター、警告ホーン、リアブレーキ・マイクロスイッチ、その他の電装パーツ	すべての装置が正常に作動することを確認。必要な場合はバルブの交換や故障部分の修理。	97 – 108

エンジンの始動

⚠ 危険

このモーターサイクルは多大な出力を持っていますので、運転に慣れるに従って徐々に出力を上げるようにし、常に慎重に運転してください。

スクリーンの内側（ハンドルとメーターパネルの間）には何も置かないでください。ハンドルの回転やメーターパネルの視界を妨げないためです。

重要： エンジンを始動する前に“安全運転のために”の章を注意深くお読みください。5 頁 (安全運転のために) 参照。

⚠ 危険

排気中には吸引すると大変危険な一酸化炭素が含まれています。
閉め切った室内や換気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。
この注意を守らないと酸素欠乏のため意識不明になったり、最悪の場合は死亡する危険があります。

重要： サイドスタンドが降りた状態では、ギアがニュートラルポジションにある時だけエンジンをかけることができます。この場合、ギアをニュートラル以外のポジションに入れようとするとエンジンが停止します。

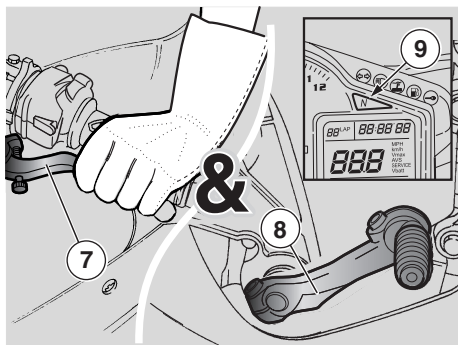
サイドスタンドが格納されている状態では、ギアがニュートラルポジションの時、もしくはクラッチが切ってあればどこのポジションでも、エンジンをかけることができます。

- ◆ ライダーシートにまたがります。47 ページ（車両への乗り降り）参照。
- ◆ サイドスタンドが完全に格納されているか確認してください。
- ◆ ディマースイッチ (1) を“≣D”の位置にします。
- ◆ エンジンキルスイッチ (2) を“■○”側に押します。
- ◆ イグニッションキー(3)を“○”の位置に回します。

この時点で：

- デジタルディスプレイのすべての数字が約 3 秒間点灯します。
- メーターパネル上のすべてのインジケーター (4) とバックランプが約 3 秒間点灯します。
- タコメーター (5) がセットされたレッドゾーン開始値を 3 秒間示した後、最小値を表示します。
- 通常の走行中は、パネルには現在値を表示します。

⚠ 注意

メーターパネル上の燃料警告灯“⛽”(6) が点灯した場合は、できるだけ速やかに燃料を補充してください。**32 ページ（燃料）参照。**

重要： 距離単位 (km または mi)、冷却液の温度単位 (ºC または ºF)、レッドゾーン開始値、デジタルクロック、ストップウォッチ等は変更・設定が可能です。18 ページ（多機能コンピューター）参照。

⚠ 危険

レッドゾーンの許容数は aprilia で 6000 回転 / 分に設定されています。に設定されています。最初は低めに設定し、モーターサイクルに慣れるに従って徐々に上げるようお薦めします。
慣らし運転期間はエンジン回転数を推奨値以上に上げないでください。56 ページ（慣らし運転）参照。

◆ フロントまたはリア、少なくともどちらかのブレーキをかけます。
◆ クラッチレバー (7) をいっぱいに引いてクラッチを切り、シフトペダル (8) をニュートラルにします [グリーンのインジケーター "N"(9) が点灯]。
◆ この車両にはコンピューターで制御されたスターターが搭載され、必要なときは自動的に始動します。(寒冷時の始動)

⚠ 注意

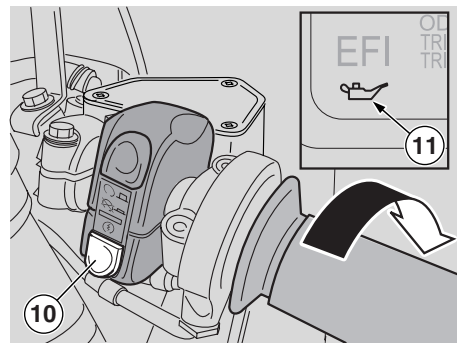
バッテリーの消耗を避けるため、スターターボタン "⦿" は 15 秒以上押し続けないでください。
この間にエンジンが始動しない場合は、10 秒間待ってから再度スターターボタン "⦿" を押します。

◆ スロ　ットルグリップを戻した状態でスターターボタン "⦿" (10) を押します。エンジンが始動したら直ぐに離してください。

⚠ 注意

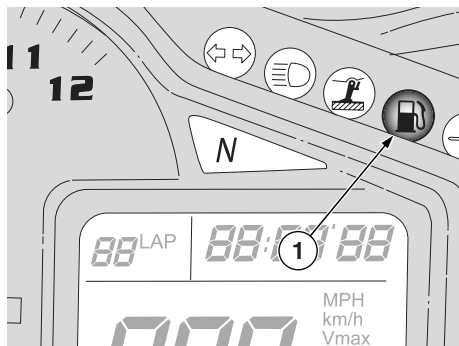
エンジンが始動した後はスターターボタン "⦿" (10) を押さないでください。スターターモーターを損傷します。

エンジン始動後もエンジンオイル警告灯 "🛢" (11) が消灯しなかったり、走行中に点灯するような場合は、エンジンオイルが不足していることを示しています。
この場合は直ちにエンジンを停止し、aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

◆ 発進させるまではスロットルグリップを回さないでください。また、少なくとも一方のブレーキをかけておいてください。

⚠ 注意

エンジンが暖機されていない状態では急激な発進をしないでください。
汚染物質の排出と燃料消費を抑えるため、最初の数キロは低速で走行しエンジンを温めるようにしてください。

⚠ 注意

エンジン稼働中にディスプレイ (多機能) に "EFI" と表示された場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。
たいていの場合エンジンは動作し続けますが性能は制限されます。直ちに aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

発進と走行

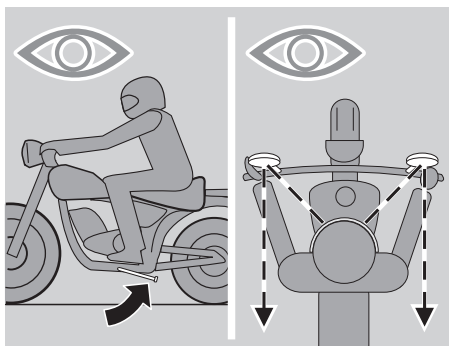
⚠ 危険

このモーターサイクルは多大な出力を持っていますので、運転に慣れるに従って徐々に出力を上げるようにし、常に慎重に運転してください。

スクリーンの内側（ハンドルとメーターパネルの間）には何も置かないでください。ハンドルの回転やメーターパネルの視界を妨げないためです。

重要： 発進の前に“安全運転のために”の章をよく読んでください。5 頁 (安全運転のために) 参照。

⚠ 注意

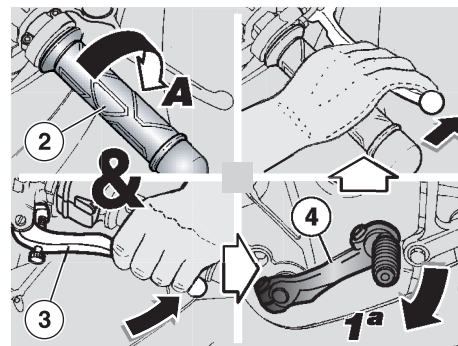
走行中に、メーターパネル上に燃料リザーブライトが点灯すると、まだ 4 リットルの燃料が残っていることを示します (1)。なるべく早く、燃料の補充を行って下さい。32 ページ（燃料）参照。

⚠ 危険

パッセンジャーがいない場合は、パッセンジャー用フットレストが閉じていることを確認してください。
また運転中は常に両手でハンドルをしっかり握り、両足はフットレストに乗せておいてください。

決して変則的な姿勢で運転しないでください。

⚠ 危険

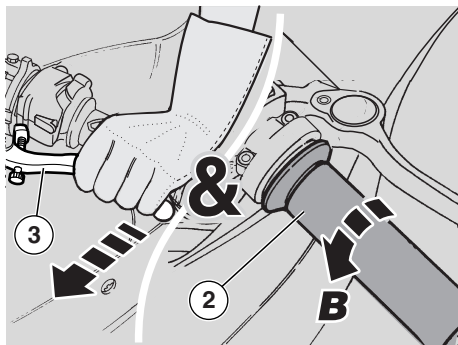
パッセンジャーが乗る場合には、運転中にライダーのハンドル操作を妨げないように注意を促してください。

発進の前に、スタンドが完全に通常の位置に戻っているか確認して下さい。

発進の方法：

- ◆ エンジンを始動します。51 ページ（エンジンの始動）参照。
- ◆ バックミラーの向きを正しく調整します。

⚠ 注意

停止した状態でバックミラーの使用法に慣れてください。ミラーの表面は凸面になっているため、対象物までの距離が実際よりも遠く見えます。“広角視界”のこのミラーで、後方から来る車両との距離を正確に判断するには経験が必要です。

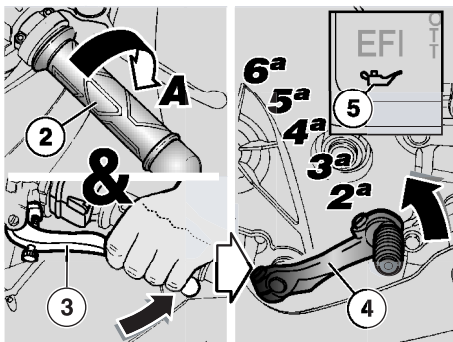
- ◆ スロットルグリップ(2)を戻し (**Aの方向**)、エンジンをアイドリングにした状態で、クラッチレバー(3) を一杯に引きクラッチを切ります。
- ◆ シフトペダル(4)を踏み込んでギアを1速に入れます。
- ◆ (エンジン始動の際に) かけておいたブレーキを離します。

⚠ 危険

発進の際、クラッチレバーを急に離すとエンストや車体の振動を起こす原因になります。

クラッチレバーを離す時は、スロットルグリップを急激に回したり、回し過ぎないようにしてください。(クラッチレバーをゆっくり離した場合は) クラッチが “ 滑る ” 現象を起こしたり、(クラッチレバーを急に離した場合は) 前輪が浮き上がったりする原因になります。

◆ クラッチレバー (3) をゆっくり離しながらスロットルグリップ (2) を徐々に回します (**B の方向**)。

モーターサイクルが発進を始めます。

◆ 最初の数キロは低速で走行しエンジンを温めるようにしてください。

⚠ 注意

エンジン回転数を推奨値以上に上げないでください。56 ページ（ 慣らし運転 ）参照。

◆ スロットルグリップ (2) を徐々に回して (**Bの方向**)加速します。ただしエンジン回転数を推奨値以上に上げないでください。56 ページ（ 慣らし運転 ）参照。

2 速へのギアチェンジ :

⚠ 注意

ギアチェンジは速やかに行なってください。
低すぎる回転数で走行しないでください。

◆ スロットルグリップ(2)を戻し(**Aの方向**)、クラッチレバー(3) を引いてからシフトペダル (4) をつま先でかき上げ、クラッチレバー (3) を戻してから加速します。

◆ 前記 2 項目の操作を繰り返すことでギアのシフトアップができます。

⚠ 注意

エンジン稼働中にエンジンオイル警告灯 “” (5) が点灯するような場合は、エンジンオイルが不足していることを示しています。

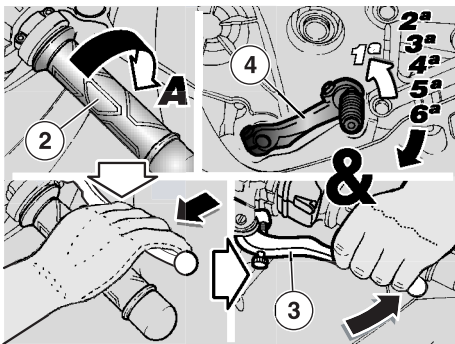
この場合は直ちにエンジンを停止し、aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

ギアの “ シフトダウン ” は以下のような場合に必要です :

◆ 下り坂の走行やブレーキをかける際に、エンジンブレーキを併用することで制動効果をより高めたい時。

◆ 上り坂の走行で、現在のギアポジションが走行速度に適切でなく (ギアポジションに対して走行速度が低すぎる)、エンジン回転数が落ち始めた時。

⚠ 注意

シフトダウンは一段ずつ行なってください。一度に 2 段以上シフトダウンすると、エンジンが許容回転数 “ レッドゾーン ” を超えてしまう危険があります。
“シフトダウン” の前およびシフトダウン中は、スロットルグリップを戻し速度を落としてください。エンジンが許容回転数 “ レッドゾーン” を超えてしまう危険があります。

“シフトダウン” は次の手順で行ないます:

◆ スロットルグリップ (2) を戻します (**A の方向**)。
◆ 必要な場合は、ゆっくりと両輪のブレーキをかけて速度を落とします。
◆ クラッチレバー (3) を引いてクラッチを切り、シフトペダル (4) を踏み下げてギアをシフトダウンします。
◆ ブレーキをかけていた場合は、ブレーキを解除します。
◆ クラッチレバーを戻してからゆっくりと加速します。

⚠ 注意

デジタル・ディスプレイに冷却液温度が 115 °C (239 °F) から 135 °C (275 °F) と表示された場合には (18 ページ(多機能コンピューター)参照)、走行を中止し、約 2 分間エンジンを 3000 回転/分 (rpm) に保ち冷却液を循環させます。その後エンジンキルスイッチを ″ ″ 側に押し、冷却液の量を点検してください。40 ページ(冷却液)参照。

冷却液の点検後も冷却液温度インジケーターの点滅が消灯しない場合は、aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

イグニッションスイッチを “ ” の位置に回さないでください。冷却液温度にかかわらず冷却ファンが停止してしまい、さらに温度が上がることになります。

エンジン稼働中に右側ディスプレイ (多機能) に “EFI” と表示された場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。

たいていの場合エンジンは動作し続けますが性能は制限されます。直ちに aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

クラッチの過熱を防ぐため、エンジン稼動中に車体停止のままギアを挿入しクラッチレバーを稼動させることは、できるだけ避けて下さい。

⚠ 危険

スロットルグリップを続けて何度も開閉させることは避けてください。車体ののコントロールを失う危険があります。ブレーキ操作の際は、先ずスロットルを閉じ、安定した均一な制動力を得るよう両輪のブレーキを適切に操作してください。

フロントまたはリアどちらか一方のブレーキしか使用しない場合には、制動力がかなり弱くなり、また車輪がロックしてスリップする危険があります。

上り坂で停止する際は、スロットルを完全に閉じ、両輪のブレーキを使用して車体を保持してください。

ブレーキを使用せずに、車体が後退しないようにエンジンをふかし続けると、クラッチが過熱し損傷を受けます。

カーブに入る前には充分に減速し、ハンドルを切っている間は一定の速度を保つか、逆に少し加速してください。限界までブレーキをかけることは避けてください。スリップする危険が高くなります。

下り坂でブレーキを連続的に使うとブレーキパッドが過熱し、制動力が弱まります。下り坂では必ずエンジンブレーキを活用し、フロントおよびリアブレーキは断続的に併用してください。

下り坂をエンジンを停めて走行することは絶対にやめてください。

視界の悪い状態で走行する際は、たとえ昼間でもヘッドライトを点灯してモーターサイクルが見えやすいようにしてください。濡れた路面や滑りやすい条件ではゆっくりと走行し、スリップや転倒の原因となる急ハンドル、急ブレーキを避けてください。

⚠ 危険

路上の障害物や路面状態の変化には最大限の注意を払ってください。
荒れた路面、鉄道のレール、マンホールの蓋、路上の塗装表示、工事現場の鉄板などは雨に濡れるとスリップしやすく危険です。このような場所では急なハンドル操作をせず、また車体をなるべく傾けずに走行してください。

車線変更や方向転換の際には早めにウインカーライトで意志表示をし、急なハンドル操作や危険な運転を避けてください。

車線変更、方向転換した後は直ちにウインカーライトを消灯してください。

他の車両を追い越したり、また、追い越されたりする間は、最大限の注意を払ってください。

雨天走行時は大型車両からの水煙で見通しが悪くなります。また圧力差による横風で車体のコントロールを失う危険がありますので充分注意してください。

慣らし運転

エンジンの慣らし運転は、エンジンを長持ちさせ、正しい性能を引き出すためにとても重要です。

できればカーブや起伏の多い道を選んで走行するとエンジン、サスペンション、ブレーキなどがより効果的に慣らし運転されます。

慣らし運転中はさまざまな速度で走行するようにしてください。このことにより、エンジンの各パーツへ“負荷”を与えたり、逆に“無負荷”にして冷ましたりします。

ただし、エンジンへ負荷を与えることは重要ですが、限度を超えないよう注意してください。

重要： 1500 km (937 mi) の慣らし運転を終えないとエンジンの最高性能を引き出すことはできません。

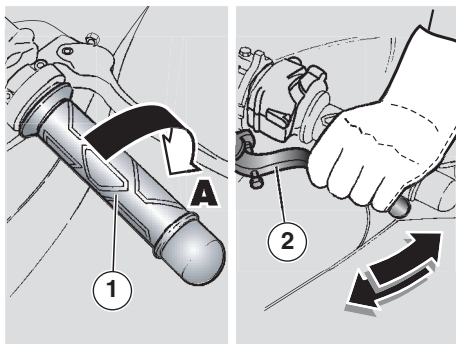
以下の注意事項を守ってください：

◆ エンジンが低速回転中に、急激にスロットルを開けたり全開にしたりしないでください。慣らし運転期間、慣らし運転終了後ともこの注意を守ってください。
◆ 最初の 100 km (62 mi) まではブレーキ操作は慎重に行ない、急ブレーキや長いブレーキ操作は避けてください。ブレーキディスクとパッドを正しく馴染ませるために重要です。
◆ 最初の 1000 km (625 mi) までは決して6000回転／分(rpm) を超えないようにしてください。

⚠ 危険

ライダー自身を含む人身事故や車両の損傷を防ぐため、積算走行距離が 1000 km (625 mi) に達したら aprilia 社オフィシャルディーラーにて定期点検を行なってください。61 ページ（定期点検整備表）の“慣らし運転後”の項参照。

◆ 走行距離が 1000 km (625 mi) ～ 1500 km (937 mi) の間は、各パーツを馴染ませるためそれまでよりももう少しラフに乗り回し、速度を変化させたり、無理のない範囲でスロットル開度を大きくしたりなどして、高い回転域を徐々に使うようにします。ただし、この期間は最高回転数が 7500 回転／分 (rpm) を超えないようにしてください (下表参照)。
◆ 走行距離が 1500 km (937 mi) を超えると、エンジンの最高性能を引き出せますが、その際でも許容回転数 (11000 回転／分 (rpm))を超えないように注意してください。

慣らし運転期間中のエンジン許容回転数	
積算走行距離 km (mi)	**回転／分 (rpm)**
0 ～ 1000 (0 ～ 625)	6000
1000 ～ 1500 (625 ～ 937)	7500
1500 (937) 以降	11000

停止

⚠ 危険

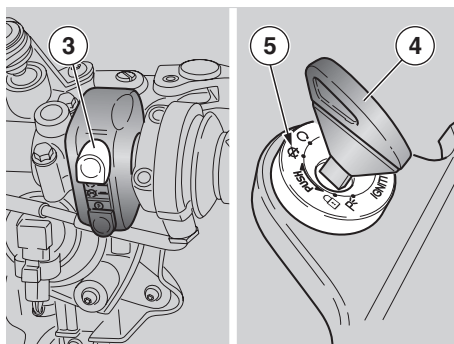
急ブレーキ、急停止、限界までのブレーキなどはできるだけ避けてください。

- 速度を落とすには、スロットルグリップ (1) を戻し (**A の方向**)、両輪のブレーキを徐々にかけ、同時にギアを " シフトダウン " します。53 ページ (発進と走行) 参照。

速度が落ちてきたらモーターサイクルを完全に停止させる前に :

- エンストを防止するためクラッチレバー (2) を引きます。

モーターサイクルが停止したら :

- シフトペダルをニュートラルにします (グリーンのインジケーター "N" 点灯)。
- クラッチレバー (2) を離します。
- 一時停止中は、フロントまたはリア、少なくとも一方のブレーキをかけておきます。

パーキング

駐車場所の選択は大変重要です。交通標識を遵守し下記の注意事項をお守りください。

⚠ 危険

転倒を防ぐため、堅く水平な場所に駐車してください。
車体を壁などに立てかけたり、地面に寝かせて置いたりしないでください。
車体、特に熱くなっている部分が周囲の人々や子供にとって危険にならないよう注意してください。エンジンがかかった状態や、イグニッションスイッチにキーを挿し込んだ状態で放置しないでください。

たとえ止まっていても冷却ファンには近づかないでください。急に回り始めて衣服の端や髪の毛などを巻き込む危険があります。

⚠ 危険

転倒や車体の傾きすぎは燃料流出の原因となります。
内燃機関用の燃料は大変引火しやすく、時には爆発することもあります。

⚠ 注意

サイドスタンドにはご自分の体重やパッセンジャーの体重をかけないようにしてください。

パーキング方法 :

- 駐車場所を選びます。
- モーターサイクルを停止させます。57 ページ (停止) 参照。
- エンジンキルスイッチ (3) を " " 側に押します。
- キー (4) を回してイグニッションスイッチ (5) を " " の位置に回します。

⚠ 危険

車両への乗り降りの際の手順を必ずお守りください。47 ページ (車両への乗り降り) 参照。

- 手順に従って、(パッセンジャーがいる場合は) パッセンジャーを先に降りさせてから、ライダーが降ります。
- ステアリングロックをかけます。27 ページ (ステアリングロック) 参照。キー (4) を抜き取ります。

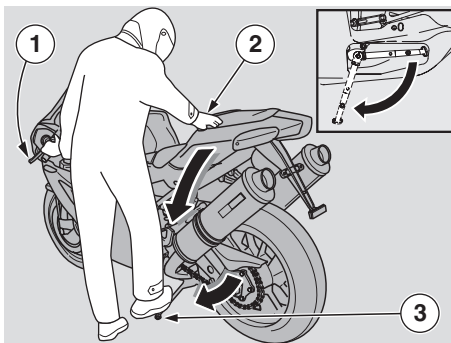
⚠ 危険

車体が安定しているか確認してください。

スタンドの立て方

サイドスタンド

運転姿勢からサイドスタンドを使って車体を立てる手順については、47 ページ（車両への乗り降り）を参照してください。何らかの操作 (たとえば車両の移動) のためにスタンドを格納する必要があった場合は、次の手順で再びスタンドを立ててください：

⚠ 危険

障害物のない堅く水平な場所に駐車してください。

- ◆ 駐車する場所を選びます。57 ページ（パーキング）参照。
- ◆ 左ハンドル(1) を握り､右手を車体後方の上部 (2) に置きます。
- ◆ 右足でサイドスタンド (3) を完全に開くまで踏み下げます。
- ◆ サイドスタンドが地面に着くまで車体を傾けます。
- ◆ ハンドルを左側いっぱいに切っておきます。

⚠ 危険

車体が安定しているか確認してください。

盗難防止のために

⚠ 注意

ディスクをロックする装置は使用しないでください。この注意が守られなかった場合は、ブレーキシステムを烈しく損傷したり、身体に重大な危害を与える、また場合によっては死に至る事故を引き起こす危険があります。

イグニッションスイッチにキーを挿し込んだままにしないでください。また常にステアリングロックをかけてください。

ガレージや監視人のいる確かな場所を選んで駐車してください。

なるべく何らかの盗難防止器具を使用してください。

関係書類に手落ちがないか、また税金は納入済みか確認してください。

下の欄に必要事項を記入しておくと、盗難車が発見された場合の所有者確認に役立ちます。

姓：.................................

名：.................................

住所：...............................

....

電話番号：...........................

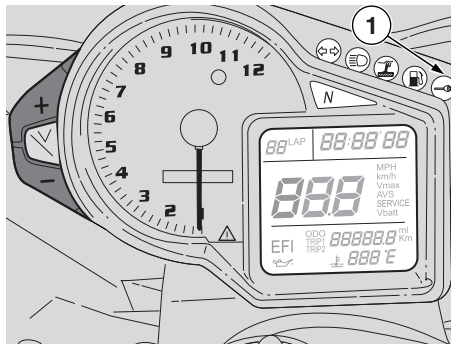
重要： このマニュアルに記入された事項で盗難車が確認されるケースがよくあります。

イモビライザー （搭載車両）

車両の盗難予防の対策として、“SECURNET IMMOBILIZER by CEV ZADI”のエンジンブロックシステムは、イグニッションキーがスイッチから外されると自動的に作動する盗難防止システムです。

スペアキーは安全な場所に保管してください。イモビライザーシステムキーは複製できません。両方のキーを失くすと、（キー操作ロックだけでなく）車両の多くの部品を交換しなければなりません。

それぞれのキーにはトランスポンダーと呼ばれる電子装置が内蔵されており、キー ON 時にスイッチに内蔵された特殊アンテナが出力するラジオ波信号を変調します。この変調信号は「パスワード」として機能し、認可を受けた登録キーがエンジンの始動に使用されているかどうかをコントロールユニットに伝達します。

重要： イモビライザーシステムは、登録キーを 4 本まで対応することができます。新たにキーを登録するには、マスターキーを保持している最寄りの正規ディーラーでのみ行うことができます。
プログラミング作業を行うと、すべての既存キーコードは消去されます。新たにキーを登録する場合、オーナーは使用するすべてのキーをディーラーに持ち込む必要があります。

イモビライザーの状態は、メーターパネルランプ（1）により確かめることができます：

- イモビライザー無効：ランプ消灯
- イモビライザー有効：ランプは盗難防止策として 3 秒毎に点滅します。
- 未登録キー：ランプは毎秒点滅します。

メンテナンス

⚠ 危険

火災の危険があります。
電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

点検整備を始める前には必ずエンジンを止め、キーをイグニッションスイッチから抜いて、エンジンと排気系統が完全に冷えるのを待ちます。できれば作業用スタンドなどを用い車体を持ち上げ、堅く水平な床面に置きます。

作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。

火傷の危険がありますので、熱くなっているエンジンや排気系統に触れないよう充分注意してください。

車両のいかなるメカ部品やパーツも口にくわえないでください。部品には食べてよいものはないばかりか、健康を害するものや有毒なものもあります。

⚠ 注意

特に指示がない限り、パーツの取り付けは取り外しの逆の手順で行なってください。メンテナンス作業の際はゴム手袋の着用をお薦めします。

通常のメンテナンスはユーザーでも行なえますが、中には特殊工具や技術的知識を必要とするものもあります。

そういった際や、定期点検、アシスタンスサービス、技術的アドバイスなどが必要な場合は、お気軽に **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

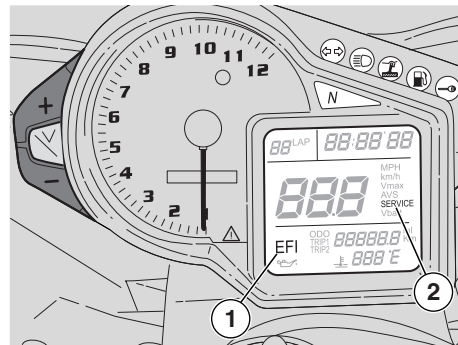
修理や定期点検整備の後には路上での走行テストを **aprilia** 社オフィシャルディーラーに依頼されるようお薦めします。

ただし、メンテナンス作業の後にはご自分でも必ず予備点検を行なってください。50 ページ（ 走行前の点検 ）参照。

重要： このモーターサイクルにはコンピューターボックスが装備されており、異常動作などをリアルタイムに発見しメモリーします。

イグニッションスイッチを “○” の位置にあわせる度に、多機能ディスプレイ右側に、約 3 秒間 “EFI”(1) という文字が現れます。

⚠ 注意

エンジン稼働中に “EFI”(1) と表示された場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。たいていの場合エンジンは動作し続けますが性能は制限されます。直ちに aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

⚠ 注意

最初は 1000 km (625 mi)、その後は 10000 km (6250 mi) ごとに、右側ディスプレイに “SERVICE” (2) と表示されます。その際は定められた定期点検を aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。61 ページ（ 定期点検整備表 ）参照。
“SERVICE” 表示をディスプレイから消去するには、キーオン時に 15 秒以上「+」および「－」ボタンを押し続けてください。

定期点検整備表

aprilia 社オフィシャルディーラーにて行なう作業 (ユーザーでも実施可能なもの)

各部名称

① = 点検。必要な場合は清掃、調整、潤滑、交換など。

② = 清掃。

③ = 交換。

④ = 調整。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

(*) = 15 日ごとまたは指定期間ごとに点検してください。

<table>
<tr><th>点検箇所</th><th>慣らし運転後 [1000 km (625 mi)]</th><th>5000 km (3125 mi) (サーキットでの頻繁走行の場合)</th><th>10000 km (6250 mi) または 12ヶ月ごと</th><th>20000 km (12500 mi) または 24ヶ月ごと</th></tr>
<tr><td>スパークプラグ</td><td></td><td>③</td><td>①</td><td>③</td></tr>
<tr><td>エアクリーナー</td><td></td><td>③</td><td>①</td><td>③</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルフィルター</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td><td></td></tr>
<tr><td>エンジンオイルフィルター (タンク上)</td><td>②</td><td>②</td><td></td><td>②</td></tr>
<tr><td>ライト類の動作／向き</td><td></td><td></td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>ライト系統</td><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>マイクロスイッチ類</td></tr>
<tr><td>クラッチオイル</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>ブレーキオイル</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>冷却液</td><td>①</td><td>①</td><td></td><td>①</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td><td></td></tr>
<tr><td>タイヤ</td><td colspan="4">1000 km (625 mi) 走行ごと：①</td></tr>
<tr><td>タイヤ空気圧 (*)</td><td colspan="4">1000 km (625 mi) 走行ごと：①</td></tr>
<tr><td>警告灯 (メーターパネル上) ⚠</td><td colspan="4">エンジン始動のつど：①</td></tr>
<tr><td>ドライブチェーンのテンション、潤滑</td><td colspan="4">1000 km (625 mi) 走行ごと：①</td></tr>
<tr><td>ブレーキパッド摩耗度</td><td>①</td><td>1000 km (625 mi) 走行ごと ①</td><td colspan="2">走行前に毎回、および 2000 km (1250 mi) 走行ごと：①</td></tr>
</table>

必ず aprilia 社オフィシャルディーラーにて行なう作業

各部名称

① = 点検。必要な場合は清掃、調整、潤滑、交換など。（ワークショップマニュアルの仕様に従って）

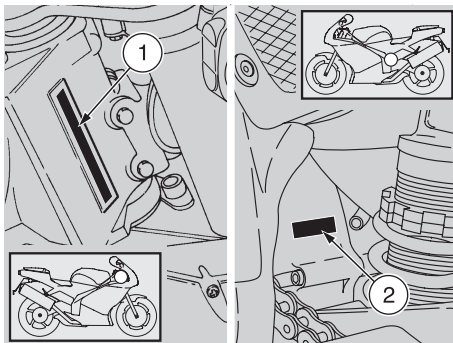
② = 清掃。

③ = 交換。

④ = 調整。

(*) = マグネットホイール・バージョンのみ；ホイールの塗装状態を確認してください。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

<table>
<tr><th>点検箇所</th><th>慣らし運転後 [1000 km (625 mi)]</th><th>5000 km (3125 mi) (サーキットでの頻繁走行の場合)</th><th>10000 km (6250 mi) または 12ヶ月ごと</th><th>20000 km (12500 mi) または 24ヶ月ごと</th></tr>
<tr><td>リアショックアブソーバー</td><td></td><td>①</td><td></td><td>①</td></tr>
<tr><td>ギアボックス</td><td></td><td>10000 km (6250 mi) 走行ごと：①</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>トランスミッションおよび制御系統のケーブル</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>リアサスペンション連接部ベアリング</td><td></td><td></td><td></td><td>①</td></tr>
<tr><td>ステアリングベアリング、ステアリングの遊び</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>ホイールベアリング</td><td></td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>ブレーキディスク</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>車両の動作具合一般</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>バルブの遊びの調整</td><td></td><td>④</td><td></td><td>④</td></tr>
<tr><td>ブレーキ系統</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>冷却系統</td><td></td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>クラッチオイル</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="2">12 カ月ごと：③</td><td colspan="2" rowspan="3">24 カ月ごと：③</td></tr>
<tr><td>ブレーキオイル</td></tr>
<tr><td>冷却液</td><td></td></tr>
<tr><td>フォークオイル</td><td></td><td>③</td><td>③</td><td></td></tr>
<tr><td>フォークオイルよけ</td><td></td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>ブレーキパッド</td><td colspan="4">摩耗している場合：③</td></tr>
<tr><td>ホイール / タイヤ (*)</td><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>ナット、ボルト、ネジ類の締め付け</td></tr>
<tr><td>各シリンダーの同期</td><td>①</td><td></td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>サスペンション、車体セッティング</td><td>①</td><td>①</td><td></td><td>①</td></tr>
<tr><td>最終トランスミッション (チェーン、リアおよびフロントスプロケット)</td><td></td><td>①</td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>燃料パイプ</td><td></td><td></td><td>①</td><td>4 年ごと：③</td></tr>
<tr><td>クラッチ摩耗度</td><td></td><td>①</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>ピストン</td><td></td><td>①</td><td></td><td></td></tr>
</table>

車体認識番号

フレームナンバーおよびエンジンナンバーをこのページに控えておくようお薦めします。

フレームナンバーはスペアパーツをオーダーする際に必要な場合があります。

重要： これらの認識番号を改ざんすることは重い刑事処罰および行政処罰の対象になります。特にフレームナンバーを改ざんした場合は正規保証外の扱いになります。

フレームナンバー

フレームナンバー (1) はステアリングカラー右側に刻印されています。

フレームナンバー ___________________

エンジンナンバー

エンジンナンバー (2) はクランクケース後方、フロントスプロケットの近くに刻印されています。

エンジンナンバー ___________________

クリック固定輪と管締め用ネジによるジョイント

⚠ 注意

メンテナンスの一環としてのみ、指定の固定輪を外すことができます。
以下の説明は車体に装備されている固定輪を任意に取り外すことを許可するものではありません。

⚠ 危険

固定輪を取り外す前に、取り外しにより液漏れの恐れがないことを確認してください。必要であれば漏れを防ぐ処置を行い、特にジョイント部を保護してください。

クリック固定輪

取り外しの際は通常のペンチを使用できますが、取り付けの際は特別の装具が必要となります (下記参照)。

取り外す前に、再度正しく取り付けるために必要な用具を備えてください。

重要： 指定の特別装具 OPT を準備します：

- 固定輪取り付け用ペンチ、31 ページ（特殊工具 OPT）参照。

⚠ 注意

再度取り付けの際、取り外したクリック固定輪を必ず同サイズの新品と交換してください。新品は aprilia 社オフィシャルディーラーまでお問い合わせ下さい。

取り外したクリック固定輪を再度取り付けようとしないでください。取り外したクリック固定輪の再使用はできません。

取り外したクリック固定輪を管締め用ネジまたは他の固定輪で代用しないでください。

⚠ 注意

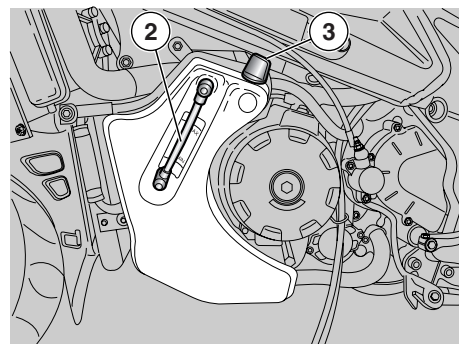
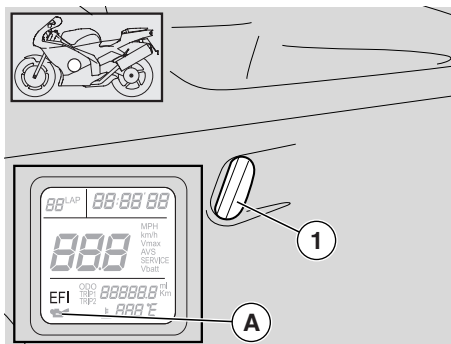
操作は慎重に行い、ジョイント部の部品を破損しないように注意してください。

◆ ペンチでクリック固定輪の頭部を外れるまで動かしてください。

管締め用ネジ

取り外しおよび取り付けは通常のドライバーで行います。

⚠ 注意

ネジの状態を確認し、必要ならば同種・同サイズのネジと交換してください。部品は aprilia 社オフィシャルディーラーまでお問い合わせ下さい。
ネジ締め付けの際は、ジョイント部の固定具合を確認してください。

エンジンオイル量の点検と補充

44 ページ（エンジンオイル）、59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい : 雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

定期的にエンジンオイル量を点検してください。また初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 10000 km (6250 mi) 走行ごとにエンジンオイルを交換してください。67 頁 (エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターの交換) 参照。

⚠ 注意

競技的な走行をすることが多い場合は 5000 km (3125 mi) ごとにエンジンオイルを交換してください。

埃の多い場所を走行した場合は、より頻繁にエンジンオイルを交換してください。

エンジンオイルの点検は次の手順で行なってください :

⚠ 注意

エンジンオイル量の点検はエンジンが温まった状態で行なう必要があります。
エンジンが冷えている状態でエンジンオイル量を点検すると、一時的にオイルの液面が“MIN”レベルよりも下がる場合があります。
この場合でもエンジンオイル警告灯“ ”(A) が点灯しなければ問題ありません。16 ページ（ メーターおよびインジケーター類 (表)）参照。

重要： エンジンの暖機を行ないエンジンオイルを動作温度まで温めるには、停止した状態でアイドリングを行なうのではなく、郊外の道路を約 15 km (10 mi) 走行するのが正しい方法です (エンジンオイルが動作温度になるまで)。

- ◆ エンジンを停止します。57 ページ（停止）参照。
- ◆ 両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。
- ◆ 左側サイドフェアリングの確認窓 (1) から、透明チューブ (2) 内のエンジンオイルの液面を確認します。

MAX = 最大レベル。

MIN = 最低レベル。

“**MAX**” と “**MIN**” の液量差は約 500 cm^3 です。

- ◆ 液面が “MAX” マーク近くまで達していれば適量です。

⚠ 注意

液面が “MAX” マークを超えないようにしてください。また決して “MIN” マーク以下にならないよう注意してください。エンジンに重大な損傷を与える危険があります。

必要な場合は次の手順でエンジンオイルを補充してください：

- ◆ 左側サイドフェアリングを取り外します。81 ページ（サイドフェアリングの取り外し）参照。
- ◆ 注入口のキャップ (3) を回して取り外します。

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

重要： 粘度 15W-50 の高品質のオイルのみ使用してください。116 ページ（指定油脂類表）参照。

- ◆ 適量になるまでタンクにエンジンオイルを補充します。116 ページ（指定油脂類表）参照。

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターの交換

⚠ 注意

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターの交換は、経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。

必要な場合は aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

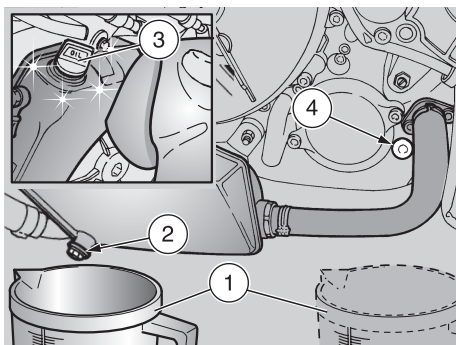
44 ページ（エンジンオイル）、59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

定期的にエンジンオイル量を点検してください。64 ページ（エンジンオイル量の点検と補充）参照。また初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 10000 km (6250 mi) 走行ごとにエンジンオイルを交換してください。

⚠ 注意

競技的な走行をすることが多い場合は 5000 km (3120 mi) ごとにエンジンオイルを交換してください。

埃の多い場所を走行した場合は、より頻繁にエンジンオイルを交換してください。

交換の手順：

重要： エンジンオイルを完全に排出させるためには、オイルが温まり滑らかになっている必要があります。通常、エンジンを稼動して約 20 分後には充分温まります。

⚠ 注意

エンジンが熱い間は、内部のオイルも高温になっています。以下の作業中に火傷をしないように充分注意してください。

◆ 左側サイドフェアリングを取り外します。81 ページ（サイドフェアリングの取り外し）参照。
◆ 汚れていない布で､キャップ(3) 付近の汚れをふき取ります。
◆ エンジンオイルタンクのドレンプラグ(2)の下に4000 cm^3以上の容量の容器(1)を置きます。
◆ ドレンプラグ(2) を回して取り外します。
◆ 注入口のキャップ (3) を回して取り外します。
◆ 数分間そのままにし､容器(1)の中へエンジンオイルを完全に排出させます。
◆ ドレンプラグ (2) のパッキンの状態を点検し必要ならば交換します。
◆ ドレンプラグ (2) を元どおり締めます。

ドレンプラグ (2) 規定締め付けトルク：15 Nm (1.5 kgm)。

◆ 容器(1) をエンジンベースの下､エンジンのドレンプラグ (4) の下に移します。
◆ ドレンプラグ(4) を回して取り外します。
◆ 数分間そのままにし､容器(1)の中へエンジンオイルを完全に排出させます。

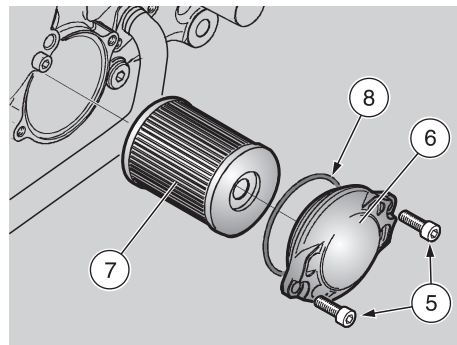
⚠ 注意

環境保護のためエンジンオイルは適切に処理してください。使用済みのオイルは密閉容器に入れ、行きつけのガソリンスタンド、オイル処理施設等へ持参して処理を依頼してください。

◆ ドレンプラグ (4) のマグネットに付着した金属片を取り除きます。
◆ ドレンプラグ (4) を元どおり締めます。

ドレンプラグ (4) 規定締め付けトルク：12 Nm (1.2 kgm)。

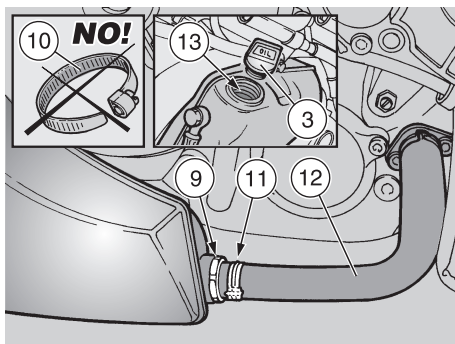
エンジンオイルフィルターの交換

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

10000 km (6250 mi) 走行ごとに(エンジンオイルの交換のたびに)、エンジンオイルフィルターを交換してください。

◆ 2 本のネジ (5) を回して取り外し、フィルターのカバー (6) を取り外します。
◆ エンジンオイルフィルター (7) を取り外します。

⚠ 注意

既に使用済みのフィルターを、再使用することは避けて下さい。

◆ 新しいエンジンオイルフィルターのパッキン (8) に薄くオイルを塗ります。
◆ 新しいエンジンオイルフィルターを取り付けます。
◆ カバー(6) を元どおり取り付け､2本のネジ (5) を締めます。

タンクフィルターの清掃

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

燃料タンク上のエンジンオイルのフィルター(7) の清掃は、初回は 1000 km(625 mi) 走行後、その後は 20000 km（12427 mi）ごと (またはエンジンオイル交換 2 回ごと) に行って下さい。

重要： 指定の特別装具 OPT を準備します：

– 固定輪取り付け用ペンチ、31 ページ（特殊工具 OPT）参照。

⚠ 注意

再度取り付けの際、取り外したクリック固定輪を必ず同サイズの新品と交換してください。新品は aprilia 社オフィシャルディーラーまでお問い合わせ下さい。
取り外したクリック固定輪を再度取り付けようとしないでください。取り外したクリック固定輪の再使用はできません。
取り外したクリック固定輪を管締め用ネジ(10)または他の固定輪で代用しないでください。

◆ クリック固定輪 (11) を外します。
◆ 管 (12) を外します。
◆ タンクフィルター(9) を回して取り外し、圧縮空気を吹き付けて汚れを取り除きます。
◆ タンクフィルター (9) のパッキンの状態を点検した後、フィルターを元どおりタンクに取り付けます。

タンクフィルター(9) 規定締め付けトルク：30 Nm (3.0 kgm)。

◆ 管 (12) を接続し、新しいクリック固定輪を取り付けます。

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

重要： 粘度 15W-50 の高品質のオイルのみ使用してください。116 ページ（指定油脂類表）参照。

◆ 注入口 (13) から約 3500 cm³ のエンジンオイルを注ぎ入れます。116 ページ（指定油脂類表）参照。
◆ 注入口のキャップ (3) を元どおり締めます。
◆ エンジンを始動します。51 ページ（エンジンの始動）参照。そのまま約 1 分間アイドリングさせ、エンジンオイル系統にオイルを行き渡らせます。
◆ エンジンオイル量を点検し、必要な場合は補充します。64 ページ（エンジンオイル量の点検と補充）参照。

エアクリーナー

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

エアクリーナーは 10000 km (6250 mi) 走行、または 12ヶ月ごとに点検してください。また、20000 km (12500 mi) 走行ごとに交換してください。埃の多い路面や濡れた路面を走行した場合にはさらに頻繁にメンテナンスを行ってください。
そのような路面を走行した後は、エアクリーナーを部分的に清掃するようお薦めします。

⚠ 注意

エアクリーナーを部分的に清掃した場合でも、規定の交換時期には必ず交換してください。エアクリーナーを取り外した状態では決してエンジンを始動しないでください。

エアクリーナーの洗浄にガソリンや可燃性溶剤を使わないでください。燃料供給系統に火災を起こす原因となり大変危険です。

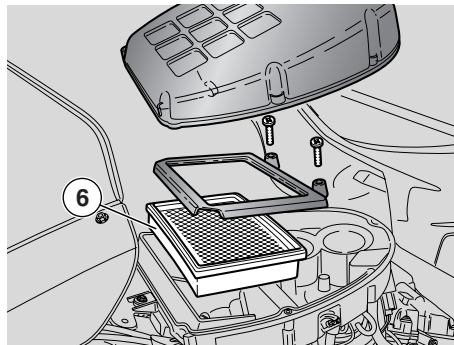
環境保護のため汚染物質やパーツは適切に処理してください。

◆ 10000 km (6250 mi) 走行ごとに、キャップ (1) を外して内容物を容器の中に排出させます。その後オイル処理施設等へ持参して処理を依頼してください。

エアクリーナーの取り外し

◆ 燃料タンクを起こします。80 ページ（燃料タンクの起こし方）参照。
◆ 7 本のネジ (2) を回して取り外します。
◆ エアクリーナーケースのカバー (3) を取り外します。
◆ 2 本のネジ (4) を回して取り外します。
◆ パッキン (5) を取り外します。
◆ エアクリーナー (6) を取り出します。
◆ ガスケット(7)の状態を点検し､損傷している場合は交換します。

⚠ 注意

開口部を清潔な布で覆って、異物が通風管に入らないようにして下さい。
エアクリーナーケースのカバー (3) を取り付ける前に、エアクリーナーケースの内部に布やその他の物が残っていないか確認してください。
全ての空気が必ずエアクリーナーを通過するよう、エアクリーナーを正しい位置に挿入してください。
エアクリーナーが損傷していたり、正しい位置に挿入されていない場合は、ピストンやシリンダーの各部品が早く摩耗する原因となりますので注意してください。

エアクリーナーの部分的な清掃

⚠ 注意

エアクリーナー (6) の金網は押したりぶつけたりしないよう注意してください。
エアクリーナーを傷つけますので、ドライバーなどの器具は使用しないでください。

◆ エアクリーナー (6) を垂直に持ち、きれいな台の上に数回叩きつけます。
◆ 必要な場合は、エアクリーナー (6) に圧縮空気を（内側から外側へ向かって）吹き付けて汚れを取り除きます。

⚠ 注意

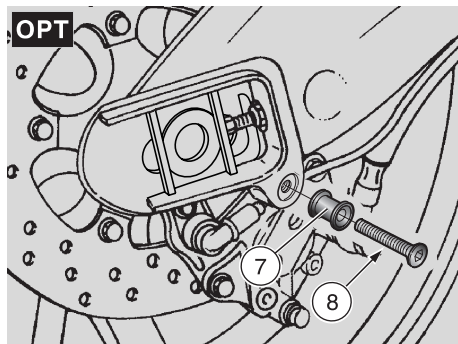
エアクリーナーの清掃の際、裂け目、損傷などがないか確認し、必要な場合は交換してください。

◆ エアクリーナー (6) の外側をきれいな布で拭きます。

エアクリーナーの交換

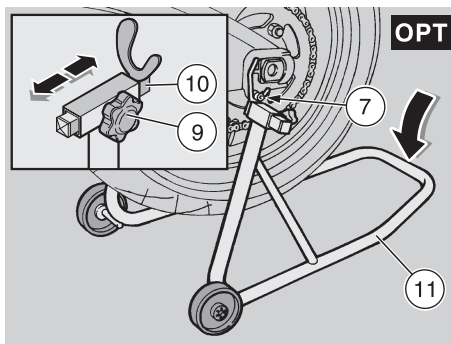
⚠ 注意

既に使用済みのフィルターを、再使用することは避けて下さい。

◆ エアクリーナー (6) を同じタイプの新品と交換します。

作業用リアスタンド付属ピンの装着 OPT

◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。

◆ ★ピン (7) をフォーク上の所定の位置にあわせます。

◆ ★ネジ (8) をフォークのネジ山のついた穴に挿入して、締めます。

作業用リアスタンド使用法 OPT

◆ 左右のフック　(7)　を取り付けます。70 ページ（作業用リアスタンド付属ピンの装着 OPT）参照。

重要： 誰かに手伝ってもらい、両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。

◆ ★ノブ (9) を緩めます。

◆ ★フォーク台（10）を動かして、幅がフォーク上の 2 つのピン（7）の幅に合うようにします。

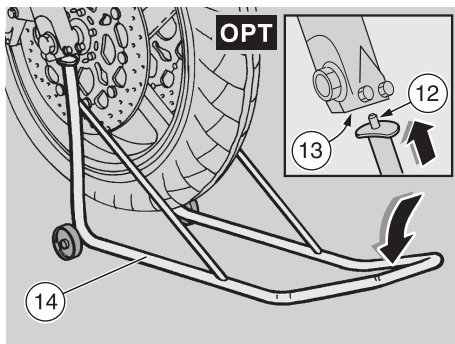
◆ ★ノブ（9）を締めます。

◆ 車体の 2 本のピン (7) の下に、左右同時に、スタンド (11) のフォーク (10) 上の所定位置にあわせて、取り付けます。

◆ リアスタンド(11)の後部端に片足を乗せます。

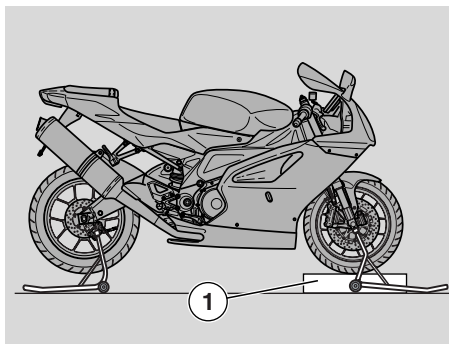
◆ 床面に着くまでリアスタンド(11) を押し下げます。

⚠ 注意

車体が安定していることを確認してください。

作業用フロントスタンド使用法 OPT

◆ 先ず作業用リアスタンドに後輪を乗せます。70 ページ（作業用リアスタンド付属ピンの装着 OPT）参照。
◆ 左右のフロントフォーク末端にあるホルダー穴 (13) に、フロントスタンド (12) の左右のホルダー部先端を同時に挿入します。
◆ フロントスタンド(14)の前部端に片足を乗せます。
◆ 床面に着くまでフロントスタンド(14)を押し下げます。

⚠ 注意

車体が安定していることを確認してください。

フロントホイール

⚠ 注意

フロントホイールの取り外しや取り付けは、経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。必要な場合は aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

フロントホイールの取り外しや再取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

⚠ 危険

ホイールが損傷した状態で走行すると、ライダー自身や他の人々、また車両の安全を損なうおそれがあります。

ホイールの状態を点検し、損傷している場合は交換を依頼してください。

取り外し

◆ フロントブレーキキャリパーを取り外します。74 ページ（フロントブレーキキャリパー）参照。
◆ フロントホイールを外した際にそのままの位置に保持するため、適当な保持台 (1) をタイヤの下に置きます。

⚠ 注意

車体が安定していることを確認してください。

◆ ハンドルが動かないように走行時の位置に保持しておいてもらいます。

アクスルシャフトナット (2) 規定締め付けトルク：80 Nm (8 kgm)。

◆ アクスルシャフトナット (2) を緩めて取り外し、ワッシャー (3) も外します。

アクスルシャフト固定ネジの規定締め付けトルク：12 Nm (1,2kgm)。

◆ 2本のアクスルシャフト固定ネジ(4)(右側)を途中まで緩めます。
◆ 2本のアクスルシャフト固定ネジ(5)(左側)を途中まで緩めます。

重要： スペーサーリング(6)(右側)の取り付け位置を確認しておいてください。再取り付けの際に参考になります。

重要： アクスルシャフトナットを楽に抜き取るには、ホイールを軽く持上げるようにしてください。

◆ アクスルシャフト(7)を抜き取るため、まず末端の方から慎重に少しだけ押します。必要な場合はゴムハンマーなどを使ってください。
◆ フロントホイールを支えながらアクスルシャフト(7)を手で抜き取ります。
◆ フロントホイールを前方へ引き抜きながら外します。

⚠ 注意

スペーサーリング(6)はホイール位置にあります。はみ出す場合は、正しい位置に付け直してください（取り付けを参照）。

フロントホイールの取り付け

◆ アクスルシャフト(7)の全長にわたって、薄くグリースを塗布します。116 ページ（指定油脂類表）参照。

⚠ 注意

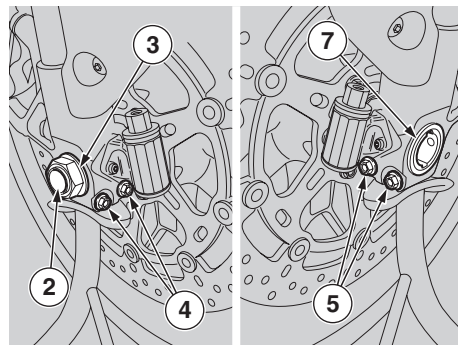
ホイール取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないよう注意してください。

重要： 以下の作業はスペーサーリング(6)が外れてしまった場合にのみ行ないます。

◆ スペーサーリング(6)を直径の大きい側が車体の外側に向くように挿入してください。

⚠ 注意

ホイールの側面には回転方向を示す矢印が付いています。
ホイール取り付けの際はこの表示が車体左側に来るように注意してください。

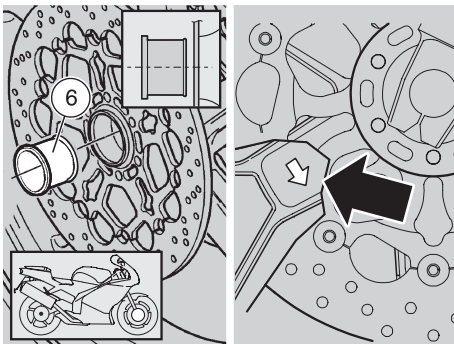
◆ 保持台(1)の上にホイールを乗せ、両側のフォークロッドの間に差し込みます。

⚠ 危険

ケガをするおそれがありますので、指を使って穴の位置出しをすることは避けてください。

◆ フロントホイールの中心をフロントフォークの穴に一致させます。
◆ 左側からアクスルシャフト(7)を完全に挿入します。

重要： アクスルシャフト(7)が最後まで完全に挿入されているか確認してください。

◆ ワッシャー(3)を元どおりに取り付け、アクスルシャフトナット(2)を手で仮締めします。

重要： この仮締めの段階では、2本のアクスルシャフト固定ネジ(5)(左側)を規定の締め付けトルクまで締める必要はありません(いっぱいに締め付けてはいけません)。

◆ アクスルシャフト(7)が回らないよう、2本のアクスルシャフト固定ネジ (5) (左側) を必要なだけ締めます。

◆ アクスルシャフトナット (2) を最後まで締め付けます。

アクスルシャフトナット (2) 規定締め付けトルク：80 Nm (8 kgm)

◆ 2 本のアクスルシャフト固定ネジ (4) (右側) を締め付けます。

アクスルシャフト固定ネジ規定締め付けトルク：12 Nm(1.2kgm)。

◆ 2 本のアクスルシャフト固定ネジ (5) (左側) を緩めます。

◆ フロントブレーキキャリパーを再び取り付けます。74 ページ（フロントブレーキキャリパー）参照。

◆ フロントブレーキレバーを引いた状態で、繰り返しハンドルバーを押し下げてフロントフォークを押し込みます。こうすることでフォークロッドが正しくセットされます。

◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。

◆ 2本のアクスルシャフト固定ネジ(5)を締め付けます (左側)。

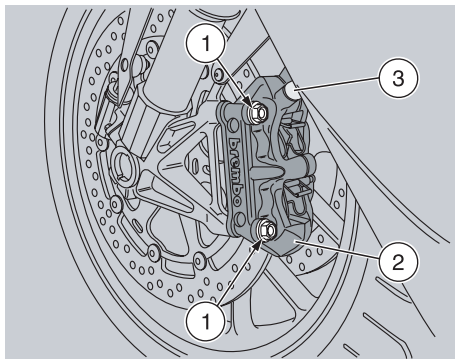
アクスルシャフト固定ネジ (5) 規定締め付けトルク：12 Nm(1.2kgm)。

◆ 以下の部品に汚れがないことを確かめて下さい：

- タイヤ
- ホイール
- ブレーキディスク

⚠ 危険

フロントホイールの取り付け後は、フロントブレーキレバーを繰り返し引いてみてブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。

各部の締め付けトルク、ホイールのセンタリング、ホイールバランスの点検は aprilia 社オフィシャルディーラーにご依頼ください。これらの不具合はライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があります。

フロントブレーキキャリパー

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

⚠ 危険

ディスクが汚れているとブレーキパッドも汚れてしまい、結果として制動力の低下をまねきます。汚れたブレーキパッドは交換し、ディスクの汚れは高品質の油落としを使って拭き取ってください。

⚠ 注意

フロントホイールの取り外しや再取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

重要： フロントブレーキキャリパーの取外しには、作業用フロントスタンド OPT および作業用リアスタンド OPT が必要です。

フロントホイールの取り外し

◆ 次に作業用フロントスタンドに前輪を乗せます。71 ページ（作業用フロントスタンド使用法 OPT）参照。

⚠ 注意

車体が安定していることを確認してください。

◆ タイヤを手で回して、ホイールの二つのやの間のスペースがブレーキキャリパーの位置にくるようにします。
◆ ハンドルが動かないように走行時の位置に保持しておいてもらいます。

ブレーキキャリパー固定ネジ (1) 規定締め付けトルク：50 Nm (5 kgm)。

◆ ★2本のブレーキキャリパー固定ネジ(1)を回して取り外します。

⚠ 注意

ブレーキキャリパーを取り外してから、ブレーキレバーを操作しないで下さい。キャリパーのピストンの位置がずれて、ブレーキオイルの漏れにつながります。
そのような場合には aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。適切な整備を行ないます。

◆ ★ブレーキホース (3) はつけたまま、ブレーキキャリパー (2) をディスクから抜き取ります。

2 つ目のブレーキキャリパーについては：

◆（★）印の作業を繰り返します。

フロントホイールの取り付け

⚠ 注意

ブレーキパッド等に損傷を与えないよう、次の作業は慎重に行なってください。

◆ ★ブレーキキャリパー (2) をディスクに組ませ、取り付け部の穴に一致するよう位置決めします。

⚠ 危険

ブレーキキャリパーの再取り付けの際は、2本のブレーキキャリパー固定ネジ(1)を同じタイプの新品と交換してください。

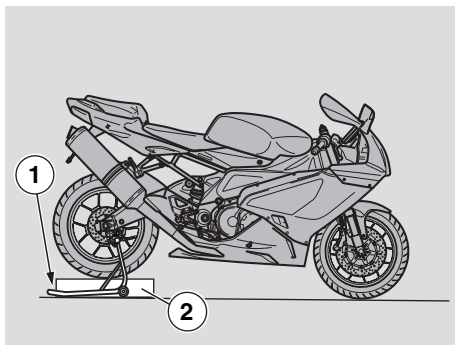
◆ ★2個のボルト(1)をキャリパーにあたるまで手で締め付けます。
◆ ★ブレーキレバーを引き、キャリパーをディスクへ適切に位置決めします。
◆ ★ブレーキレバーを引いたまま、2 個のボルト (1) を規定のトルクで締め付けます。

ブレーキキャリパー固定ネジ規定締め付けトルク：50 Nm (5 kgm)。

2 つ目のブレーキキャリパーについては：

◆（★）印の作業を繰り返します。
◆ 作業用フロントスタンド OPT を取り外します。71 ページ（作業用フロントスタンド使用法 OPT）参照。

⚠ 注意

フロントホイールの取り付け後は、フロントブレーキレバーを繰り返し引いてみてブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。

リアホイール

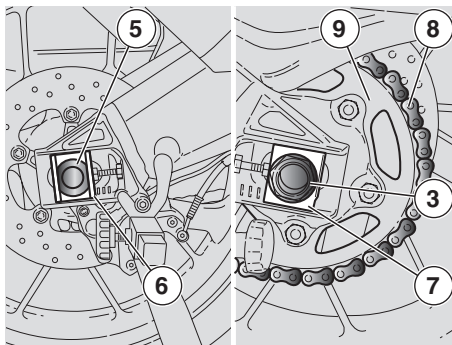
⚠ 注意

リアホイールの取り外しや取り付けは、経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。
必要な場合は aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

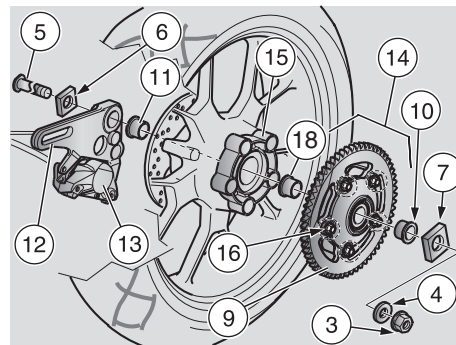
火傷の危険がありますので、以下の作業はエンジンおよびマフラーが常温に戻ってから行なってください。

リアホイールの取り外しや再取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

⚠ 危険

ホイールが損傷した状態で走行すると、ライダー自身や他の人々、また車両の安全を損なうおそれがあります。
ホイールの状態を点検し、損傷している場合は交換を依頼してください。

重要： リアホイールを取り外すには、作業用リアスタンド OPT が必要です。

リアホイールの取り外し

- ◆ 作業用リアスタンドに後輪を乗せます (1)。70 ページ（作業用リアスタンド使用法 OPT）参照。
- ◆ リアホイールを外した際にそのままの位置に保持するため、適当な保持台 (2) をタイヤの下に置きます。

アクスルシャフトナット (3) 規定締め付けトルク：120 Nm (12 kgm)。

- ◆ アクスルシャフトナット (3) を回して取り外し、ワッシャー (4) も外します。

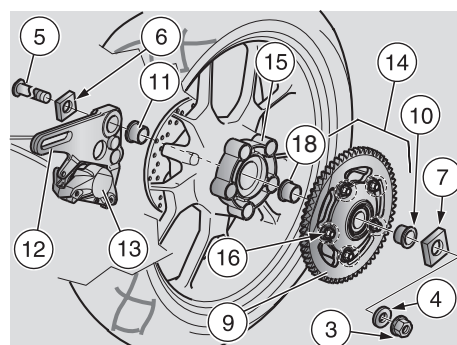
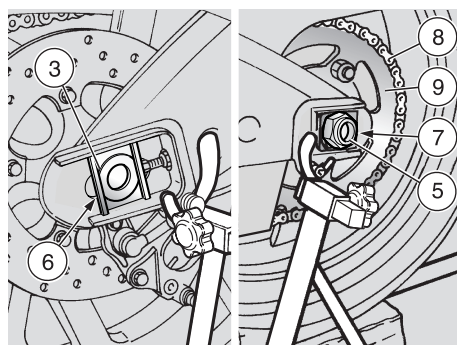
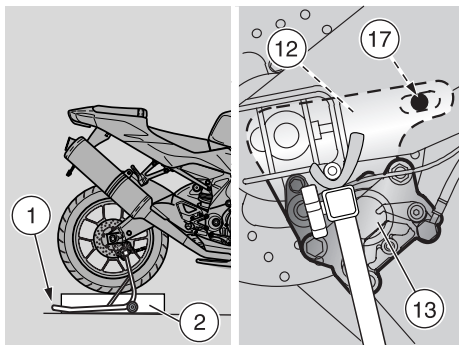
重要： アクスルシャフトナットを楽に抜き取るには、ホイールを軽く持上げるようにしてください。

- ◆ アクスルシャフト (5) を右側から抜き取ります。

重要： 後で正確に取り付けられるよう、チェーンテンショナー右側 (6) 及び左側 (7) の位置を確認しておいてください。

- ◆ チェーンテンショナー右側 (6) および左側 (7) を外します。

重要： ドライブチェーン(8)はリアスプロケット (9) の外側に外してください。

- ◆ リアホイールを少し前方へ進め、ドライブチェーン(8)をリアスプロケット(9)から外します。

◆ リアホイールを後方へ引き抜きながらスイングアームから外します。このときブレーキディスクやブレーキキャリパーに損傷を与えないように注意してください。

⚠ 注意

ホイールを取り外した後、リアブレーキレバーの操作を行わないで下さい。所定位置からピストンが外れて、ブレーキオイル漏れの危険があります。もしそうなった場合には aprilia 社オフィシャルディーラーにご連絡ください。適切な整備を行ないます。

⚠ 注意

左スペーサーリング(10)および右スペーサーリング (11) はホイールに取り付いたままです。もし外れてしまった場合には正しく取り付けなおしてください (取り付けを参照)。

重要： ブレーキキャリパー (13) の取り付けプレート(12)はスイングアームの右側に取り付いたままです。

作業は慎重に行なってください。最終トランスミッションユニット (14) が均一テンション装置カバー(15)上に取り付けられている場合は、リアホイールを裏返したり、リアスプロケット側 (A) を下にして寝かせた状態で回したりしないでください。最終トランスミッションユニットが抜け落ち、リアスプロケット (9) を損傷するおそれがあります。

重要： ホイールを走行状態のように(立てて) 置く場合や、リアスプロケット側を上にして水平に置く場合は、最終トランスミッションユニットを取り外す必要はありません。ただしどちらの場合も倒れたり裏返ったりしないことが必要です。

重要： 5 個のナット (16) は決して緩めないでください。最終トランスミッションユニットは、まとまったまま均一テンション装置カバーから抜き取ります。

◆ 両手でリアスプロケットの外周部分 (9) を持ち (B)、最終トランスミッションユニットを車軸方向に抜き取ります。

取り付け

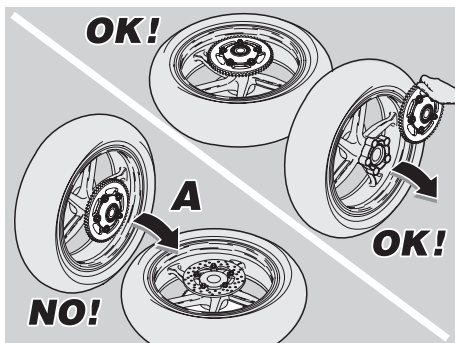
最終トランスミッションユニット(14)を取り外した場合は：

重要： 最終トランスミッションユニットは車軸方向に差し込みます。このとき均一テンション用ゴムを均一テンション装置カバー(15)の所定の位置にそれぞれ挿入してください。

◆ 両手でリアスプロケットの外周部分 (9) を持ち (C)、最終トランスミッションユニットを均一テンション装置カバー(15) に差し込みます。

⚠ 注意

最終トランスミッションユニットの取り付けの際は、スペーサー(18) が最終トランスミッションユニットから外れないように注意してください。

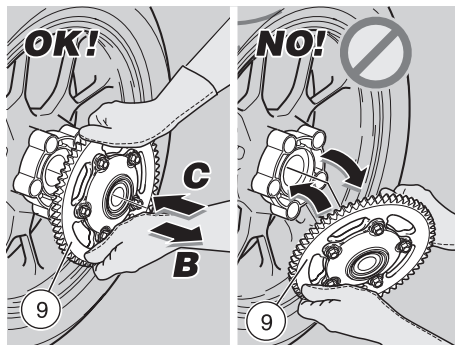
重要： 左スペーサーリング (10) 及び / または右スペーサーリング(11)が外れてしまった場合のみ、次の作業を行なってください。

◆ 左スペーサーリング (10) 及び / または右スペーサーリング(11)を直径の大きい側が車体の外側に向くように挿入してください。

⚠ 注意

リアホイールの取り付けを始める前に、ブレーキキャリパー(13)の取り付けプレート(12)が正しい位置にあるか確認してください。取り付けプレートの位置決め穴が、右側スイングアーム内側にある位置決めキー(17) にはまっていなければなりません。
ブレーキキャリパーにディスクを挿入する際は、損傷を与えないように注意してください。

◆ 保持台(2)の上にホイールを乗せ、両側のスイングアームの間に差し込みます。

⚠ 危険

チェーンとリアスプロケットの間に指をはさまないように注意してください。

◆ リアホイールを少し前方へ進め、ドライブチェーン(8)をリアスプロケット(9)にかけます。
◆ チェーンテンショナー右側 (6) および左側 (7) を、それぞれスイングアームに正しく取り付けます。
◆ アクスルシャフト (5) に均等に小量のグリースを塗布します。116 ページ（指定油脂類表）参照。

⚠ 危険

ケガをするおそれがあります。
指を使って穴の位置出しをすることは避けてください。

◆ ホイールの中心がスイングアームの穴に一致するよう、リアホイールを後方に戻します。
◆ ブレーキキャリパー(13)が取り付いたままのプレート (12) を、位置決めキー(17)を支点にして回し、ホイール中心との位置を揃えます。
◆ 右側からアクスルシャフト (5) を完全に挿入します。

重要： アクスルシャフト(5)は最後まで完全に挿入されて、頭部が左側チェーンテンショナー (7) の中に納まっていなければなりません。

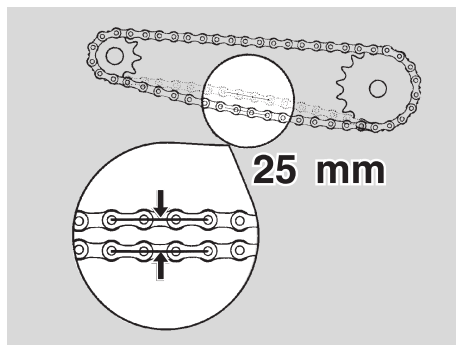
◆ ワッシャーを元どおりに取り付け、アクスルシャフトナット (3) を手で仮締めします。
◆ チェーンテンションを点検します。78 ページ（ドライブチェーン）参照。
◆ アクスルシャフトナット(3)を締めます。

アクスルシャフトナット (3) 規定締め付けトルク：120 Nm (12 kgm)。

◆ 以下の部品に汚れがないことを確かめて下さい：
- タイヤ
- ホイール
- ブレーキディスク

⚠ 注意

リアホイールの取り付け後は、リアブレーキペダルを繰り返し操作し、ブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。

各部の締め付けトルク、ホイールのセンタリング、ホイールバランスの点検は aprilia 社オフィシャルディーラーにご依頼ください。これらの不具合はライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があります。

ドライブチェーン

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

このモーターサイクルはジョイントリンクのない、エンドレスタイプのチェーンを装備しています。

⚠ 注意

ドライブチェーンが弛み過ぎると、騒音を起こしたり、チェーンが振動衝突したりした結果チェーンテンショナーやチェーンガイドを摩耗させるおそれがあります。
定期的にチェーンテンションを点検し、必要な場合は調整してください。78 ページ（チェーンテンションの調整）参照。
チェーンの交換は必ず aprilia 社オフィシャルディーラーにご依頼ください。迅速で適確なサービスをお約束します。

整備が正しく行なわれていないと、チェーンの摩耗を早めるだけでなく、フロントスプロケットおよびリアスプロケットに損傷を与えます。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

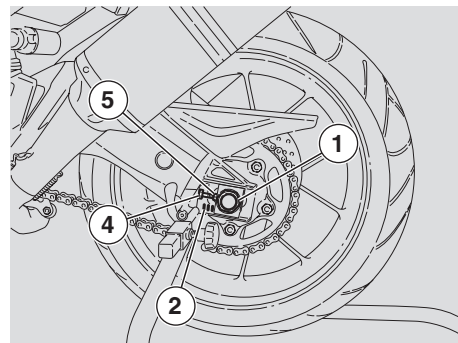
チェーンテンションの点検

チェーンテンションの点検は以下の手順で行なってください：

- ◆ エンジンを停止します。
- ◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。
- ◆ シフトペダルをニュートラルにします。
- ◆ フロントスプロケットとリアスプロケットの中間部で、下側のチェーンの振幅が約 **25 mm** であることを確認します。
- ◆ モーターサイクルを少しずつ前に進めながら、ホイールがどの位置に回転してもチェーンの振幅が常に一定あることを確認します。

⚠ 注意

ホイールの回転位置によって大きな弛みが見られる場合は、リンクが潰れているか固着しています。この場合はaprilia社オフィシャルディーラーにご相談ください。また、リンクの固着を防止するためにチェーンの潤滑を頻繁に行なってください。79 ページ（チェーンの清掃と潤滑）参照。

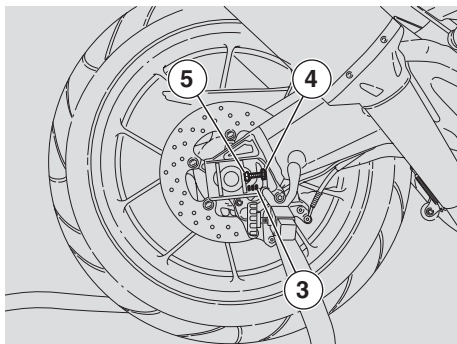
チェーンの振幅が一定であっても **25 mm** から大きく外れている場合は、チェーンテンションの調整をしてください。78 ページ（チェーンテンションの調整）参照。

チェーンテンションの調整

重要： チェーンテンションの調整には、作業用リアスタンド OPT が必要です。

チェーンテンションを点検した結果、調整が必要な場合は：

- ◆ 作業用リアスタンドに後輪を乗せます。70 ページ（作業用リアスタンド使用法 OPT）参照。
- ◆ アクスルシャフトナット (1) をいっぱいまで緩めます。

重要： 両側のスイングアーム上、チェーンテンショナーの内側、アクスルシャフトの前方に、正確なホイールセンタリングのためのポジションマーク (2-3) が設けられています。

- ◆ 2 個のロックナット (4) を緩めます。
- ◆ アジャスター (5) でチェーンテンションを調整します。この際、左右のポジションマーク (2-3) の値が一致するようにします。

◆ 2 個のロックナット (4) を締め付けます。
◆ アクスルシャフトナット (1) を締め付けます。

アクスルシャフトナット (1) 規定締め付けトルク：120 Nm (12 kgm)。

◆ チェーンテンションを点検します。78 ページ（チェーンテンションの点検）参照。

チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケットの摩耗の点検

10000 km (6250 mi) 走行ごとに点検し、チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケットに以下の症状がないことを確認してください：

- ローラーの損傷。
- ピンの緩み。
- リンクのオイル切れ、錆び、潰れ、固着。
- 極端な摩耗。
- O リングの欠如。
- 各スプロケットの歯の極端な摩耗、損傷。

⚠ 注意

チェーンのローラーの損傷、ピンの緩み、O リングの損傷・欠如等がある場合には、チェーンユニット全体（フロントスプロケット、リアスプロケット、チェーン）を交換する必要があります。
頻繁にチェーンの潤滑を行なってください。オイル切れ、錆びなどが見られる場合は特に頻繁に実施してください。
また、潰れたり固着した部分は、スムーズに動くよう潤滑と修理が必要です。
修理が不可能な場合には aprilia 社オフィシャルディーラーにチェーンの交換をご依頼ください。

チェーンの清掃と潤滑

⚠ 注意

ドライブチェーンのリンク接合部にはOリングが使われ、グリースをチェーン内部に保持しています。
従って、チェーンの潤滑、清掃、交換などの作業の際は細心の注意が必要です。

チェーンを洗浄する際は、高圧水や蒸気のジェット、可燃性の溶剤などは絶対に使用しないでください。

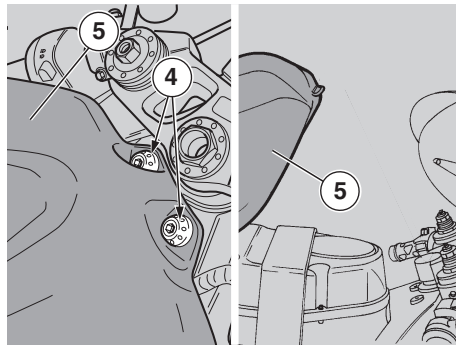
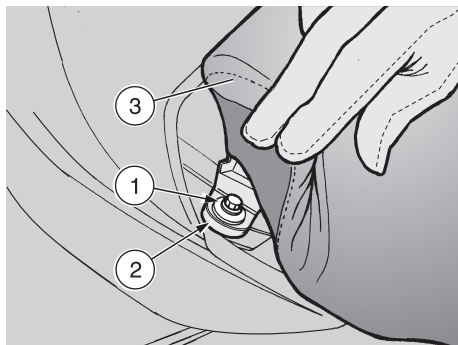
◆ チェーンをナフタまたは灯油で洗浄します。
早めに錆びてしまう場合はメンテナンスの頻度を上げてください。

チェーンの潤滑は1000 km (625 mi) 走行ごと、また必要に応じてさらに頻繁に行なってください。

◆ 洗浄後は完全に乾かし、潤滑を行ないます。必ず O リング付きチェーンに対応したスプレーグリースを使用してください。116 ページ（指定油脂類表）参照。

⚠ 注意

市販されているチェーン用グリースの中には、ゴム製の O リングに損傷を与える成分を含んだものもありますのでご注意ください。

重要： チェーンの潤滑を行なった直後はモーターサイクルを使用しないでください。遠心力によりグリースが飛び散り周囲を汚してしまいます。

ライダーシートの脱着

- ◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。
- ◆ ★シート後部の側縁を部分的にめくります。
- ◆ ★シート固定ネジ (1) を回して取り外し、ワッシャーも取り外します (2)。

シート固定ネジ (1) 規定締め付けトルク：12 Nm (1.2 kgm)。

- ◆ ★（★）印の作業はモーターサイクルの両側で行います。
- ◆ ライダーシート (3) を持ち上げて取り外します。

重要： 再取り付けの際は、シート前方の突起を正しい位置に挿入してから取り付けます。

⚠ 注意

走行前にはライダーシート (3) が確実にロックされていることを確認してください。

燃料タンクの起こし方

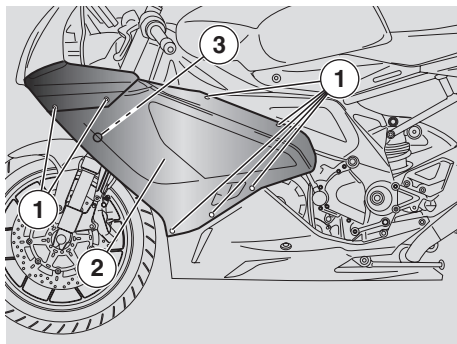
32 ページ（燃料）、59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

⚠ 危険

火災の危険があります。
エンジンとマフラーが完全に冷えるまで待ってから作業を始めてください。

燃料の気化ガスは健康に有害です。
作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。
燃料の気化ガスを吸い込まないよう注意してください。
作業場では煙草を吸ったり裸火を扱ったりしないでください。

環境保護のため燃料は適切に処理してください。

- ◆ ライダーシートを取り外します。80 ページ（ライダーシートの脱着）参照。
- ◆ サイドパネルを取り外します。82 ページ（サイドパネルの取り外し）参照。
- ◆ 燃料タンク (5) 前方の２本の固定ネジ (4) を回して取り外します。
- ◆ 燃料タンク (5) の前部を持ち上げ、適切な支えを使用して持ち上げた状態を保ちます。

サイドフェアリングの取り外し

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

⚠ 危険

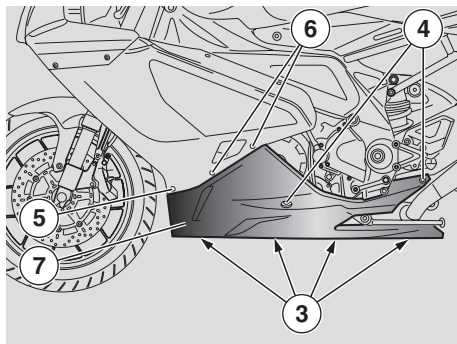
エンジンとマフラーが完全に冷えるまで待ってから作業を始めてください。

- ◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。
- ◆ 7 本のクイックリリーススクリュー (1) を緩めて取り外します。
- ◆ リベット (3) を外し、回収します。

⚠ 注意

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

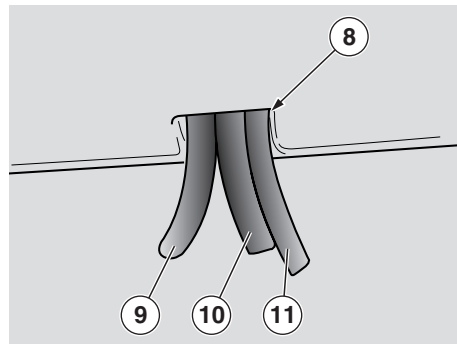
- ◆ サイドフェアリング(2) を取り外します。

重要： もう一方のサイドフェアリングも同様に取り外します。

下部フェアリングの取り外し

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

⚠ 危険

エンジンとマフラーが完全に冷えるまで待ってから作業を始めてください。

- ◆ 4 本のスクリュー (3) をゆるめて外します。
- ◆ 4 本のスクリュー(4)（右側 2 本、左側 2 本）をゆるめて外します。
- ◆ 2 本のクイックリリーススクリュー (5)（右側 1 本、左側 1 本）をゆるめます。
- ◆ 4 本のクイックリリーススクリュー (6)（右側 2 本、左側 2 本）をゆるめます。

⚠ 注意

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

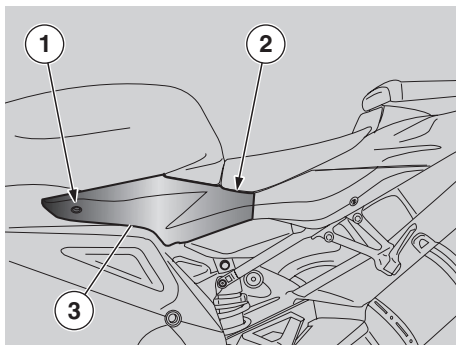
- ◆ 下部フェアリング (7) を取り外します。

重要： 取り付ける際、左側下部フェアリングの穴 (8) にチューブ (9) (10) (11) を差し込みます。

サイドパネルの取り外し

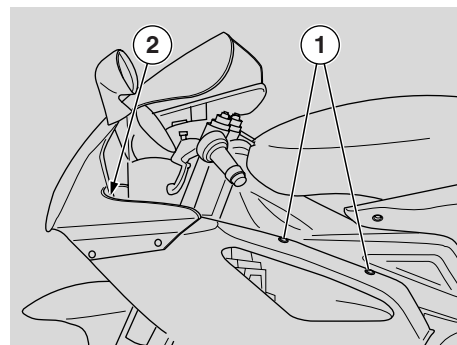
◆ 80 ページ（ライダーシートの脱着）を参照して、ライダーシートを取り外します。
◆ ネジ（1）をゆるめて取り外します。
◆ スクリュー (2) を緩めて外します (前部のスクリュー)。

⚠ 注意

プラスチック部品および塗装部品は傷つけたり損傷しないよう注意して取り扱います。

◆ サイドパネル（3）を取り外します。

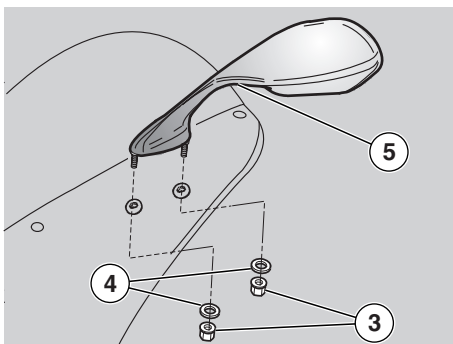
重要： リアフィッティングを取り付けるときは正しく取り付けられているかどうか確認します。

もう一方のサイドパネルも同様の手順で取り外します。

重要： パッセンジャーシートロックまたはパッセンジャーシートカバーは左側パネルに取り付けられたままです。
パネルから取り外すには、サイドパネル内側のロックからボーデンケーブルを切り離します。

フェアリング上部フロントカバーの取り外し

◆ ★2 本のスクリュー（1）をゆるめて取り外します。
◆ ★固定スクリュー（2）をゆるめて取り外します。
◆ ★サイドフェアリングを慎重に引き離し、カバーを外します。

⚠ 注意

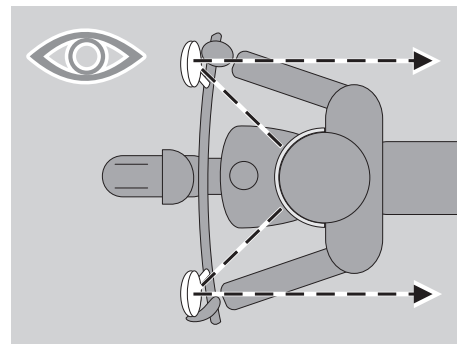
プラスチック部品および塗装部品は傷つけたり損傷しないよう注意して取り扱います。

バックミラーの取り外し

◆ターンインジケーターケーブルを切り離します。
◆2 個のナット（3）をゆるめて取り外し、ワッシャー（4）を回収します。
◆エレクトリカルコネクターに注意して、バックミラー（5）をゆるめます。

⚠ 注意

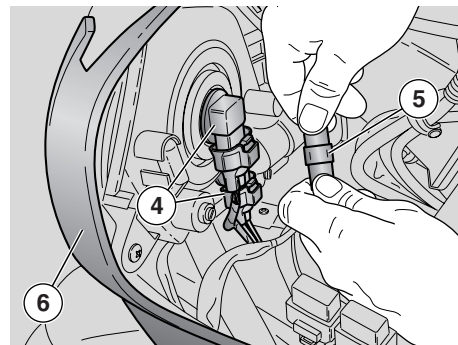
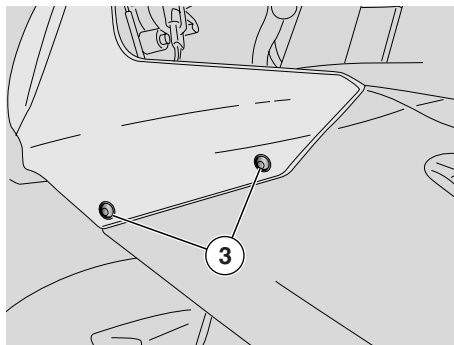
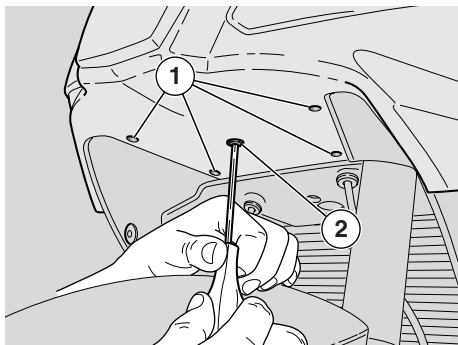
プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

◆バックミラー（5）を取り外します。

重要： もう一方のミラーも同様の手順で取り外します

⚠ 注意

バックミラーを再び取り付けるときは、ミラーを調整してナットを締め付け、所定の位置にしっかりと固定します。

取り付けが完了したら：

◆バックミラーの向きを正しく調整します。

フロントフェアリングの取り外し

◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。
◆ イグニッションスイッチを "⊗" の位置に回します。
◆ バックミラーを取り外します。82 ページ（フェアリング上部フロントカバーの取り外し）参照。
◆ マイナスドライバーを使用して 4 個のプラスチックリベット (1) をゆるめます。
◆ 中央のネジ (1) を回して取り外します。

⚠ 注意

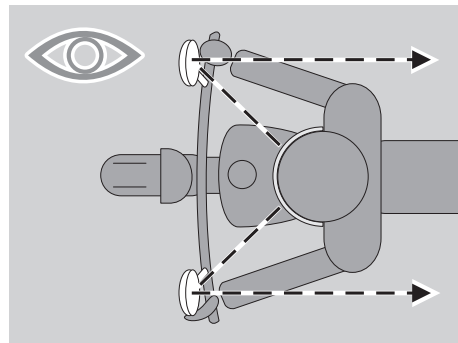
ネジ (2) はプラスチック部品上に固定されますので、再取り付けの際は強く締め過ぎないでください。

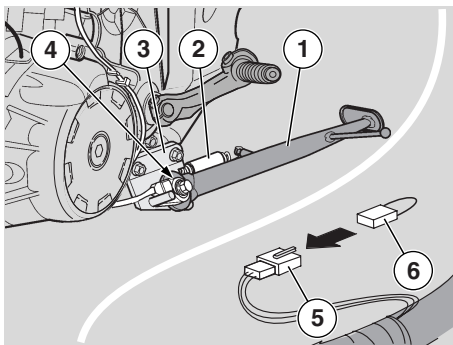
◆ ★フロントフェアリングをサイドフェアリングに固定しているスナップオンファスナー(3) をゆるめて取り外します。
◆ ★片側のフロントフェアリング上の 2 個のコネクター (4) を切り離します。
◆ ★片側のフロントフェアリング上のコネクター (5) を切り離します。
◆ フロントフェアリング (6) をヘッドランプと一体で取り外します。

⚠ 注意

再取り付けの際にはコネクター(4) と (6) が正しく接続されているか確認してください。

⚠ 注意

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

取り付けが完了したら：

◆ バックミラーの向きを正しく調整します。

サイドスタンドの取り外し

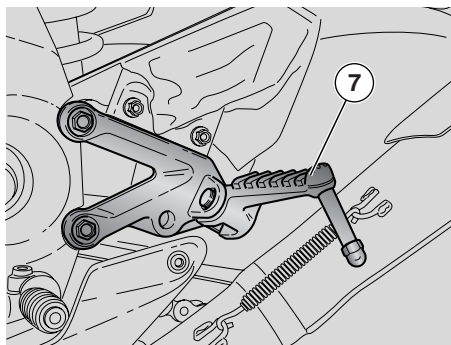
59 ページ（メンテナンス）をよくお読みください。

車体のサーキットのみの走行には、スタンドの取り外しをお勧めします。スタンド(1)は以下の部品と一緒に外します：

- ばね（2）。
- 土台（3）。
- 安全スイッチ（4）。

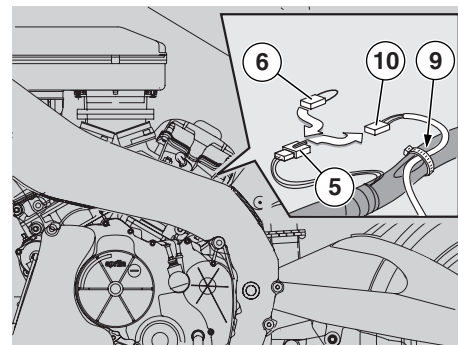
重要： 安全スイッチ（4）を外すことは電気系統の断絶を意味し、その回復には結合体（5）にケーブル（6） OPT（**aprilia** パーツ#8127544）を接続することが必要です。ケーブルをご希望の方は、**aprilia** 社オフィシャルディーラーまでお問い合わせください。

⚠ 危険

フットレストの安全ピン(7)の取り外しは、サイドスタンドを取り外した後のみ可能です。

⚠ 注意

車体を壁に立て掛けたり、地面に寝かせたりしないでください。
スタンドがない車体（サーキット使用のみ取り外し可）の駐車には、必ずリア・サポートスタンド OPT を使用してください。

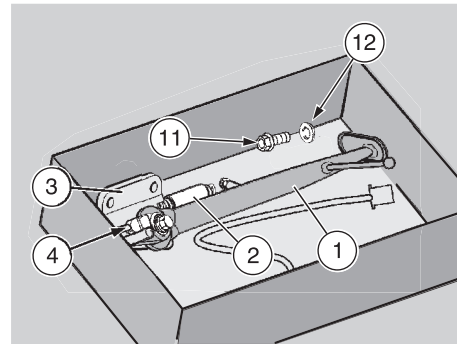
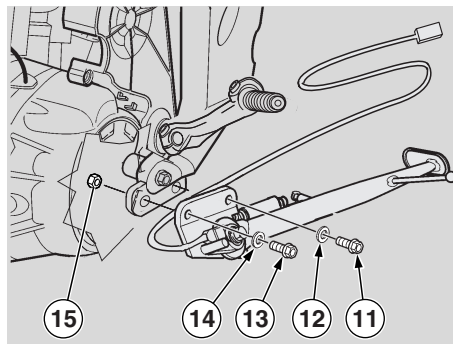
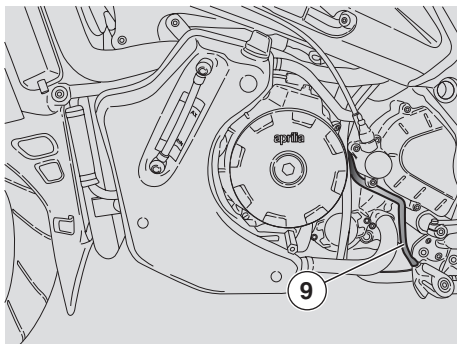
⚠ 危険

スタンド全体とは別に、安全スイッチ（4）を切ったり外したりすることは禁止されています。
安全スイッチ（4）だけを切ったり外したりすると、スタンドをおろしたままの起動および出発が可能となり、転倒の危険が高いばかりか人身および車体に重大な危害をもたらします。

取り外しには：

- ◆ 左側サイドフェアリングを取り外します。82 ページ（サイドパネルの取り外し）参照。

⚠ 注意

ケーブル、チューブ、結合部、電線を無理に引張らないでください。

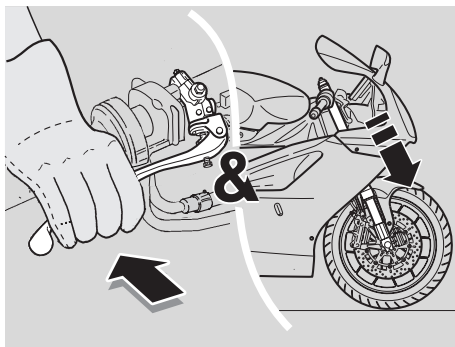
- ◆ 電気結合部（10）を結合体（5）から外します。
- ◆ [電気結合部（10）の代りに] ケーブル (6)（**aprilia** パーツ# 8127544）を接続します。

◆ ケーブル（9）を完全に抜いて外します。
◆ 燃料タンクを元どおり取り付けます。80 ページ（ 燃料タンクの起こし方 ）参照。

重要： スタンドを支えて、不慮の転倒を避けてください。

シート固定ネジ (11) と (13) 規定締め付けトルク： 40 Nm (4.0 kgm)。

◆ ネジ (11) を緩めて外し、ワッシャー(12) も外します。
◆ リアナット(15) を固定しながらネジ(13) を緩めて外します。
◆ スタンド（1）を以下の部品と一緒に外します：
– ばね（2）
– 土台（3）
– 安全スイッチ（4）。
◆ ネジ (13)、ワッシャー(14) とナット (15) を取り付ける際は、規定のトルクで締め付けてください。

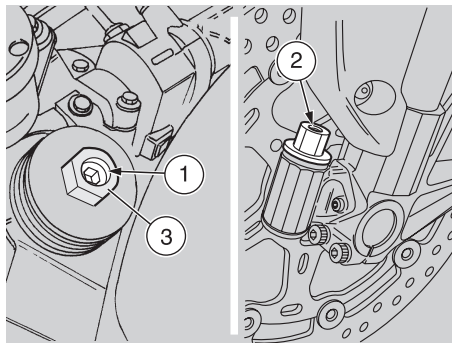
重要： 全部品は一緒に保管してください。スタンド一式、ネジ (11) およびワッシャー(12) は、路上使用の際、再度正しく取り付けるために必要です。

◆ 左側サイドフェアリングを取り付けます。81 ページ（ サイドフェアリングの取り外し ）参照。

サスペンションの点検

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

重要： フロントフォークのオイル交換は **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご依頼ください。正確で迅速なサービスをお約束します。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。
初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 10000 km (6250 mi) 走行ごとにフォークオイルを交換してください。
初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 10000 km (6250 mi) 走行ごとに、次の点検を行なってください：

- ◆ フロントブレーキレバーを引いた状態で、繰り返しハンドルバーを押し下げてフロントフォークを押し込んでみます。

フォークがゆっくり滑らかに上下し、フォークロッドにオイルが漏れていなければ正常です。

- ◆ 全ての部品の取り付けに緩みがないか、フロントおよびリアサスペンションの連結部が正常に機能しているか、確認してください。

⚠ 注意

動作になんらかの異常がある場合や専門技術者の手助けが必要な場合には、aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

フロントサスペンション

- ◆ フォークオイルシールを10000 km(6250 mi) 毎に点検し、必要に応じて清掃、潤滑、交換します。**aprilia 社オフィシャルディーラー**にご相談ください。

フロントサスペンションは、2 枚のリンクプレートでステアリングカラーに接続された油圧式フォークで構成されています。

フロントフォークの各ロッドには、車体セッティングのため次の3つの調整箇所があります。リバウンドダンピングを調整する上部ネジ (1)、コンプレッションダンピングを調整する下部ネジ (2)、スプリングプリロードを調整する上部ナット (3)。

フロントフォークの調整

⚠ 注意

調整ネジ（1-2）は、損傷を避けるため、両方向とも締め付け過ぎないように注意して下さい。左右の各ロッドは、スプリングプリロード、ダンピングとも、同じ条件に調整してください。

左右で異なる調整をすると走行時の安定性が悪くなります。

スプリングプリロードを大きくした場合はダンピングも大きくする必要があります。さもないと走行中に車体が急にはね上がることがあります。

フォーク ”R　FACTORY” タイプ

フロントフォークの標準設定は、スポーツ運転の条件を満たすように調整が成されてあります。
各利用者が車体の各自の使用にあわせて、調整を行うことが可能です。

⚠ 注意

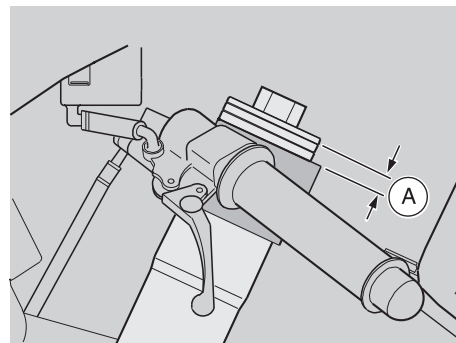
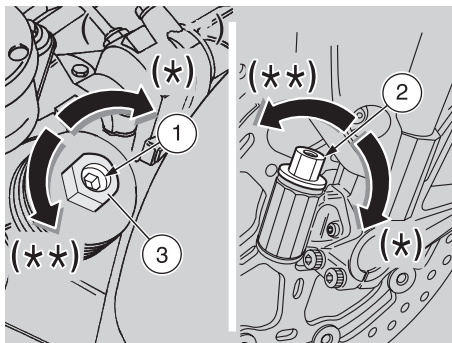
調整ネジ (1-2) のカチッという音の数を数える際、必ず、最もきつい設定 (時計回りにネジを完全に回した状態) から始めて下さい。

油圧ブレーキのコンプレッション及びリバウンド調整には、調整ネジ (1-2) を使用して下さい。

調整ネジ (1-2) をゆっくりと、一目盛りずつ回します。

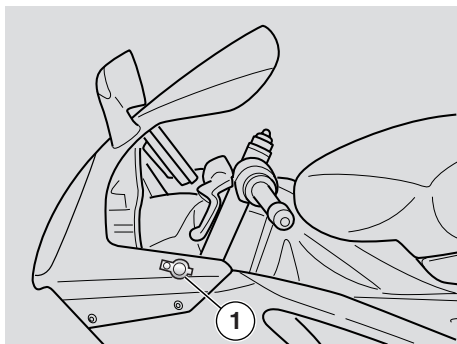
⚠ 危険

競技用走行のための調整は組織された競技会やスポーツ大会においてのみ可能であり、道路交通から隔離された場所で、管轄当局の許可のもとでのみ実施できます。

競技用走行のための調整を行った車体を道路および高速道路で走行することは、固く禁止されています。

フロントサスペンション	標準調整	スポーツ用調整
リバウンド油圧調整、ネジ (1)	いっぱいに締めた状態(*) から 12 目盛り緩める (**)	いっぱいに締めた状態 (*) から 8 ～ 10 目盛り緩める (**)
コンプレッション油圧調整、ネジ (2)		
ばねプリロード、ナット (3)	いっぱいに緩めた状態 (**) から 8 回転締める (*)	いっぱいに緩めた状態 (**) から 6 ～ 9 回転締める (*)
上部板 (A) (***) の突起 (キャップ抜き)	3 突起	4 突起

(*) = 時計回り

(**) = 反時計回り

(***) = この調整については、必ず **aprilia** 社オフィシャルディーラーにお問い合わせ下さい。

ハンドル用ショック・アブソーバー

車体 RSV R は、ハンドル・ショックアブソーバーなしで製造されています。オプションとして、調整可能タイプ (1) のハンドル・ショックアブソーバー を装備できます。ご希望の方は **aprilia 正規ディーラまでお問い合わせください。**

車体 RFACT は、調整可能タイプのハンドル・ショックアブソーバー (1) 装備で製造されています。

調整可能タイプのハンドル・ショックアブソーバー

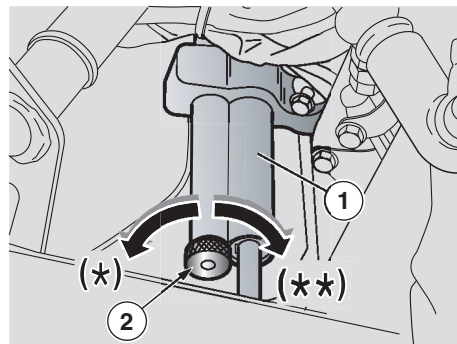
ハンドル用ショック・アブソーバー(1) は、油圧ブレーキの調整用に、ノブ (2) を装備しています (表参照)。

調整には :

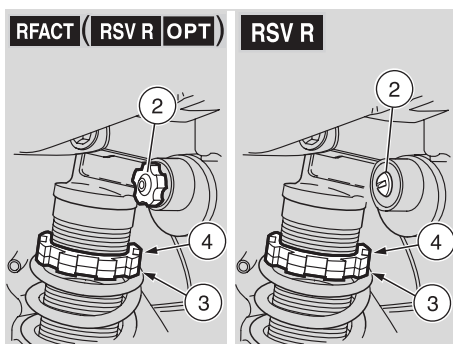
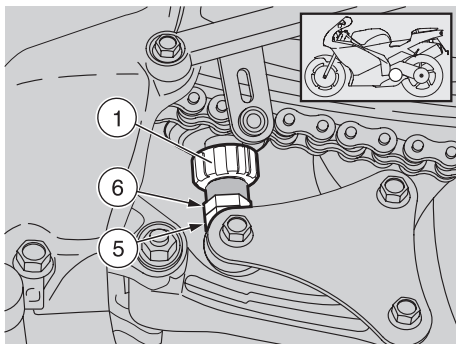
◆ 取っ手を完全に左に回します。

⚠ 注意

調整は、必ず最もきつい設定 (反時計回りにノブを完全に回した状態) から始めて下さい。

◆ 調整ノブ(2) を動かして､油圧ブレーキを調整します（表参照）。

ハンドル用ショック・アブソーバー調整可能	標準調整	スポーツ用調整	可能な調整
調整	いっぱいに締めた状態 (**) から 15 目盛り開く (*)		いっぱいに締めた状態 (**) から 2 ～ 17 目盛り開く (*)

(*) = 反時計回り

(**) = 時計回り

リアサスペンション

リアサスペンションは、ばね - ショック・アブソーバー一式から成り、フレームにはユニボールを通じて、リアフォークにはレバー装置を通じて、接続されています。

設定調整用に、ショック・アブソーバーには調整リング (1) が装備され、油圧ブレーキのリバウンド調整が行え、また、調整ノブ (2) により油圧ブレーキのコンプレッション調整を行うことができます。ばねのプリロード調整用のリング (3) およびブロック用リング (4) も装備されています。

重要： 車体のリア部分の高さを調整して、バランスを随意に変更することができます。

リアショック・アブソーバーの調整

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

20000 km (12500 mi) 走行ごとにリアショックアブソーバーを点検し、必要ならば調整します。

リアショック・アブソーバーの標準設定は、スポーツ運転の条件を満たすように調整されてあります。

各利用者が車体の各自の使用にあわせて、調整を行うことが可能です。

⚠ 注意

調整ネジ (1-2) のカチッという音の数を数える際、必ず、最もきつい設定 (時計回りにネジを完全に回した状態) から始めて下さい。
調整ネジ (1-2) の回転は、破損を防ぐため、二方向とも必要以上に回さないで下さい。

◆ レンチを利用して、固定用ネジを緩めます (4)。
◆ 調整リング (3) を動かして、ばねのプリロードを調整します (B)(表参照)。
◆ 調整が済んだら、リング (4) を締めます。
◆ リング (1) を動かして、油圧ブレーキのリバウンド調整を行います (表参照)。

“RFACT” はノブ (2) を “RSV R” はネジ (2) を動かして、油圧ブレーキのコンプレッション調整を行います (表参照)。

車体の平衡状態を変更するには：

◆ 止めナット (5) を少々緩めます。
◆ アジャスター (6)　でショックアブソーバー車高調整を行ないます(A) (表参照)。

⚠ 注意

止めナット (5) は、規定の締め付けナットにあわせて締めて下さい。

◆ 調整が済んだら、止めナット (5) を締めます。

止めナット (5) の締め付けトルク： 40 Nm (4 kgm)。

⚠ 注意

使用状況に応じてスプリングプリロードとリバウンドダンピングを調整してください。
スプリングプリロードを大きくした場合はリバウンドダンピングも大きくする必要があります。さもないと走行中に車体が急にはね上がることがあります。
必要な場合は **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

⚠ 注意

RFACT (RSV R OPT) ショックアブソーバーの正しい機能を保持するために、決してネジ **(8)** を緩めたり取り外したりしないでください。窒素が漏れて、事故の原因となり危険です。

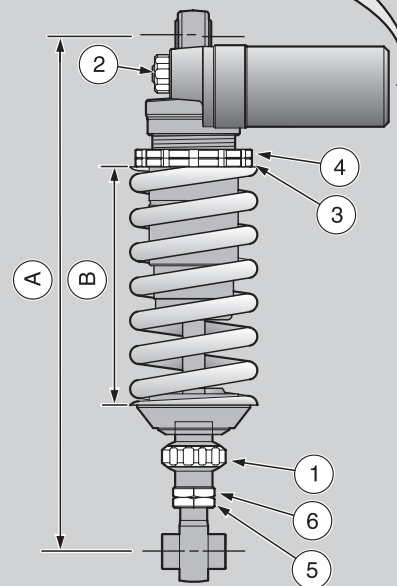
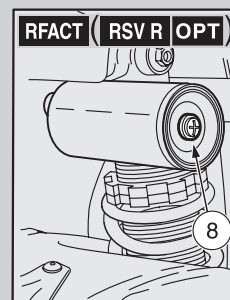
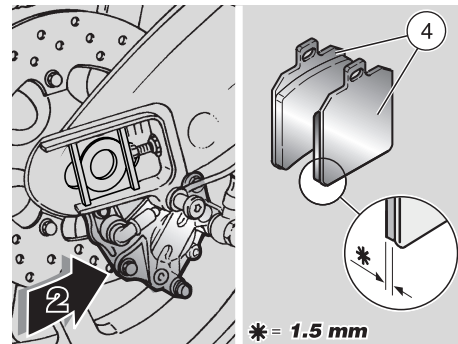
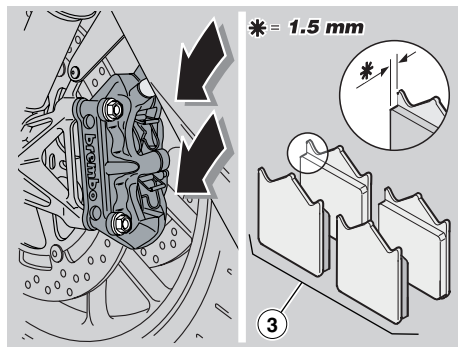
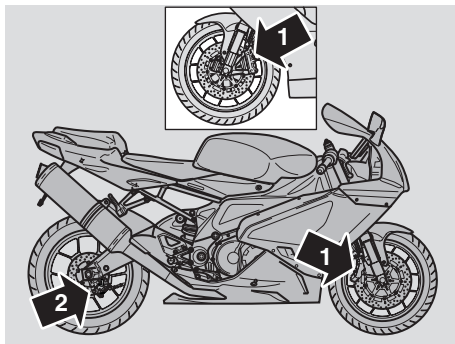
⚠ 危険

競技用走行のための調整は組織された競技会やスポーツ大会においてのみ可能であり、道路交通から隔離された場所で、管轄当局の許可のもとでのみ実施できます。

競技用走行のための調整を行った車体を道路および高速道路で走行することは、固く禁止されています。

リアサスペンション	標準調整	スポーツ用調整
ショック·アブソーバー軸間 (A)	313 ± 1.5 mm	310 から 316 mm
ばね長さ (プリロード後) (B)	– RSV R 146 mm – RFACT 145 mm	– RSV R 148 mm – RFACT 147 mm
リバウンド調整、ネジ (1)	完全に閉った状態から (*) 20 目盛り開ける (**)	いっぱいに締めた状態 (*) から開く (**) : – RSV R 12 ~ 16 目盛り – RFACT 13 ~ 16 目盛り
コンプレッション調整、“RSV R” はノブ (2)、“RFACT” は調整ノブ (2)。	いっぱいに締めた状態 (*) から開く (**) : – RSV R 1,5 回転 – RFACT 12 目盛り	いっぱいに締めた状態 (*) から開く (**) : – RSV R 1-2 回転 – RFACT 8-14 目盛り

(*) = 時計回り

(**) = 反時計回り

ブレーキパッドの摩耗の点検

33 ページ（ブレーキオイル – 注意事項）、34 ページ（ディスクブレーキ）、59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

重要： 以下の説明は一つのブレーキ系統についてですが、前後輪ともに共通です。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 2000 km (1250 mi) 走行ごと、また走行前には毎回、ブレーキパッドの摩耗を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗は使用状況、運転の仕方、道路状態などによって変わります。

⚠ 危険

走行前には毎回、必ずブレーキパッドの摩耗を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗を簡単に点検するには：

- ◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。

重要： フロントブレーキキャリパー(右および左)にはそれぞれ4つのブレーキパッドがあります。リアブレーキキャリパーには 2 つのブレーキパッドがあります。

- ◆ ブレーキキャリパーとパッドの間を覗いて摩擦面を目で点検します：
  - – 前輪の場合はブレーキキャリパー (1) の上方から後方へ向かって。
  - – 後輪の場合はブレーキキャリパー (2) の下方から前方へ向かって。

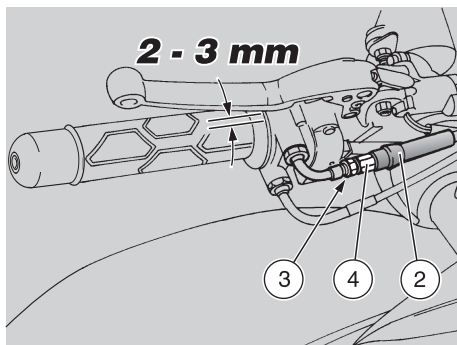
⚠ 危険

摩擦材が限度以上に摩耗すると、ブレーキパッドの金属製ホルダーが直接ディスクに触れ、その結果ブレーキングの際に金属音や火花が発生します。また、制動力が弱まり危険な他、ディスクにも損傷を与えます。

摩擦材が (たとえフロント (3) またはリア (4)1個のパッドでも) **1,5 mm**程度の厚さまでに摩耗している (もしくは摩耗の目安となる溝が 1 本でも見えなくなっている) 場合は：

- – **フロントブレーキキャリパー**(右および左) については、両方のすべてのブレーキパッドを交換します。
- – **リアブレーキキャリパーについては、**ブレーキパッドを 2 つとも交換します。

⚠ 危険

ブレーキパッドの交換は aprilia 社オフィシャルディーラーにご依頼ください。

スロットルケーブルの調整

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

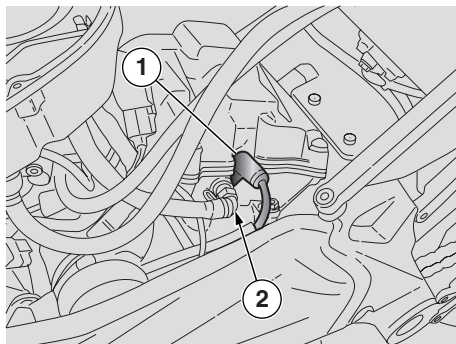
初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 10000 km (6250 mi) 走行ごとに、スロットルケーブルの点検を **aprilia 社オフィシャルディーラー**に依頼してください。

スロットルケーブルの遊びはグリップ根元の周縁で測定して**2～3 mm**が適当です。

遊びが適当でない場合は次の手順で調整してください：

- ◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。
- ◆ 保護チューブ (2) をずらします。
- ◆ ロックナット (3) を緩めます。
- ◆ 遊びが適正になるよう、アジャスター(4) を回して調整します。
- ◆ 調整後、ロックナット (3) を締め、再度スロットルケーブルの遊びを点検します。
- ◆ 保護チューブ(2) を元どおりかぶせます。

⚠ 注意

遊びを調整した後は、ハンドルをどの角度に回してもアイドリング回転数が常に一定であること、また、スロットルグリップは手を離すとスムーズに定位置に戻ることを確認してください。

スパークプラグ

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

重要： メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

⚠ 注意

すべてのスパークプラグを一つずつ、点検、清掃または交換してください。

スパークプラグは 10000 km (6250 mi) 走行ごとに点検し、また、20000 km (12500 mi) 走行ごとに交換してください。

競技的な走行をすることが多い場合は 5000 km (3125 mi) ごとにスパークプラグを交換してください。

それ以外にも定期的にスパークプラグを取り外して付着したカーボンなどを取り除き、必要な場合は交換してください。

⚠ 注意

一つでもスパークプラグの交換が必要な場合は、必ずすべてのスパークプラグを交換してください。

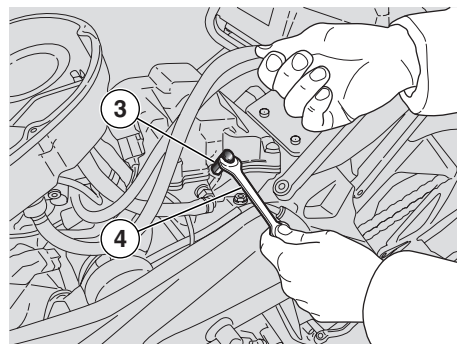
スパークプラグを取り出すには：

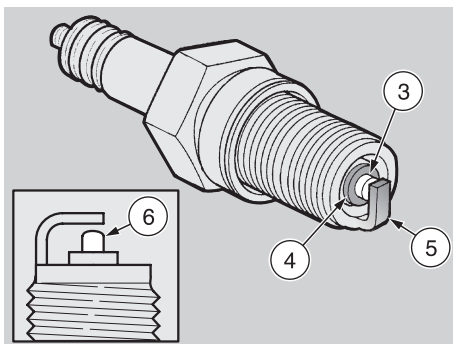
⚠ 危険

火傷の危険がありますのでエンジンおよびマフラーが室温に戻るまで冷ましてから以下の作業を始めてください。

◆ 燃料タンクを起こします。80 ページ（燃料タンクの起こし方）参照。

重要： この車両はシリンダーにそれぞれ 1 個ずつのスパークプラグを使用しています。

以下の説明は一つのシリンダーのスパークプラグについてですが、両方のシリンダーについて同様です。

取り外しには：

◆ スパークプラグ (2) からキャップ (1) を取り外します。
◆ スパークプラグベースの汚れを全て取り除きます。
◆ 工具キットにあるプラグレンチをスパークプラグにかぶせます。
◆ このプラグレンチ (3) のハウジングが六角形になっている部分に、工具キットにある 13 mm スパナをかけます。
◆ スパークプラグを回して緩め、取り出します。このときシリンダー内に埃や異物が入らないように注意してください。

スパークプラグの取り外しと清掃：

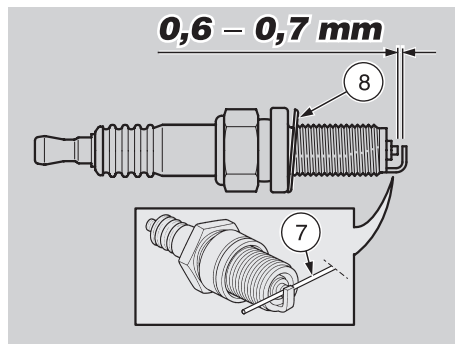
⚠ 注意

この車両のスパークプラグ電極は白金製です。清掃には金属ブラシや研磨剤などは使用せず、必ず圧縮空気のみを使用してください。

各部名称

- 中央電極 (3)、
- 絶縁碍子 (4)、
- 外側の電極 (5)。

◆ スパークプラグの電極と絶縁碍子にカーボンや錆が付着していないか確認してください。必要な場合は圧縮空気を使って清掃してください。

絶縁碍子がひび割れていたり、電極が錆びていたり、カーボンが異常に多く付着している場合、または中央電極 (3) の先端 (6) が丸まっている場合は、スパークプラグを交換してください。

⚠ 注意

スパークプラグの交換の際はネジ山のピッチと長さを確認してください。

ネジ山の部分が短すぎると、余った部分にカーボンが付着し、次に正しいスパークプラグを取り付けた際にエンジンを損傷するおそれがあります。

必ず推奨タイプのスパークプラグを使用してください。**112 ページ（ テクニカルデータ ）参照。****それ以外のスパークプラグではエンジンの性能が損なわれたり寿命が短くなったりします。白金めっきを損傷しないよう、電極間隙の測定には線式の隙間ゲージ (7) を使用してください。**

◆ 電極間隙を線式の隙間ゲージ (7) で測定します。

⚠ 注意

決して電極間隙を元に戻そうとしないでください。

電極の間隙は **0.6 ～ 0.7 mm** が適当です。それ以外の場合はスパークプラグを交換してください。

◆ ワッシャー (8) の状態も点検してください。

取り付け方法：

◆ ワッシャー (8) を取り付け、ネジ山をいためないよう注意深くスパークプラグを手でねじ込んでください。
◆ 最後に、工具キットにあるプラグレンチで 1/2 回転させワッシャーを押さえつけます。

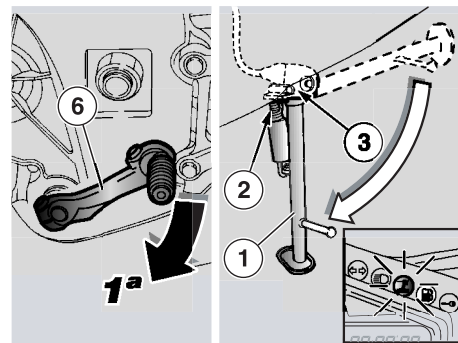
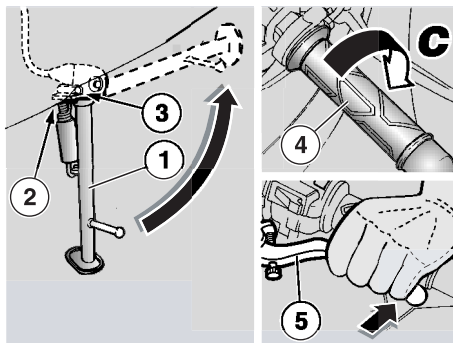
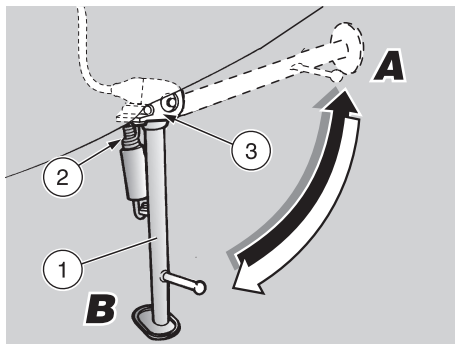
スパークプラグ規定締め付けトルク： 20 Nm (2 kgm)。

⚠ 注意

スパークプラグがしっかり締められていないと、エンジンがオーバーヒートして重大な損傷を受けることがあります。

◆ スパークプラグ (2) にキャップ (1) をエンジンの振動で外れたりしないようしっかりかぶせます。

重要： もう一つのシリンダーのスパークプラグについて同様に繰り返します。

◆ 燃料タンクを元どおり取り付けます。80 ページ（ 燃料タンクの起こし方 ）参照。

サイドスタンドの点検

59 ページ（メンテナンス）、101 ページ（マイクロスイッチ類の点検）をよく読んでください。

サイドスタンド (1) には次の 2 つのポジションがあります：

- 通常状態すなわち格納された状態 (使用していないとき) (**ポジション A**)
- 開いた状態 (使用中) (**ポジション B**)

サイドスタンドを降ろしたり格納したりするのはライダーの役割です。

サイドスタンド (1) はひっかかりなどがなくスムーズに回らなければなりません。

スプリング (2) はサイドスタンドのポジション (開いた、または格納された) を保持する役割を果たします。

以下の点検を行なってください：

◆ 先ず作業用リアスタンドに後輪を乗せます。70 ページ（作業用リアスタンド使用法㎜）参照。
◆ スプリング (2) に損傷、摩耗、錆び、劣化などがないか点検します。
◆ どちらのポジション (開いた、または格納された) でもサイドスタンドにがたつきがないか確認します。
◆ 格納された状態からサイドスタンドを開き、スプリングによって完全に開かれた状態になるか確認します。
◆ サイドスタンドを格納方向へ半分移動して放し、スプリングによって完全に格納されるか確認します。
◆ サイドスタンドがスムーズに回るか確認します。必要な場合はジョイント部の潤滑を行なってください。116 ページ（指定油脂類表）参照。

サイドスタンド (1) には安全マイクロスイッチ (3) が設けられており、ニュートラル以外のギアでサイドスタンド (1) が下がっている状態のとき、エンジンがかからないように、またはエンジンを停止するように働きます。

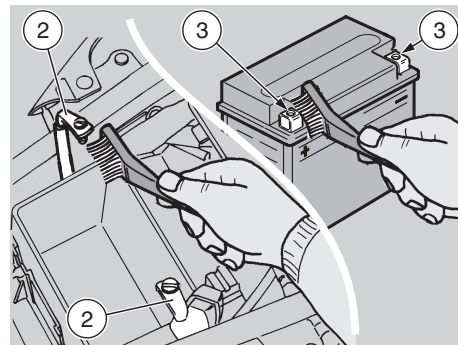
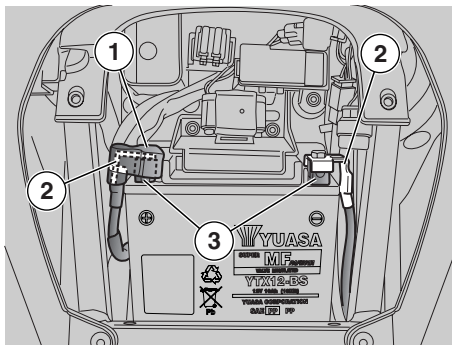
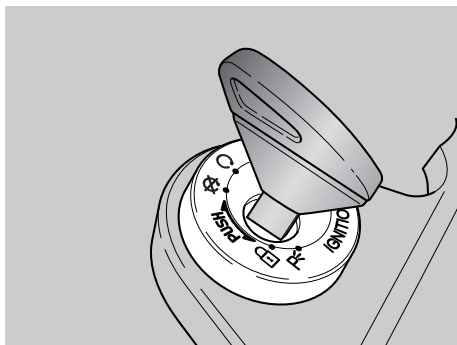
安全マイクロスイッチ (3) が正常に機能しているか確認するには：

◆ 作業用リアスタンドを取り外します。70 ページ（作業用リアスタンド使用法 OPT）参照。
◆ 乗車姿勢でシートにまたがります。
◆ サイドスタンド (1) を格納します。
◆ エンジンを始動します。51 ページ（エンジンの始動）参照。
◆ スロットルグリップ (4) を戻し (**ポジション C**)、エンジンをアイドリング状態にして、クラッチレバー (5) をいっぱいに引きます。
◆ シフトレバー (6) を下に踏み込んでギアを 1 速に入れます。
◆ サイドスタンド (1) を下げます。この時点で安全マイクロスイッチ (3) が働くはずです。

以下の点を確認してください：

- エンジンが停止すること。
- メーターパネル上のサイドスタンド・インジケーター "⚠" が点灯すること。

⚠ 注意

もしもエンジンが停止しない場合は aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

バッテリー

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

▲ 危険

火災の危険があります。
電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。
バッテリーケーブルの極性を決して逆にしないでください。

バッテリーの取り付け及び取り外しは、イグニッションスイッチを "⊗" の位置にして行ってください。部品を損傷するおそれがあります。

バッテリーケーブルを接続するときは (+) を先に、(−) を後に接続します。

ケーブルを外すときは逆の順序で外します。

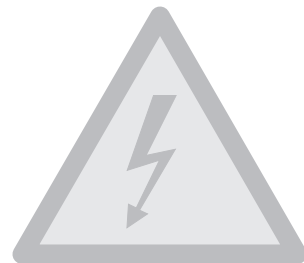
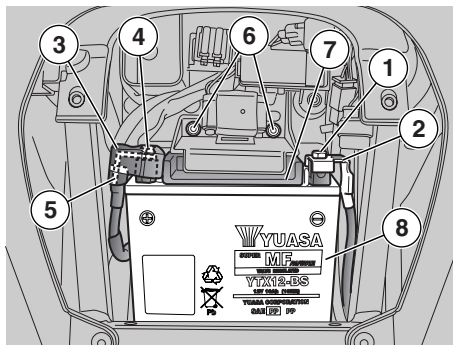
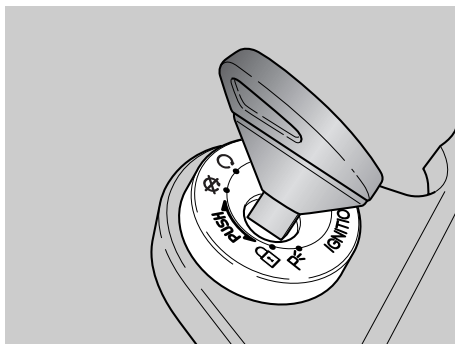
重要： このモーターサイクルはメンテナンスフリーのバッテリーを装備していますので、ときおり点検を行ない必要な場合に充電する以外はメンテナンスが不要です。

ターミナルおよび電極の点検と清掃

97 ページ（バッテリー）をよく読んでください。

◆ イグニッションスイッチが "⊗" の位置になっていることを確認します。
◆ ライダーシートを取り外します。80 ページ（ライダーシートの脱着）参照。
◆ 赤い保護キャップ (1) をずらします。
◆ バッテリーケーブルのターミナル (2) およびバッテリーの電極 (3) について次の点を確認してください：
– 損傷などがなく良い状態であること(また、錆や付着物がないこと)。
– 中性グリースまたはワセリンで保護されていること。

清掃が必要な場合は：

◆ バッテリーを取り外します。98 ページ（バッテリーの取り外し）参照。
◆ 金属ブラシを使って、ケーブルのターミナル(2)およびバッテリー電極(3)に付着した錆などをよく落とします。
◆ バッテリーを元どおり取り付けます。100 ページ（バッテリーの取り付け）参照。

バッテリーの取り外し

⚠ 注意

バッテリーを取り外すと次の設定値がリセットされます : デジタルクロック、レッドゾーン開始値。再設定の手順は 18 ページ（多機能コンピューター）参照。

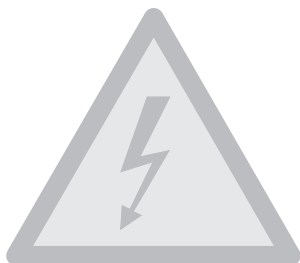
97 ページ（バッテリー）をよく読んでください。

◆ イグニッションスイッチが“⊗”の位置になっていることを確認します。
◆ ライダーシートを取り外します。80 ページ（ライダーシートの脱着）参照。
◆ (－) 電極のネジ (1) を回して取り外します。
◆ マイナス側ケーブル (2) を横方向へずらして外します。
◆ 赤い保護キャップ (3) をずらします。
◆ (+) 電極のネジ (4) を回して取り外します。
◆ プラス側ケーブル (5) を横方向へずらして外します。
◆ 2 本のネジ (6) を回して取り外します。
◆ バッテリーの固定器具 (7) を取り外します。
◆ バッテリー (8) をしっかりと掴んで持ち上げながら取り出します。

⚠ 危険

取り出したバッテリーは安全で子供の手の届かない場所に保管してください。

◆ 涼しく乾いた場所で、平らな台の上にバッテリーを置きます。
◆ ライダーシートを元の位置に取り付けます。80 ページ（ライダーシートの脱着）参照。

重要 : バッテリーの取り付け手順については、100 ページ（バッテリーの取り付け）を参照してください。

バッテリー液量の点検

97 ページ（バッテリー）をよく読んでください。

この車両はメンテナンスフリーのバッテリーを装備していますので、バッテリー液量の点検は不要です。

バッテリーの充電

97 ページ（バッテリー）をよく読んでください。

⚠ 注意

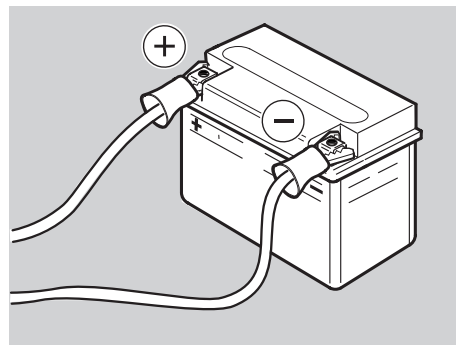
バッテリー液栓は外さないでください。バッテリーに損傷を与えます。

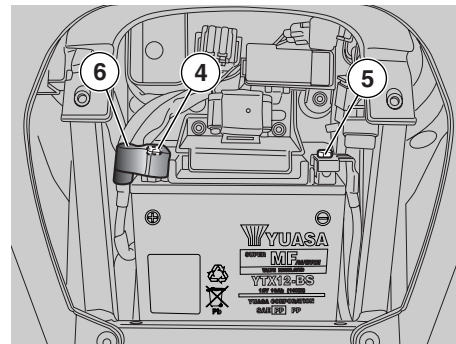
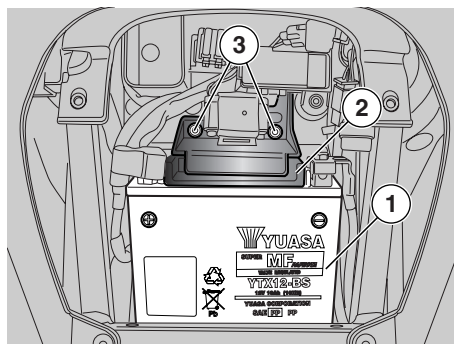
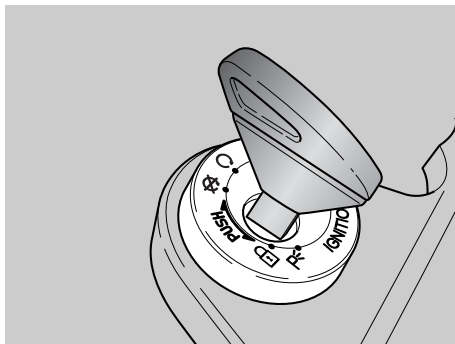
- ◆ バッテリーを取り出します。98 ページ（バッテリーの取り外し）参照。
- ◆ 適切なバッテリーチャージャーを装備します。
- ◆ 充電の種類によって、適切なバッテリーチャージャーを使用して下さい（表参照）。
- ◆ バッテリーを充電器に接続します。

⚠ 危険

バッテリー充電中や使用中は周囲の換気に注意し、充電中に発生するガスを吸わないように気をつけてください。

- ◆ バッテリーチャージャーをオンにします。

充電方式	電圧 (V)	充電電流 (A)	所要時間 (時間)
通常	12	1.0	8 ～ 10
急速	12	1.0	0.5

⚠ 危険

充電後もしばらくの間ガスが発生し続けますので、バッテリーは充電器から取り外した後 5 ～ 10 分程度待ってから取り付けてください。

バッテリーの取り付け

97 ページ（バッテリー）をよく読んでください。

◆ イグニッションスイッチが"⊠"の位置になっていることを確認します。
◆ ライダーシートを取り外します。80 ページ（ライダーシートの脱着）参照。

重要： バッテリー(1) は、それぞれの端子を車体のリアに向けて、設置して下さい。

◆ バッテリー (1) を車体に戻します。
◆ バッテリーの固定器具 (2) を元どおり取り付けます。
◆ ネジ (3) を締めます。

⚠ 危険

再取り付けの際は、先ず (+)、続いて (−) の順にバッテリーケーブルを元どおり接続します。

◆ プラス側ケーブルを (+) 電極に接続しネジ (4) を締めます。
◆ マイナス側ケーブルを(−)電極に接続しネジ (5) を締めます。
◆ ターミナルおよび電極に中性グリースまたはワセリンを塗布します。
◆ 赤い保護キャップ (6) を元どおりかぶせます。
◆ ライダーシートを元の位置に取り付けます。80 ページ（ライダーシートの脱着）参照。

⚠ 注意

バッテリーを取り外すと次の設定値がリセットされます：デジタルクロック、レッドゾーン開始値。再設定の手順は 18 ページ（多機能コンピューター）参照。

バッテリーを長期間使用しない時

⚠ 注意

20 日間以上モーターサイクルを使用しない場合は30Aヒューズを取り外してください。デジタルディスプレイがバッテリーを消耗してバッテリーが劣化するのを防ぐためです。

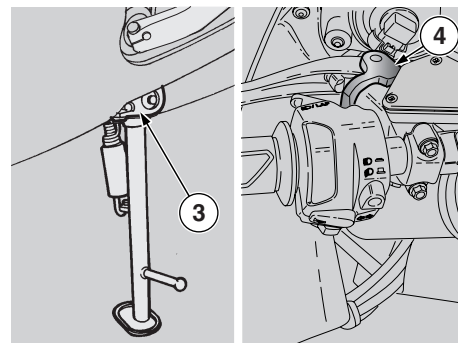
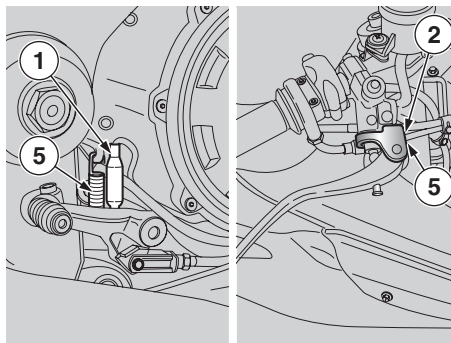
重要： 30A ヒューズを取り外すと次の設定値がリセットされます：デジタルクロック、レッドゾーン開始値。再設定の手順は 18 ページ（多機能コンピューター）参照。

15 日間以上モーターサイクルを使用しない場合は、バッテリーの硫化を防ぐため充電が必要です。99 ページ（バッテリー液量の点検）参照。

◆ バッテリーを取り出します。98 ページ（バッテリーの取り外し）参照。涼しく乾燥した場所を選んで保管してください。

特に冬期や長期間使用しない場合には、バッテリーの劣化を防ぐため定期的に (毎月 1 回程度) バッテリーの充電状態を点検し充電してください。

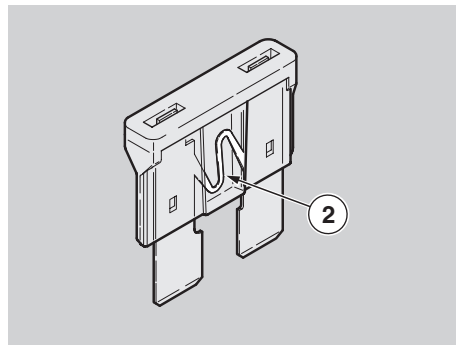
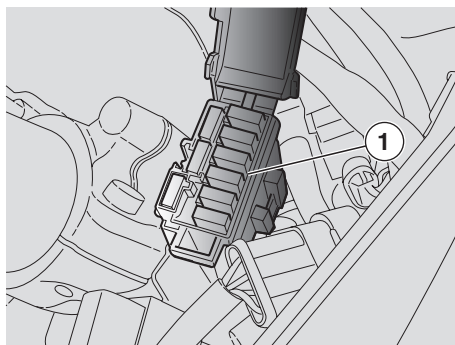
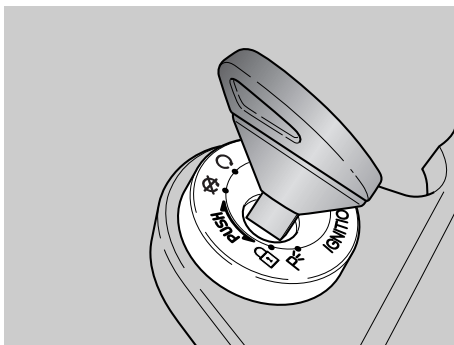
◆ 通常の充電方式でいっぱいに充電します。99 ページ（バッテリー液量の点検）参照。

モーターサイクルに搭載したままの場合は、バッテリーケーブルを電極から外してください。

マイクロスイッチ類の点検

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

このモーターサイクルには次の 4 つのマイクロスイッチが付いています：

1) リアブレーキペダル上のストップライト・マイクロスイッチ。
2) フロントブレーキレバー上のストップライト・マイクロスイッチ。
3) サイドスタンド上の安全マイクロスイッチ。
4) クラッチレバー上のマイクロスイッチ。

◆ マイクロスイッチが汚れていたり泥にまみれていないか点検してください。マイクロスイッチがスムーズに動き、自然に元の位置に戻るか確認してください。
◆ ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
◆ スプリング (5) に損傷、摩耗、劣化などがないか点検してください。

ヒューズの交換

59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

⚠ 注意

欠陥のあるヒューズを修理して使うことはやめてください。
規格に合ったヒューズ以外は決して使わないでください。
ショートした場合には電気系統に損傷を与えるだけでなく火災の危険もあります。

重要： ヒューズが頻繁に切れる場合は電気系統がショートしているか、過負荷になっている箇所があると考えられますので、**aprilia** 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

電気部品が作動しなかったり動作が不規則な場合、またはエンジンの始動ができない場合などは各ヒューズを点検してください。

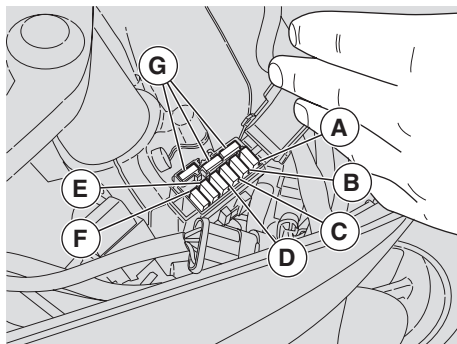
先ず 15A の二次ヒューズから点検し、その後30Aのメインヒューズを点検してください。

ヒューズの点検は次の手順で行なってください：

- ◆ 思いがけないショートを避けるため、イグニッションスイッチを "⊗" の位置に回します。
- ◆ 二次ヒューズのケース (1) のカバーを開けます。
- ◆ ヒューズを一つずつ取り出し、フィラメントが切れていないか点検します (2)。
- ◆ 切れたヒューズを交換する前に、できるだけ切れた原因を調べてください。
- ◆ ヒューズが切れている場合は同じ電流容量の新しいヒューズに交換します。

重要： 交換にスペアヒューズを使用した場合は、新品の同じヒューズを必ずその場所に補充しておいてください。

- ◆ ライダーシートを取り外します。80 ページ（ライダーシートの脱着）参照。
- ◆ 二次ヒューズに関する上記の操作と同じ操作を、主要ヒューズに関しても行って下さい。

重要： 30A ヒューズを取り外すと次の設定値がリセットされます：デジタルクロック、レッドゾーン開始値。再設定の手順は 18 ページ（多機能コンピューター）参照。

5A 二次ヒューズの遮断回路

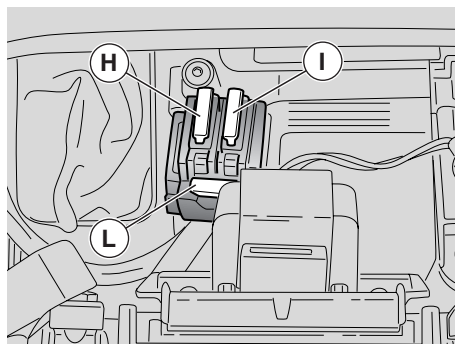
A) イグニッションキーから：
ランプリレー、ブレーキランプ、ホーン、パーキングランプ

B) イグニッションキーから：
ターンインジケーター、ダッシュボード

C) バッテリーから：
ECU に伝送されるキー ON

15A 二次ヒューズの遮断回路

D) バッテリーから：
スピードセンサー、フューエルポンプ、リレー、スターター、ラムダセンサー

E) バッテリーから：
クーリングファンリレー、コイル、フューエルインジェクター、エアインテークフラップ、カムシャフトポジションセンサー

20A 二次ヒューズの遮断回路

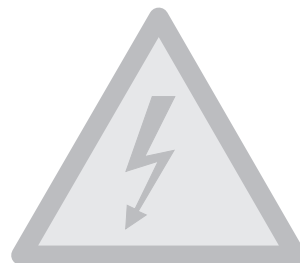
F) イグニッションスイッチから：
ハイビームランプ、ロービームランプ

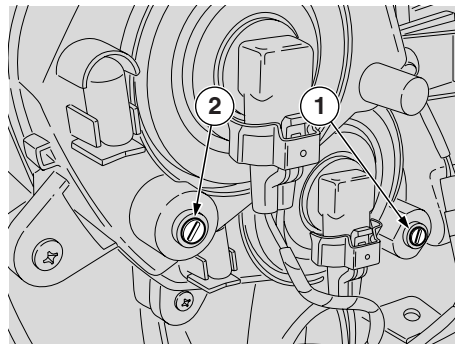
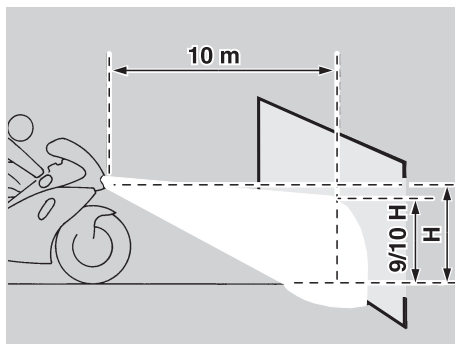
重要： 3 個の予備ヒューズ（G）が付いています。

30A メインヒューズの遮断回路

H) バッテリー充電および車両負荷（赤および赤／白ハーネス）

I) インジェクション負荷（赤および赤／白ハーネス）

重要： 1 個の予備ヒューズ（L）が付いています。

ヘッドライトの光軸調整

重要： 車体を使用する国の現行の法規定に従って、ヘッドライト調整には特定の作業を行って下さい。

◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。
◆ フロントフェアリングの左側後方から、短いプラスドライバーを使ってアジャスター (1) を回し調整します。
- 締め込む方向 (時計回り) に回すと光軸が上向きになります。
- 緩める方向 (反時計回り) に回すと光軸が下向きになります。
◆ 右側のライトも同じ作業を行ってください。

調整が終わったら：

⚠ 危険

上下方向の光軸を確認してください。

⚠ 注意

ライトには水平方向の光軸を調整するための、ネジ (2) が付いています；この調整は、法律で定められた国以外では行わないようにしてください。適正な光軸は、工場出荷時に調整してあります。

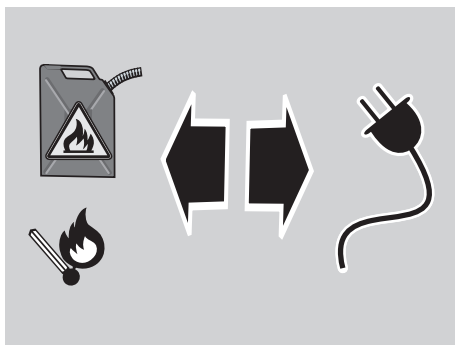
ヘッドライトの遮蔽

競技などの際にテープを使用してヘッドライトの遮蔽を行う場合には、空気冷却が行われずパラボラが加熱する恐れがありますので、ヘッドライト系のコネクターは全て外しておいてください。

⚠ 注意

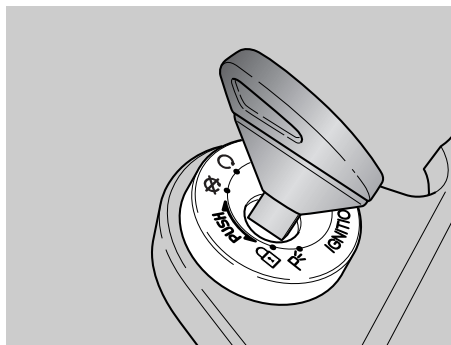
外されている配線はハンドルバーの回転の妨げにならないよう気を付け、水に触れないようにしてください。

⚠ 注意

一般道での走行を開始する前には、必ずライト系の電源をつなげ直して下さい。

バルブ

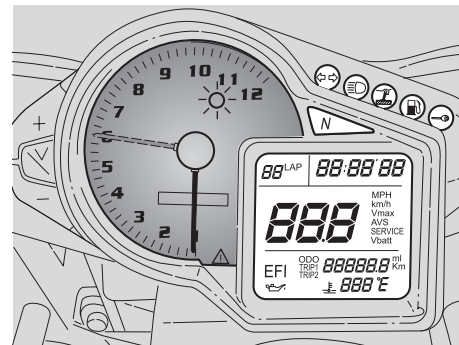
59 ページ（メンテナンス）をよく読んでください。

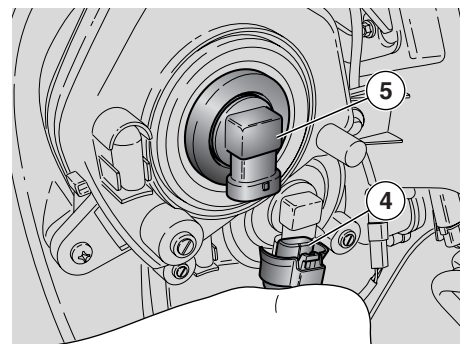
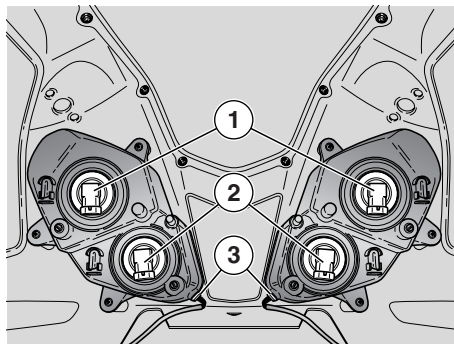
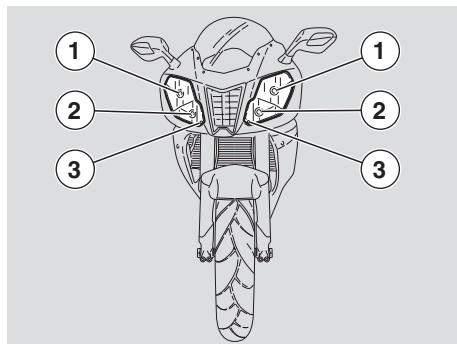
⚠ 危険

火災の危険があります。
電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

⚠ 注意

ライトバルブを交換する前にイグニッションスイッチが ”⊗” の位置に来ていることを確認し、数分間待ってバルブを冷まします。
また、きれいな手袋をはめるか、きれいな乾いた布でバルブを持つようにしてください。
バルブを指紋などで汚さないでください。バルブの過熱や破裂の原因となります。
バルブに素手で触れた場合はアルコールを使って指紋などの汚れを拭き取ってください。バルブがいたむ原因となります。

配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

重要： バルブを交換する前に各ヒューズを点検してください。102 ページ（ヒューズの交換）参照。

メーターパネルのバルブの交換

アシスタンスサービスや技術的アドバイスが必要な場合は、お気軽に **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

ヘッドライトバルブの交換

105 ページ（バルブ）をよく読んでください。

わかりやすくするため、車両からフロントフェアリングを取り外した状態で図示されています。実際は、ハイビームバルブもロービームバルブもフロントフェアリングを所定の位置に取り付けたまま交換することができます。

ヘッドライトには以下のバルブが取り付けられます。

- ハイビームバルブ（1）2 個
- ロービームバルブ（2）2 個
- パーキングランプバルブ（3）2 個

ハイビームライトバルブとロービームライトバルブは同じ形です。

ロービームライトバルブ（2）のうち一つが破損した場合、取り替えのバルブがお手元にないときは、パーキングランプバルブ（3）の 1 個と交換することができます。

ただし、これは破損したバルブの交換を意図するものではなく、新しいバルブ購入のため販売店までの走行をし易くするためのみの処置です。

バルブの交換は次の手順で行なってください：

◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。

ハイビームライトバルブおよびロービームライトバルブの交換

重要： 再取り付けの際の入れ間違いを避けるため、コネクターは一度に一つずつ取り出してください。

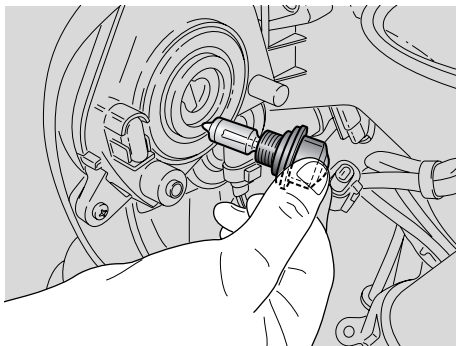
ハイビームとロービームをどうしても同時に取り外す必要がある場合は、各コネクターに目印をつけておき、再取り付けの際に確認してください。

◆ アッパーサイドカバーを取り外します。82 ページ（フェアリング上部フロントカバーの取り外し）参照。

⚠ 注意

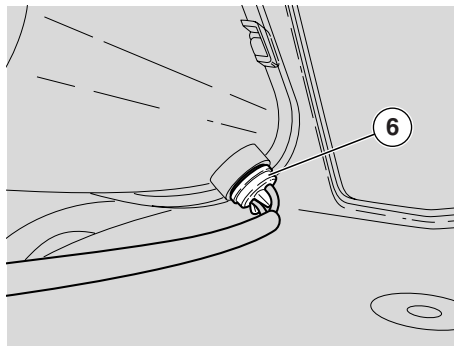
バルブソケットを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

◆ コネクター（4）を切り離します。
◆ ロッキングリングを反時計方向に回転させ、バルブホルダー（5）を引き抜きます。
◆ 同格の新品バルブを取り付けます。
◆ バルブホルダーをホルダー受けに取り付け、時計方向に回転させて所定の位置に固定します。
◆ コネクター（4）を取り付けます。

注意

バルブソケットを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

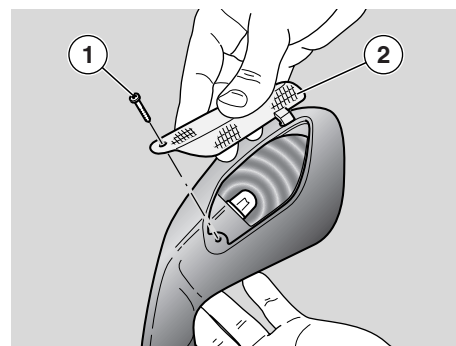
パーキングライトバルブの交換

◆ フロントフェアリングを取り外します。84 ページ（フロントフェアリングの取り外し）参照。

注意

バルブソケットを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

◆ パーキングライトのバルブソケット (6) を掴んで抜き取ります。

◆ パーキングライトバルブを抜き取り、同じタイプの新品と交換します。

重要： バルブがバルブソケットに正しく挿入されているか確認してください。

ウィンカーライトバルブの交換

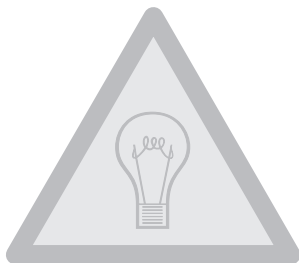
105 ページ（バルブ）をよく読んでください。

◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。

◆ ネジ (1) を回して取り外します。

注意

ウィンカーレンズを取り外す際は、はめ合せ用の突起を損傷しないよう注意してください。

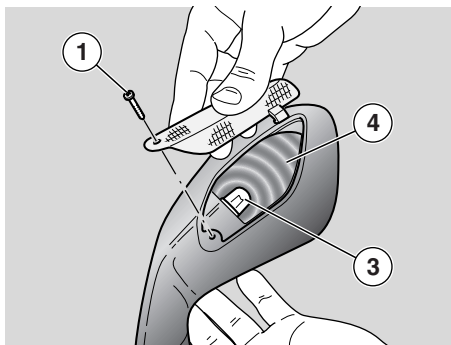
◆ ウィンカーレンズ (2) を取り外します。

⚠ 注意

再取り付けの際はレンズがスロットに正しく取り付けられていることを確認します。また、ウィンカーレンズを損傷しないよう、ネジ (1) は強く締め過ぎないでください。

◆ ウィンカーライトバルブ (3) を軽く押し込んで反時計回りに回します。
◆ ウィンカーライトバルブ (3) を抜き取ります。

⚠ 注意

バルブの2本のガイドピンをバルブソケットのガイドに合わせながら、バルブを正しく挿入してください。

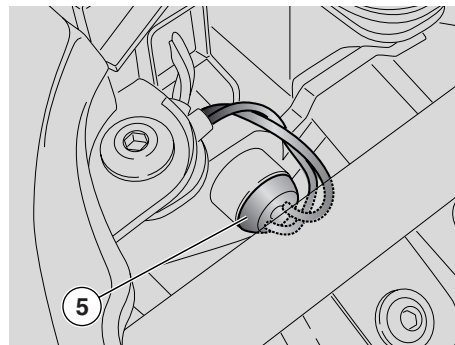
◆ 同じタイプの新品を正しく取り付けます。

⚠ 注意

リフレクター（4）が台座からはがれた場合、正しく取り付けなおします。

ナンバープレートランプバルブの交換

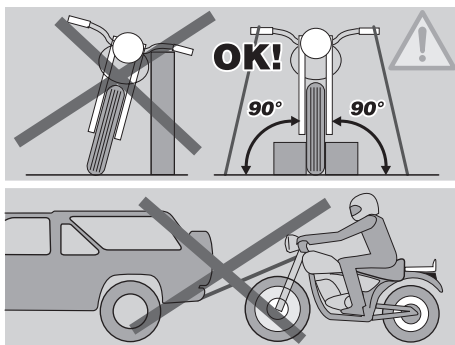
105 ページ（バルブ）をよく読んでください。

◆ スタンドを使って車体を立てます。58 ページ（スタンドの立て方）参照。
◆ パッセンジャーシート､書類/工具キット入れを取り外します。29 ページ（書類 / 工具キット入れカバーの取り外し / 取り付け）参照。

⚠ 注意

バルブソケットを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

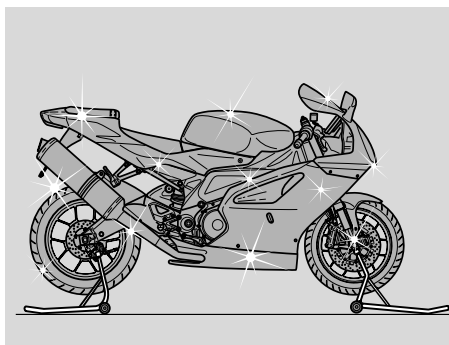
◆ ナンバープレートランプバルブ (5) を抜き取ります；
◆ 同じタイプの新品を正しく取り付けます。

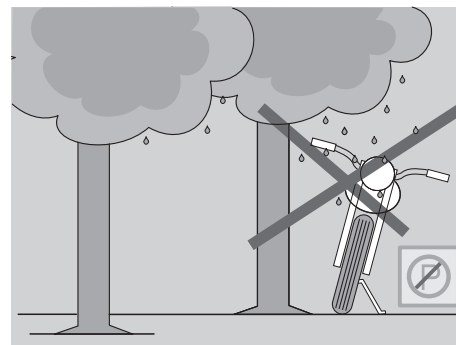
重要： バルブがバルブホルダーに正しく位置決めされていることを確認します。

輸送の際の注意事項

モーターサイクルの輸送の際は、車両は垂直の姿勢を保つようにしっかりと固定されなければいけません。燃料、オイル、冷却液の漏れを防ぐために、シフトは 1 速に入れておいてください。

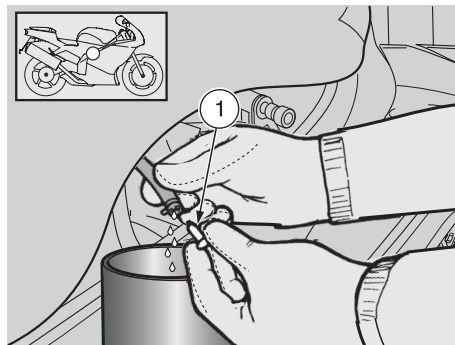
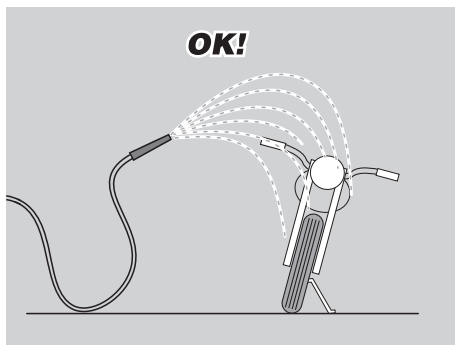
⚠ 注意

車両の不具合の際は、けん引輸送ではなく輸送車両を使用してください。

清掃

次のような特殊な地域や条件下でモーターサイクルを使用した場合は頻繁に清掃を行なってください：

- 環境汚染地域 (市街地、工場地区)。
- 塩分や湿度の高い地域 (海辺、高温、高湿の気候)。
- 環境／季節による特殊条件の地域 (冬季は道路に塩や凍結防止剤を撒く地域)。
- 車体に産業塵芥、汚染物質、タール、昆虫の死骸、鳥の糞などを残さないよう注意してください。
- 木の下には駐車しないようにしてください。季節によっては車に落ちる樹脂、木の実、葉などに含まれる物質で塗装を傷めることがあります。

⚠ 危険

洗車後は摩擦面に残った水のせいでブレーキの効きが悪くなることがあります。事故防止のため早めにブレーキをかけるようにしてください。正常な状態に戻すためにはブレーキ操作を繰り返し行なってください。

また、走行前には必ず予備点検を行なってください。50 ページ（走行前の点検）参照。

塗装面に付着した埃や泥を落とすには、弱い圧力で水を噴射して汚れた部分を充分に濡らした後、水で薄めた洗剤 (水の 2 ～ 4 %) に洗車用の柔らかいスポンジを浸して泥や汚れを拭き取ります。
さらに水で充分すすぎ落としてからセーム皮などで水分を拭き取ります。
エンジンの外部は油落とし、ブラシ、スポンジ、布などを使って清掃してください。

フォーク、リム、フレーム、ペダルなどのアルミ製のアルマイト加工または塗装部分は中性洗剤と水で洗浄しなければなりません。強すぎる洗浄剤を使用すると、これらの部品の表面加工部分に傷を付ける恐れがあります。

ﾔ後は必ず次の作業を行なってください :

- ◆ キャップ（1）を外します。
- ◆ 容器の中に内容物を排出し、その後回収所に持参してください。

⚠ 注意

ライト類の洗浄は、中性洗剤及び水を含ませたスポンジで表面を丁寧にこすり、水で充分にすすいで下さい。

シリコンワックスで磨き上げるときは、よく洗車・乾燥した後にしてください。

つや消し塗装部分には研磨剤入りのクリームを使用しないでください。

日光のあたる場所、特に夏の暑い日差しの下で車体が熱くなっている時には洗車しないでください。洗剤が洗い流す前に乾いてしまい塗装を傷めます。

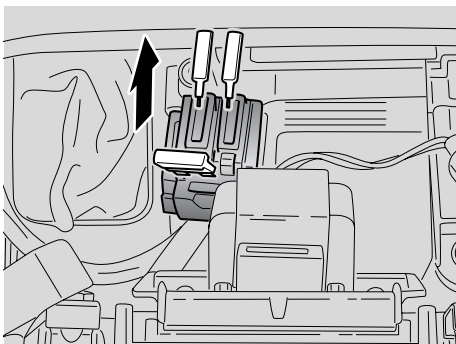
車体のプラスチック部品の清掃には、40º を超える液体は使用しないでください。

⚠ 注意

以下のような部分には高圧の水や空気、蒸気などを吹き付けないでください : ホイールハブ、左右ハンドルの各装置、ベアリング、ブレーキポンプ、メーターパネル、マフラー、書類／工具キット入れ、イグニッションスイッチ、ラジエーターのひれ、燃料タンクの栓、ライト及び配線ケーブル。

ゴム部品、プラスチック部品、シートなどの洗浄には中性石鹸を使用してください。アルコール、ベンジン、溶剤などは使わないでください。

⚠ 危険

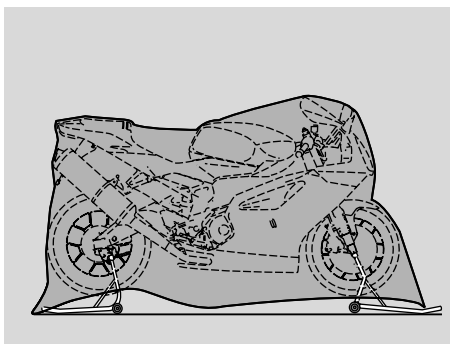
滑る危険がありますのでシートには保護ワックスなどを塗らないでください。

長期間の保管

⚠ 注意

20 日間以上モーターサイクルを使用しない場合は30Aヒューズを取り外してください。デジタルディスプレイがバッテリーを消耗してバッテリーが劣化するのを防ぐためです。

重要： 30A ヒューズを取り外すと次の設定値がリセットされます：デジタルクロック、レッドゾーン開始値。再設定の手順は 18 ページ（多機能コンピューター）参照。

長期間使用の予定がない場合は、トラブルを避けるためにいくつかの注意が必要です。

また、格納前に必要な修理と全般的な点検を必ず行なってください。そうしないと後日使用するときに忘れてトラブルを起こす原因となります。

次の作業を行なってください：

- ◆ バッテリーを取り外します。98 ページ（バッテリーの取り外し）、101 ページ（バッテリーを長期間使用しない時）参照。
- ◆ 車体を洗い乾かします。109 ページ（清掃）参照。
- ◆ 塗装面をワックスで磨きます。
- ◆ タイヤの空気圧を規定どおりにします。43 ページ（タイヤ）参照。
- ◆ 車体ホルダーなどを使ってモーターサイクルの両輪を床から浮かせます。
- ◆ 直射日光の当たらない、涼しく乾燥した温度変化の少ない場所に保管してください。
- ◆ 湿気が入らないよう、マフラーの先端にビニール袋などをかぶせて縛ります。

重要： 作業用フロントスタンド OPT および作業用リアスタンド OPT を使って両輪を床から浮かせます。

- ◆ 次に作業用フロントスタンドに前輪を乗せます。71 ページ（作業用フロントスタンド使用法 OPT）参照。
- ◆ 先ず作業用リアスタンドに後輪を乗せます。70 ページ（作業用リアスタンド使用法 OPT）参照。
- ◆ 車体にカバーをかけてください。ただしプラスチックや防水性の材質の物は避けてください。

長期間使用しなかった後では

重要： マフラー先端に被せておいたビニール袋を外してください。

- ◆ カバーを外しモーターサイクルを清掃します。109 ページ（清掃）参照。
- ◆ バッテリーの充電状態を点検します。99 ページ（バッテリーの充電）参照。その後、バッテリーをモーターサイクルに搭載します。100 ページ（バッテリーの取り付け）参照。
- ◆ 燃料タンクにガソリンを補充します。32 ページ（燃料）参照。
- ◆ 走行前の予備点検を行ないます。50 ページ（走行前の点検）参照。

⚠ 危険

交通量の少ない場所であまりスピードを上げずに、数キロ程度の試験走行を行なってください。

テクニカルデータ

寸法・重量	全長	2025 mm
	全幅	730 mm
	全高（スクリーンを含む）	1120 mm
	シート高	810 mm
	ホイールベース	1410 mm
	最低地上高	130 mm
	走行時車両重量	RSV R 213 kg - RFACT 207 kg
エンジン	形式	V990NG
	型式	2 気筒 4 サイクル、縦型 V 60 −、各気筒 4 バルブ、ツインカム方式
	気筒数	2
	総排気量	997.6 cm^3
	ボア／ストローク	97 mm / 67.5 mm
	圧縮比	11.8 ± 0.5 : 1
	始動方式	セルモーター
	アイドリング回転数	1250 ±100 回転／分 (rpm)
	クラッチ	湿式多板、左側ハンドルのクラッチレバーによる油圧制御および PPC 装置を装備
	潤滑システム	ドライサポンプ、オイルクーラー付き
	エアクリーナー	乾式フィルターパック
	冷却方式	水冷
変速装置	型式	機械式 6 段、エンジン左側のシフトペダルによる切替え
容量等	燃料タンク（リザーブ含む）	18 ﾘｯﾄﾙ
	リザーブタンク	4 ﾘｯﾄﾙ
	エンジンオイル	オイルのみ交換時 3700 cm^3 − オイルおよびオイルフィルター交換時 3900 cm^3
	フォーク用オイル "R FACTORY" タイプ	500±2.5 cm^3（各ロッドにつき）
	冷却液	2.2 ﾘｯﾄﾙ（水 50% + エチルグリコール不凍液 50%）
	乗車定員	2
	最大積載量	RSV R 180 kg − RFACT 194 kg（ライダー + パッセンジャー + 荷物）

ギア比	ギア	1 次減速比	2 次減速比	最終減速比	合計減速比
	1 速	31/60 = 1 : 1.935	15/34 = 1 : 2.267	16 / 40 = 1 : 2,500	1:10,986
	2 速		19/31 = 1 : 1.632		1:7,895
	3 速		20/26 = 1 : 1.300		1:6,290
	4 速		22/24 = 1 : 1.091		1:5,279
	5 速		25/24 = 1 : 0.960		1:4,645
	6 速		26/23 = 1 : 0.8851		1:4,280

ドライブチェーン	型式	接合部なしで密封
	モデル	525
燃料供給システム	型式	電子式燃料噴射 (Multipoint)
	ディフューザー	Ø 57 mm
燃料	ガソリン	ハイオク無鉛ガソリン、最低オクタン価95 (N.O.R.M.) および85 (N.O.M.M.)
フレーム	型式	軽合金製鋳造傾斜ダブルビーム
	キャスター	25°
	トレール	101,7 mm（フロントタイヤ 120/70 装着時）
サスペンション	フロント	倒立式テレスコピックフォーク（調整可能、油圧式）ロッド Ø 43 mm
	ストローク	120 mm
	リア	アルミニウム合金製APSシステム付きプログレッシブロッドダブルプラグスイングアーム。水空気作用ショックアブソーバー、コンプレッション / リバウンド / スプリングプリロード / 長さ調節可。
	ホイールストローク	133 mm
ブレーキ	フロント	ダブルフローティングディスク – Ø 320 mm、ラジアル固定キャリパー、4 ピストン – Ø 34 mm、4 ブレーキパッド
	リア	ディスクブレーキ – Ø 220 mm, 、2ピストン式ブレーキキャリパーØ 32 mm
ホイール	型式	アルミ製、ピン抜き取り可
	フロント	3.50 x 17“ 鋳造バージョン RSV R – 鍛造バージョン RFACT
	リア	6.00 x 17“ 鋳造バージョン RSV R – 鍛造バージョン RFACT

タイヤ

∗ = 標準品 RFACT ; ∗∗ = 標準品 RSV R　　▲ = 一般用 ; ⁜ = スポーツ用

車輪	型式	モデル	形式	寸法	推奨品		代替品	空気圧 kPa (bar)		
								▲		⁜
								ライダーのみ	ライダー及びパッセンジャー	ライダーのみ
∗∗ フロント	PIRELLI	DIABLO	CORSA	120/70–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	230 (2,3)	250 (2,5)	210 (2,1)
∗∗ リア	PIRELLI	DIABLO	CORSA	190/50–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	250 (2,5)	280 (2,8)	200 (2,0)
∗ フロント	PIRELLI	DRAGON SUPER-CORSA PRO	–	120/70–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	230 (2,3)	250 (2,5)	210 (2,1)
リア	PIRELLI	DRAGON SUPER-CORSA PRO	–	180/55–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	250 (2,5)	280 (2,8)	200 (2,0)
∗ リア	PIRELLI	DRAGON SUPER-CORSA PRO	–	190/55–ZR 17"	▲	⁜	RFACT	250 (2,5)	280 (2,8)	200 (2,0)
フロント	METZELER	SPORTTEC	M1	120/70–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	230 (2,3)	250 (2,5)	210 (2,1)
リア	METZELER	SPORTTEC	M1	180/55–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	250 (2,5)	280 (2,8)	200 (2,0)
リア	METZELER	SPORTTEC	M1	190/50–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	250 (2,5)	280 (2,8)	200 (2,0)
∗∗ フロント	METZELER	RENNSPORT	–	120/70–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	230 (2,3)	250 (2,5)	210 (2,1)
リア	METZELER	RENNSPORT	–	180/55–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	250 (2,5)	280 (2,8)	200 (2,0)
∗∗ リア	METZELER	RENNSPORT	–	190/50–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	250 (2,5)	280 (2,8)	200 (2,0)
∗∗ フロント	MICHELIN	PILOT POWER	A	120/70–ZR 17" TL	▲	–	RSV R	230 (2,3)	250 (2,5)	–
∗∗ リア	MICHELIN	PILOT POWER	T	190/50–ZR 17" TL	▲	–	RSV R	250 (2,5)	280 (2,8)	–
フロント	MICHELIN	PILOT POWER RACE	–	120/70–ZR 17"	–	⁜	RFACT	230 (2,3)	250 (2,5)	210 (2,1)
リア	MICHELIN	PILOT POWER RACE	–	190/55–ZR 17"	–	⁜	RFACT	250 (2,5)	280 (2,8)	190 (1,9)
∗∗ フロント	DUNLOP	SPORTMAX	D 208 RR	120/70–ZR 17"	–	⁜	RFACT	–	–	210 (2,1)
∗∗ リア	DUNLOP	SPORTMAX	D 208 RR	190/50–ZR 17"	–	⁜	RFACT	–	–	190 (1,9)
フロント	DUNLOP	SPORTMAX	QUALIFIER	120/70–ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	230 (2,3)	250 (2,5)	210 (2,1)
リア	DUNLOP	SPORTMAX	QUALIFIER	190/50–ZR 17"	▲	⁜	RSV R	250 (2,5)	280 (2,8)	190 (1,9)
リア	DUNLOP	SPORTMAX	QUALIFIER	180/55–ZR 17" 190/55 ZR 17"	▲	⁜	RSV R + RFACT	250 (2,5)	280 (2,8)	190 (1,9)

スパークプラグ	標準品	NGK R DCPR9E
	スパークプラグ電極間隙	0.6-0.7 mm
	抵抗値	5 kΩ
電気系統	バッテリー	12 V–10 Ah
	メインヒューズ	30 A
	二次ヒューズ	5A ,15 A, 20 A
	オルタネーター (永久磁石による)	12 V–500 W
バルブ	ロービームライト (ハロゲン)	12 V–55 W H11x2
	ハイビームライト (ハロゲン)	12 V–60 W H11x2
	フロント・パーキングライト	12 V–5 W x 2
	ウィンカーライト	12 V–10 W 橙色
	ナンバープレートライト	12 V–5 W
	リア・パーキングライト／ストップライト	LED
	タコメーター・バックライト	LED
	左側ディスプレイ・バックライト	LED
インジケーター	ニュートラルポジション・インジケーター	LED
	ウィンカーライト・インジケーター	LED
	燃料警告灯	LED
	ハイビーム・インジケーター	LED
	サイドスタンド・インジケーター	LED
	エンジンオイル警告灯	LED
	レッドゾーン・インジケーター	LED
	イモビライザー	LED

指定油脂類表

エンジンオイル (推奨品) : Agip TEC 4T, SAE 15 W - 50 。

上記推奨品以外でも、CCMC G-4 規格、A.P.I. SG 規格と同等以上の品質のメーカー品オイルを使用しても差し支えありません。

フォーク用オイル ”R FACTORY” : OHLINS 5W。

ベアリング、その他の潤滑部 (推奨品) : Agip GREASE 30。

上記推奨品以外でも、使用温度範囲 -30 ºC ～ +140 ºC、融点 150 ºC ～ 230 ºC で、防錆、耐水、耐酸化性の優れているメーカー品ベアリング用グリースを使用しても差し支えありません。

バッテリー電極の保護 : 中性グリースまたはワセリンを塗布してください。

ン用スプレーグリース (推奨品) : Agip CHAIN LUBE。

⚠ 危険

ブレーキオイルは必ず新しいものを使用して ください。メーカーの違うブレーキオイルや規格の違うオイルを混ぜないでください。

ブレーキオイル (推奨品) : Agip BRAKE 5.1, DOT 4 。

⚠ 危険

クラッチオイルは必ず新しいものを使用してください。

クラッチオイル (推奨品) : Agip BRAKE 5.1, DOT 4 。

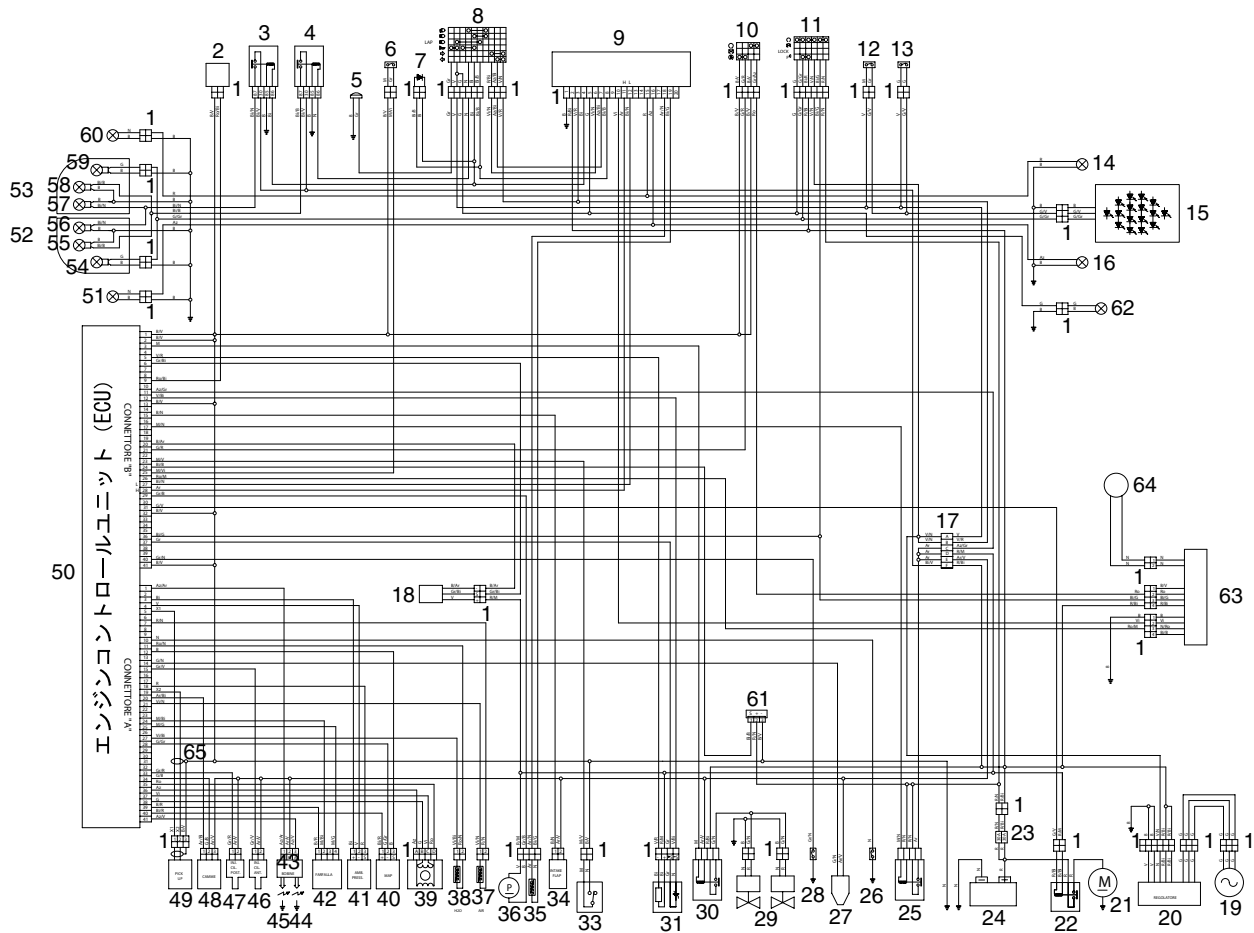
⚠ 危険

不凍液と防食剤は亜硝酸塩を含まないもので、少なくとも -35 ºC までは機能するものを使用してください。

冷却液 (推奨品) : Agip COOL。

aprilia

純正部品のみお求めください

電装図 - RSV 1000 R - RSV 1000 R FACTORY

電装図索引 - RSV 1000 R – RSV 1000 R FACTORY

1) 多極コネクター
2) フォールセンサー
3) ハイビームリレー
4) ロービームリレー
5) ホーン
6) クラッチスイッチ
7) ランプ類／ラップダイオード
8) 左ディマースイッチ
9) メーターパネル
10) 右ディマースイッチ
11) キースイッチ
12) フロントブレーキランプスイッチ
13) リアブレーキランプスイッチ
14) リア右ターンインジケーター
15) テールランプ（LED）
16) リア左ターンインジケーター
17) 補助ヒューズ
18) スピードセンサー
19) フライホイール
20) ボルテージレギュレーター
21) スターターモーター
22) スターターリレー
23) メインヒューズ
24) バッテリー
25) インジェクションリレー
26) 油圧センサー
27) パージバルブ（カリフォルニアモデルのみ）
28) ニュートラルランプスイッチ
29) クーリングファン
30) ファンリレー
31) ラムダセンサー
32) -
33) サイドスタンドスイッチ
34) インテークフラップ
35) フューエルセンサー
36) フューエルポンプ
37) エアサーミスター
38) ウォーターサーミスター
39) オートマチックチョーク
40) 吸気圧センサー
41) 大気圧センサー
42) スロットルセンサー
43) ツインコイル
44) フロントシリンダースパークプラグ
45) リアシリンダースパークプラグ
46) フロントシリンダーインジェクター
47) リアシリンダーインジェクター
48) カムシャフトセンサー
49) ピックアップ
50) エンジンコントロールユニット（ECU）
51) フロント左ターンインジケーター
52) 左ヘッドランプ
53) 右ヘッドランプ
54) 左ビームパーキングランプ
55) 左ロービームバルブ
56) 左ハイビームバルブ
57) 右ハイビームバルブ
58) 右ロービームバルブ
59) 右ビームパーキングランプ
60) フロント右ターンインジケーター
61) 診断ソケット
62) ナンバープレートランプ
63) イモビライザーコントロールユニット（イモビライザーシステム装着車両の場合）
64) イモビライザーアンテナ（イモビライザーシステム装着車両の場合）
65) ピックアップケーブルシールド

配線ケーブルの色分け

Ar オレンジ
Az 水色
B 青
Bi 白
G 黄
Gr グレー
M ブラウン
N 黒
R 赤
V 緑
Vi 紫
Ro ピンク

サービスバリュー aprilia

常に技術力の向上を図り、製品に応じた技術トレーニングを続ける **aprilia** 正規のネットワークエンジニアは、このモータサイクルのすべてに精通し、正確なメンテナンスおよび修理に必要な特殊工具を所有しています。

滑らかに走り続ける車両は信頼できる車両です。このためには乗車前の点検、推奨された間隔での適切なメンテナンス、**aprilia** 純正部品の使用が重要となります！

お近くの正規ディーラーまたはサービスセンターへの連絡は、イエローページ、または弊社ホームページ をご覧下さい：

www.aprilia.com

aprilia 純正部品は、モータサイクル設計段階で開発およびテストされた製品です。**aprilia** 純正部品は、信頼性および長期の耐用年数を保証するため、系統的な厳しい品質管理を受けています。

Piaggio & C. S.p.A. のモーターサイクルをお求めいただき有り難うございます。以下の注意をお守りください：
- 環境保護のためオイル、燃料、汚染物質などは適切に処理してください。
- 不要なときはエンジンを止めるようにしてください。
- 騒音の発生にご注意ください。
- 自然を守りましょう。